

平成25年度
岩倉市

市民意向調査報告書

岩倉市

目次

はじめに	調査の概要	1
1.	回答者のプロフィール	
1-1	性別	5
1-2	年齢	6
1-3	住まい	7
1-4	職業	8
1-5	世帯のタイプ	9
1-6	居住年数	11
1-7	世帯の構成者	12
2.	岩倉市の住みやすさ	
2-1	総合的な住みやすさの評価	15
2-2	周辺の生活環境	19
2-3	生活の場としての評価	46
2-4	定住意向	52
2-4-1	定住理由	56
2-4-2	移転理由	58
2-5	住まい周辺の住環境の問題点	60
2-6	まちづくりのルールについての考え	64
3.	岩倉市のまちづくり	
3-1	岩倉市のまちの魅力	69
3-2	施策に対する満足度と重要度	81
4.	健康・福祉	
4-1	家族の健康状態	99
4-2	健康維持・増進のための行動	102
4-3	健康づくり施策に対する要望	106
4-4	子育てや青少年の健全育成の問題点	109
4-5	子育てに関する施策への要望	114
4-6	食育に対する関心事項	119
4-7	高齢者福祉に対する要望	122
4-8	地域福祉に対する要望	125
5.	環境	
5-1	環境のための取組の状況	127
6.	防災	
6-1	緊急時の備え	131

7. 生涯学習・文化・スポーツ	
7-1 生涯学習の目的	135
7-2 生涯学習の活動状況と今後の活動意向	137
7-3 興味のある音楽ジャンル	144
7-4 市主催のコンサートの鑑賞状況	146
7-4-1 鑑賞したことがない理由	147
7-5 自身の体力の評価	148
7-6 スポーツ・運動を行う頻度	149
7-6-1 スポーツ・運動の阻害要因	152
7-7 スポーツ・運動の将来展望	156
8. 男女共同参画	
8-1 男女共同参画に関する施策への要望	157
9. 市民参画や協働によるまちづくり	
9-1 市民意見を反映した市政に重要なこと	161
9-2 市民活動や地域活動への参加状況	163
9-2-1 参加している、参加したい活動の種類	165
9-2-2 市民活動や地域活動への参加阻害要因	167
9-3 基本的な地域活動の単位	168
10. 多文化共生・平和	
10-1 多文化共生に関する施策への要望	171
10-2 平和事業に関する周知の状況	174
11. 行政経営	
11-1 岩倉市に求める行政経営	177
11-2 行政サービスと市民負担のバランス	179
12. 市政の情報提供	
12-1 市政情報提供方法ごとの利用状況	181
12-2 岩倉市の情報提供への要望	185
まとめ	191
資料編	
自由意見の回答結果	203
アンケート調査票（原票）	219

はじめに 調査の概要

はじめに 調査の概要

1. 調査の目的

岩倉市では、第4次岩倉市総合計画（平成23年度～平成32年度）を策定し、多様な縁で創る「役立ち感」に満ちた市民社会をめざしたまちづくりを推進しています。

本調査は、市民の市政に対する評価や要望を把握し、これまでの市政全般の成果を検証し、今後の市政運営に反映するための基礎資料を得ることを目的として実施したものです。

なお、調査票の設計にあたっては、過去に実施した市民意向調査結果との比較分析ができるように配慮しました。

2. 調査対象者

平成25年8月1日現在で、岩倉市に在住している20歳以上の市民から、4,000人（定住外国人184人を含む）を層化無作為にて抽出しました。

3. 調査実施方法

調査対象者へ郵送により配布し、回収しました。

4. 調査実施期間

平成25年8月9日～平成25年8月30日

5. 調査票の回収状況

回収状況を見ると、配布数4,000に対して回収数は2,229で、回収率は55.7%でした。

表0-1 調査票の回収状況（小学校区別）

	配布数	回収数	回収率（%）
全体	4,000	2,229	55.7
岩倉北小学校区	1,159	676	58.3
岩倉南小学校区	743	419	56.4
岩倉東小学校区	535	247	46.2
五条川小学校区	559	302	54.0
曾野小学校区	1,004	544	54.2
無回答	—	41	—

表0-2 調査票の回収状況（年齢別）

	配布数	回収数	回収率 (%)
全体	4,000	2,229	55.7
20歳代	510	192	37.6
30歳代	728	343	47.1
40歳代	737	367	49.8
50歳代	563	337	59.9
60歳代	669	455	68.0
70歳以上	793	505	63.7
無回答	—	30	—

6. 標本誤差の範囲

標本誤差の範囲は、結果との比率の関係から以下の式で表すことができます。

$$\sigma = k \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

M : 母集団
n : 回収数
p : 結果の比率
k : 信頼度による定数
 σ : 標本誤差

ここで信頼度を95%でとると、定数*k*は1.96となるので、これをもとに誤差を算定すると、下表のようになります。

表0-3 標本誤差の範囲（小学校区別）（±%）

<i>p</i> （結果の比率）	10%・90%	20%・80%	30%・70%	40%・60%	50%・50%
全体	1.22	1.62	1.86	1.99	2.03
岩倉北小学校区	2.25	2.99	3.43	3.67	3.74
岩倉南小学校区	2.86	3.81	4.37	4.67	4.77
岩倉東小学校区	3.73	4.98	5.70	4.98	6.22
五条川小学校区	3.37	4.50	5.15	5.51	5.62
曾野小学校区	2.51	3.34	3.83	4.09	4.18

表0-4 標本誤差の範囲（年齢別）（±%）

<i>p</i> （結果の比率）	10%・90%	20%・80%	30%・70%	40%・60%	50%・50%
全体	1.22	1.62	1.86	1.99	2.03
20歳代	4.24	5.65	6.47	6.92	7.06
30歳代	3.17	4.22	4.84	5.17	5.28
40歳代	3.06	4.08	4.68	5.00	5.10
50歳代	3.20	4.26	4.88	5.22	5.33
60歳代	2.75	3.66	4.20	4.49	4.58
70歳以上	2.61	3.48	3.98	4.26	4.35

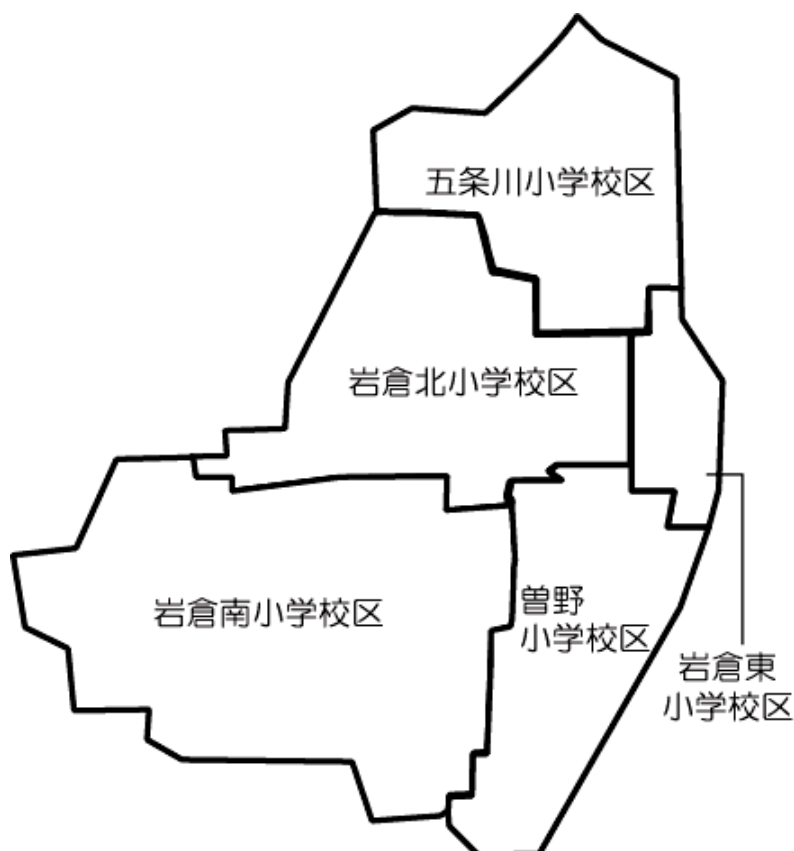
7. 報告書の見方について

- ・グラフ及び本文中については、小数点以下第2位を四捨五入した数値としています。
- ・クロス集計の場合、設問が単数回答の時は帯グラフとし、複数回答の時は集合横棒グラフとしています。
- ・サンプル数については、帯グラフの場合は図中左に、集合横棒グラフの場合は凡例内に表示しました。
- ・クロス集計における「無回答」は省略していますので、各項目のサンプル数の合計と全体のサンプル数は一致していません。
- ・図中の構成比(%)は、帯グラフ、集合横棒グラフとも小数点以下第2位を四捨五入していますので、帯グラフの場合でも構成比の合計は、必ずしも100.0%にはなりません。
- ・複数回答(集合横棒グラフ)の場合、割合(%)の合計は、100.0%を超える場合があります。
- ・グラフで回答0.0%について、表記はありません。

8. 地域区分

地域の分析には、主として小学校区を用いました。なお、小学校区界の位置関係は、図0-1に示したとおりです。

図0-1 小学校区界図



1. 回答者のプロフィール

1. 回答者のプロフィール

1-1 性別

(問1) あなたの性別を教えてください。【〇は1つだけ】

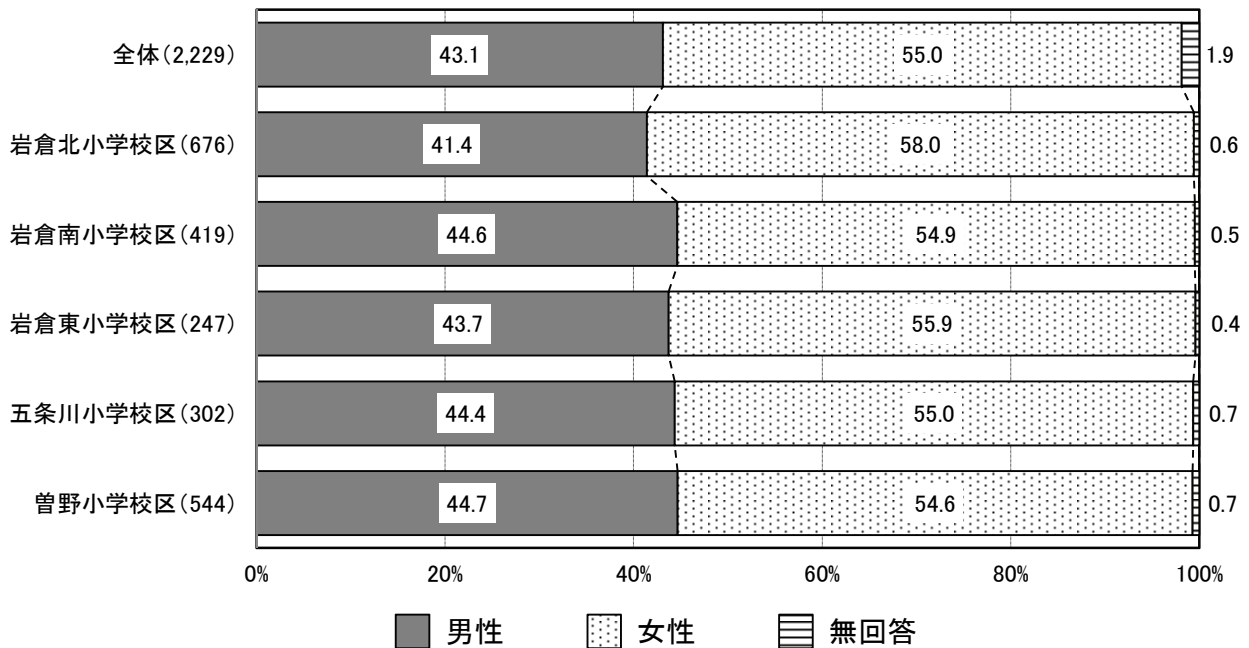
【全体】(図 1-1-1)

◆全体の回答者の性別は、「男性」が43.1%、「女性」が55.0%と、「女性」の割合のほうが11.9ポイント多くなっています。

【小学校区別】(図 1-1-1)

◆小学校区別の回答者の性別は、すべての小学校区で「女性」が多くなっています。特に岩倉北小学校区では、「女性」が16.6ポイント多くなっています。

図 1-1-1 小学校区別「性別」



1-2 年齢

(問2) あなたの年齢を教えてください。【〇は1つだけ】

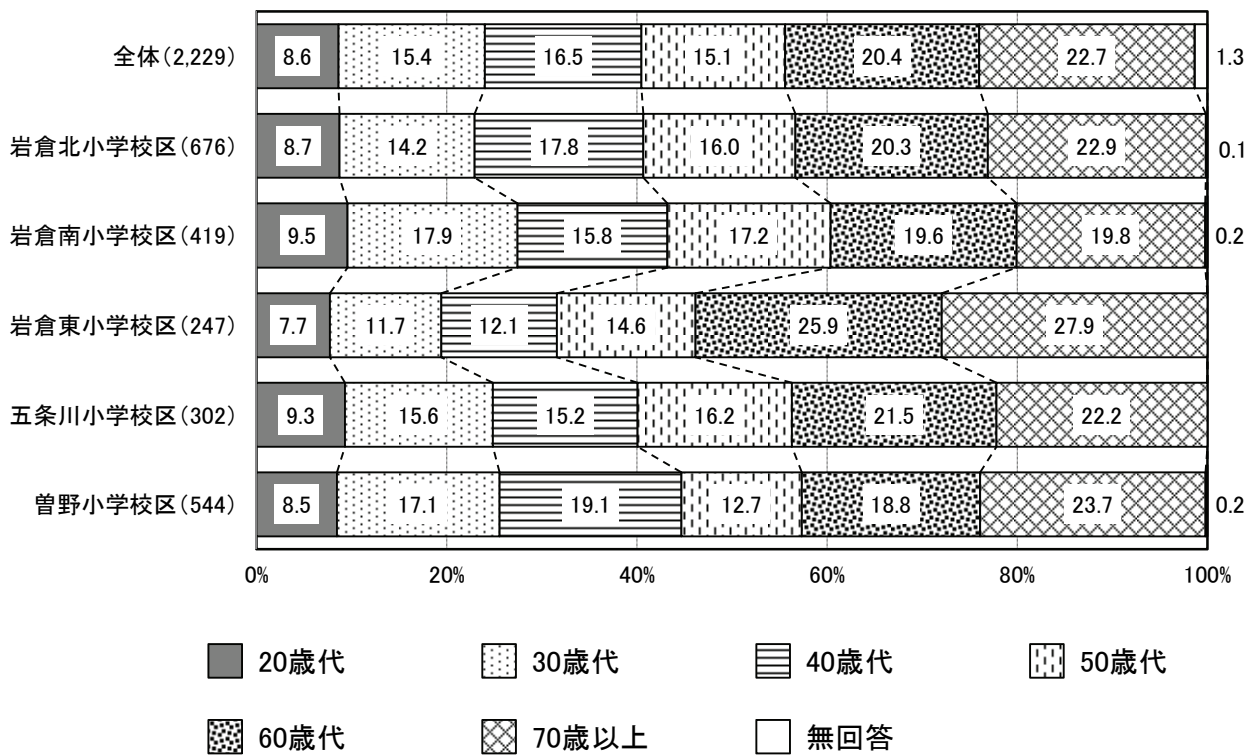
【全体】(図1-2-1)

◆全体の回答者の年齢は、「70歳以上」が22.7%で最も多く、次いで「60歳代」が20.4%、「40歳代」が16.5%となっています。「20歳代」が8.6%で最も少なくなっています。

【小学校区別】(図1-2-1)

◆小学校区別の回答者の年齢は、すべての小学校区で「70歳以上」が最も多く、「20歳代」が最も少なくなっています。

図1-2-1 小学校区別「年齢」



1-3 住まい

(問3) あなたのお住まいは、どの小学校区にありますか。【○は1つだけ】

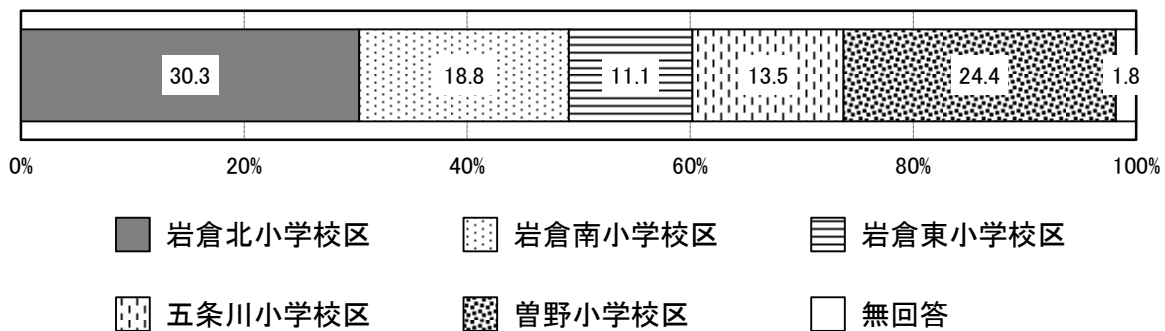
【全体】(表・図 1-3-1)

◆全体の回答者の住まいは、岩倉北小学校区が30.3%で最も多く、次いで曾野小学校区が24.4%、岩倉南小学校区が18.8%となっています。

表 1-3-1 全体の「住まい」

	岩倉北 小学校区	岩倉南 小学校区	岩倉東 小学校区	五条川 小学校区	曾野 小学校区	無回答	計
回答者数(人)	676	419	247	302	544	41	2,229
構成比率(%)	30.3	18.8	11.1	13.5	24.4	1.8	100.0

図 1-3-1 小学校区別「住まい」



1-4 職業

(問4) あなたの職業を教えてください。【〇は1つだけ】

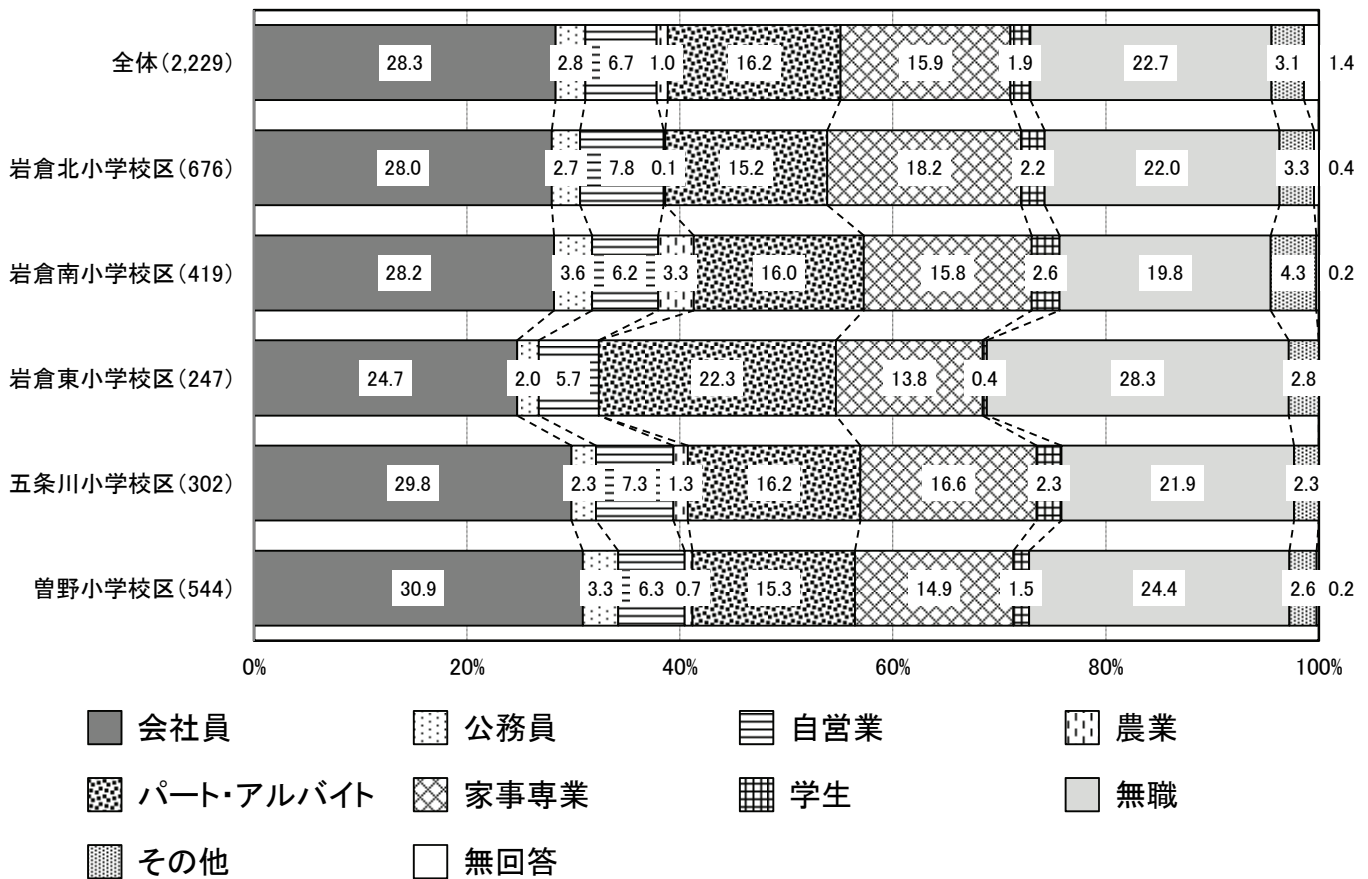
【全体】(図1-4-1)

◆全体の回答者の職業は、「会社員」が最も多く、次いで「無職」「パート・アルバイト」となっています。

【小学校区別】(図1-4-1)

◆小学校区別の回答者の職業は、岩倉東小学校区以外は「会社員」が最も多く、次いで「無職」となっています。岩倉東小学校区では「無職」が最も多く、次いで「会社員」となっています。

図1-4-1 小学校区別「職業」



1-5 世帯のタイプ

(問5) あなたの世帯のタイプは次のどれに属しますか。【〇は1つだけ】

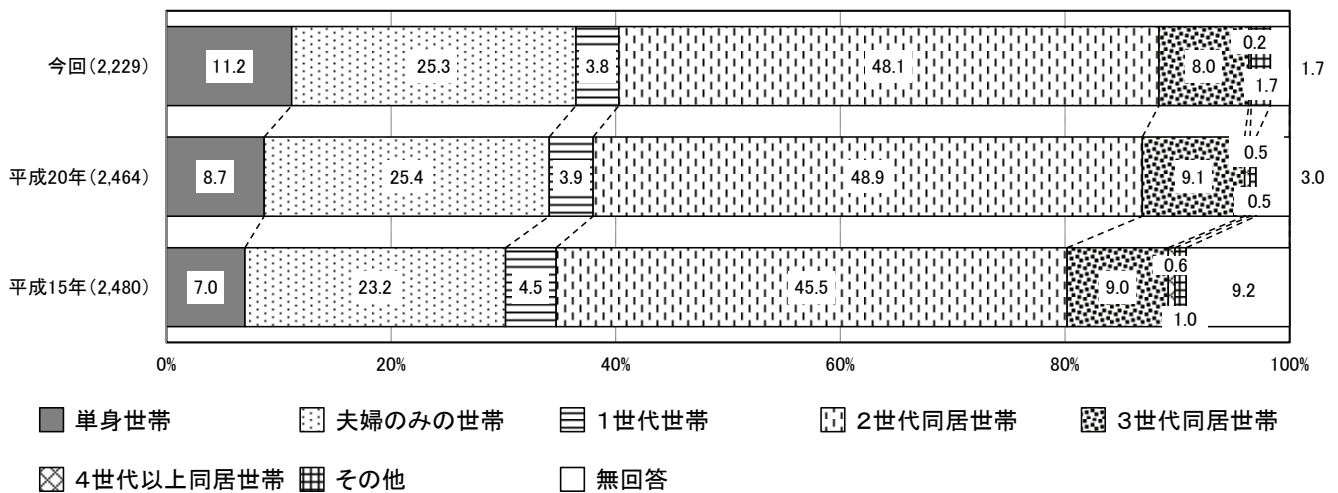
【全体】(図 1-5-1)

◆全体の回答者の世帯のタイプは、「2世代同居世帯」が48.1%で最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」が25.3%、「単身世帯」が11.2%となっています。

【過去調査との比較】(図 1-5-1)

◆過去調査と比較すると「単身世帯」は、平成15年調査と比較すると4.2ポイント、平成20年調査と比較すると2.5ポイントの増加となっています。

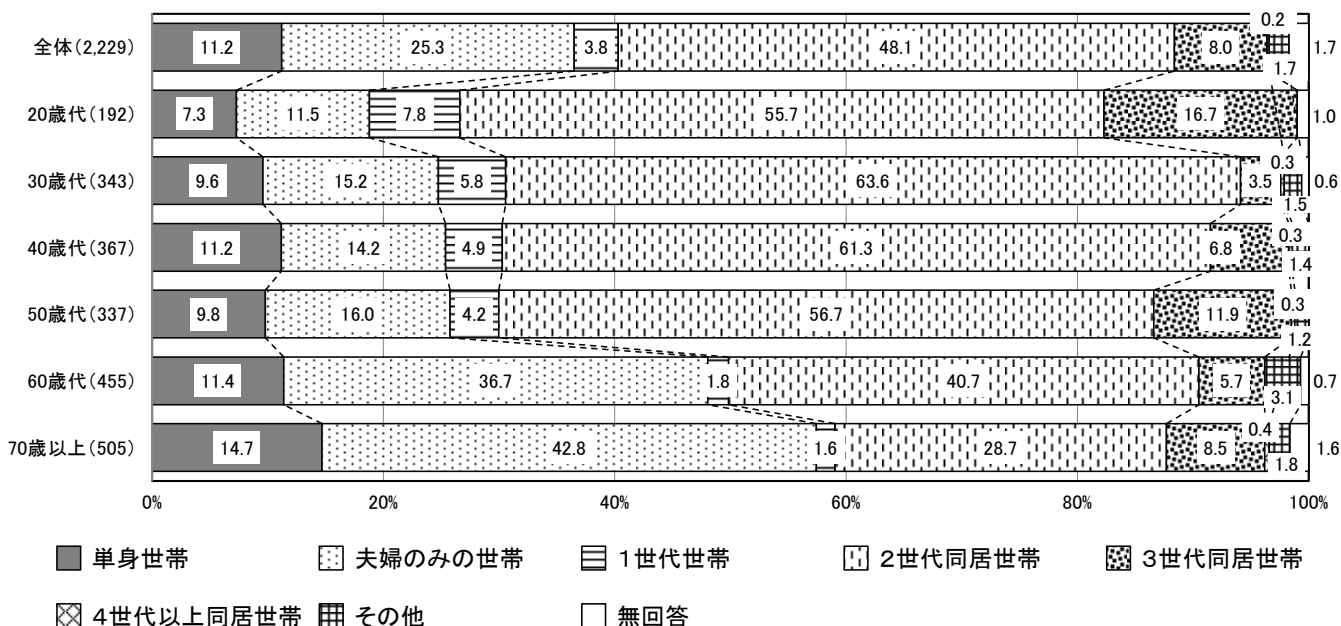
図 1-5-1 過去調査との比較「世帯のタイプ」



【年齢別】（図 1-5-2）

◆年齢別の回答者の世帯のタイプは、「70歳以上」以外は「2世代同居世帯」が最も多くなっています。「70歳以上」では「夫婦のみの世帯」が最も多くなっています。「夫婦のみの世帯」は、「60歳代」から急激に増加しています。

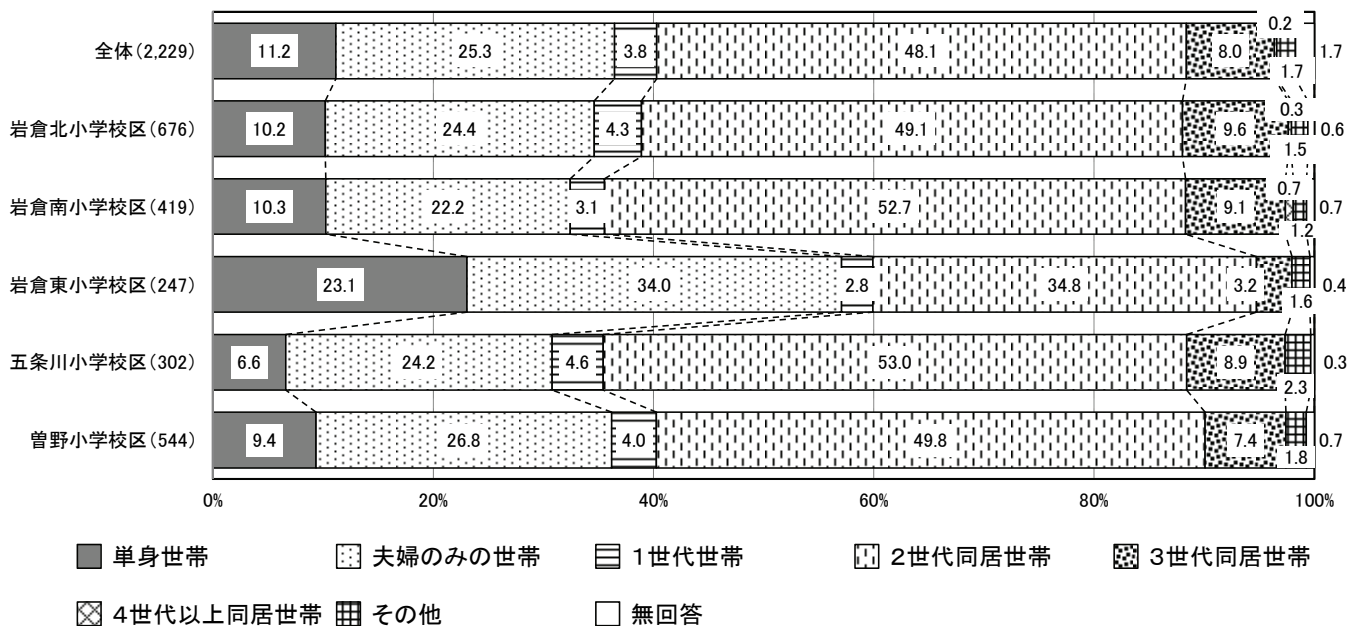
図 1-5-2 年齢別「世帯のタイプ」



【小学校区別】（図 1-5-3）

◆小学校区別の回答者の世帯のタイプは、すべての小学校区で「2世代同居世帯」が最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」となっています。岩倉東小学校区の「単身世帯」は、他小学校区と比較して2倍以上となっています。

図 1-5-3 小学校区別「世帯のタイプ」



1-6 居住年数

(問6) 岩倉市にお住まいになって何年になりますか。【○は1つだけ】

【全体】(図1-6-1)

◆全体の回答者の居住年数は、「20年以上」が64.4%で最も多く、次いで「10年以上20年未満」が14.7%、「5年以上10年未満」が8.1%となっています。

10年未満の合計は19.6%で、全市民の5人に1人程度の割合となっています。

過去調査と比較すると大きな変化は見られません。

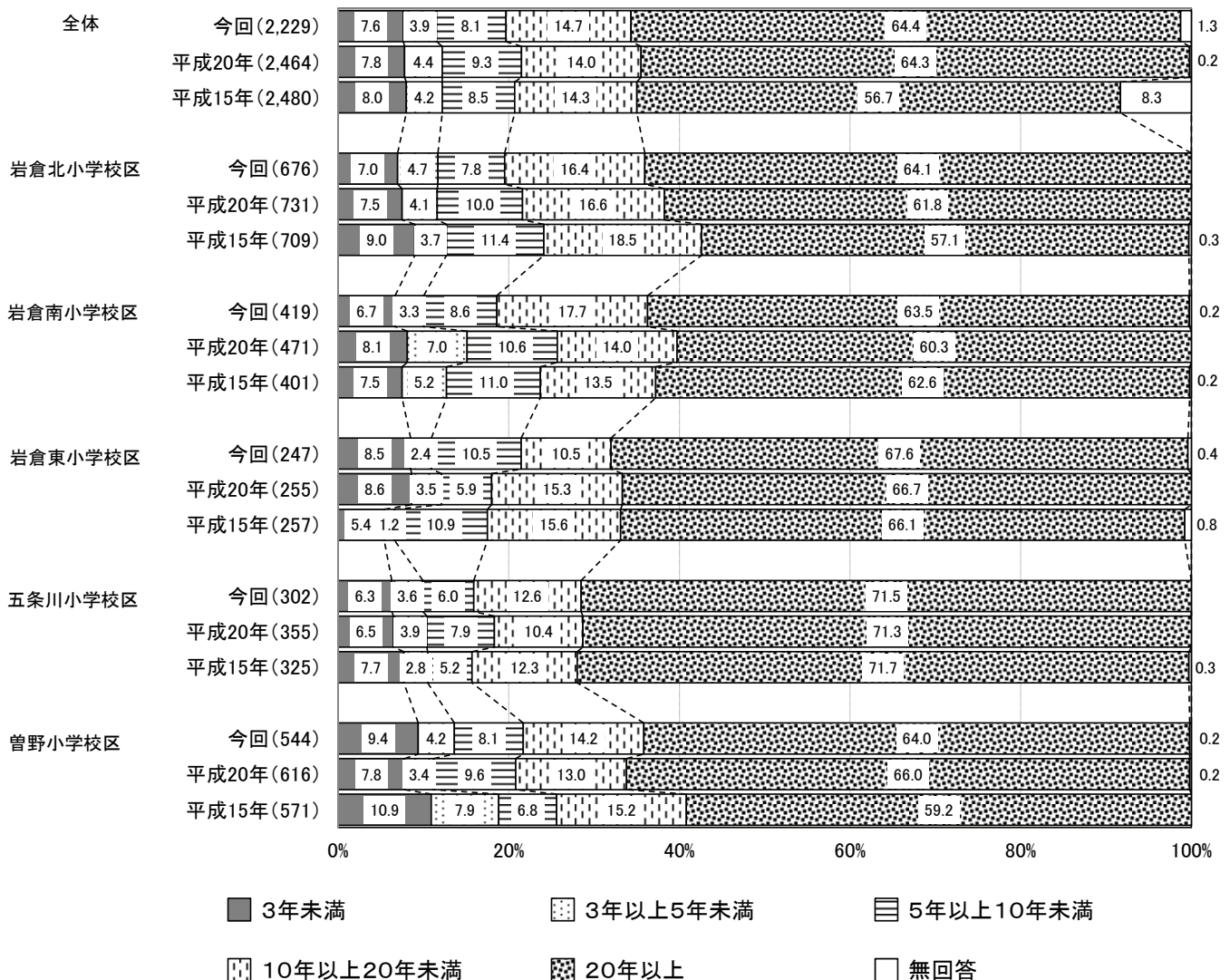
【小学校区別】(図1-6-1)

◆小学校区別の回答者の居住年数は、五条川小学校区が「20年以上」が71.5%で、他の小学校区より多くなっています。

◆過去調査との比較では、平成20年調査と比べ、「20年以上」は曾野小学校区を除き増加しています。

◆10年未満の合計では、岩倉東小学校区、曾野小学校区は増加、岩倉北小学校区、岩倉南小学校区、五条川小学校区は減少しています。

図1-6-1 小学校区別「居住年数」(過去調査との比較)



1-7 世帯の構成者

(問7) あなたの家では、どのような方が同居されていますか。あなた自身を含めてお答えください。

【あてはまるものすべてに○】

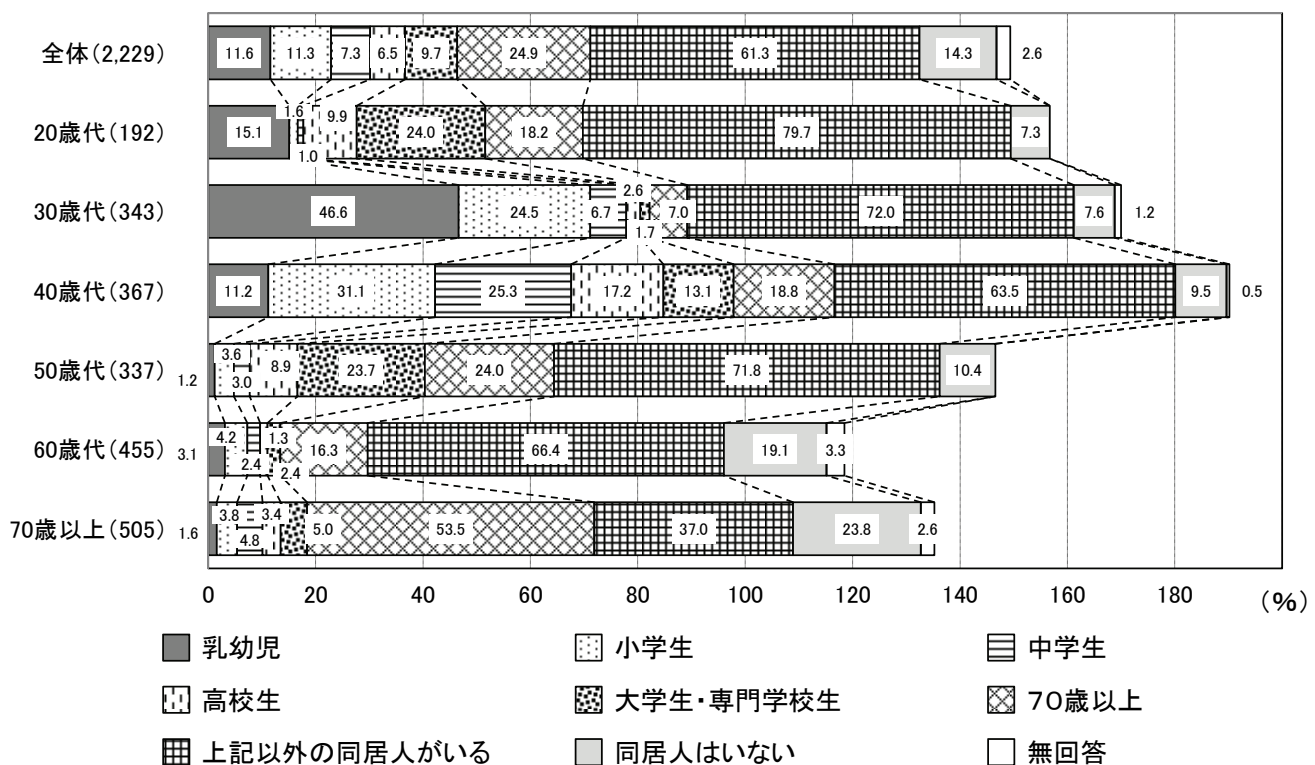
【全体】(図1-7-1)

◆全体の回答者の世帯の構成者は、「上記以外の同居人がある」が61.3%で最も多く、次いで「70歳以上」が24.9%、「同居人はいない」が14.3%となっています。

【年齢別】(図1-7-1)

- ◆「20歳代」では、「上記以外の同居人がある」に次いで「大学生・専門学校生」となっていますが、これは本人も含まれることから他の年齢と比べて多くなっています。
- ◆「30歳代」では、「上記以外の同居人がある」に次いで「乳幼児」(46.6%)、「小学生」(24.5%)との同居が他の年齢と比べて多くなっています。
- ◆「40歳代」では、「上記以外の同居人がある」に次いで「小学生」(31.1%)、「中学生」(25.3%)との同居が他の年齢と比べて多くなっています。
- ◆「50歳代」では、「上記以外の同居人がある」に次いで「70歳以上」(24.0%)、「大学生・専門学校生」(23.7%)となっています。
- ◆「60歳代」では、「上記以外の同居人がある」に次いで「同居人はいない」(19.1%)、「70歳以上」(16.3%)となっています。
- ◆「70歳以上」では、「70歳以上」(53.5%)、「上記以外の同居人がある」(37.0%)となっており、「同居人はいない」が23.8%と他の年齢と比べて多くなっています。

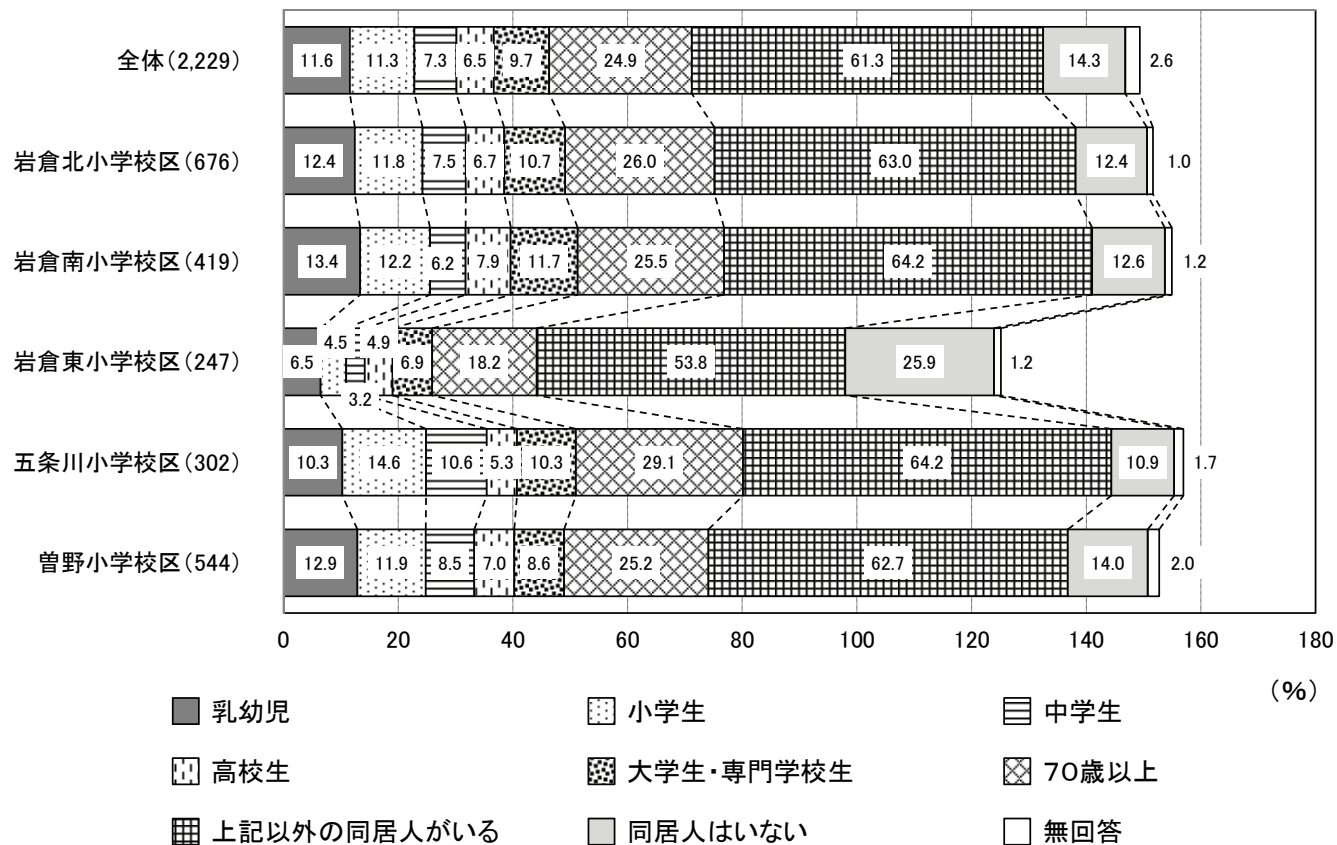
図1-7-1 年齢別「世帯の構成者」



【小学校区別】（図 1-7-2）

◆すべての小学校区で「上記以外の同居人がいる」が最も多くなっています。次いで岩倉東小学校区を除き「70歳以上」となっています。岩倉東小学校区は「同居人はいない」の割合が他の小学校区に比べて多くなっています。

図 1-7-2 小学校別「世帯の構成者」



2. 岩倉市の住みやすさ

2. 岩倉市の住みやすさ

2-1 総合的な住みやすさの評価

(問 1 2) 総合的にみて岩倉市は住みよいまちだと思いますか。【○は1つだけ】

岩倉市に対して住みやすさを感じている市民は76.8%となっており、住みにくさを感じている市民は6.5%となっています。“住みやすいという評価”については、増加しています。

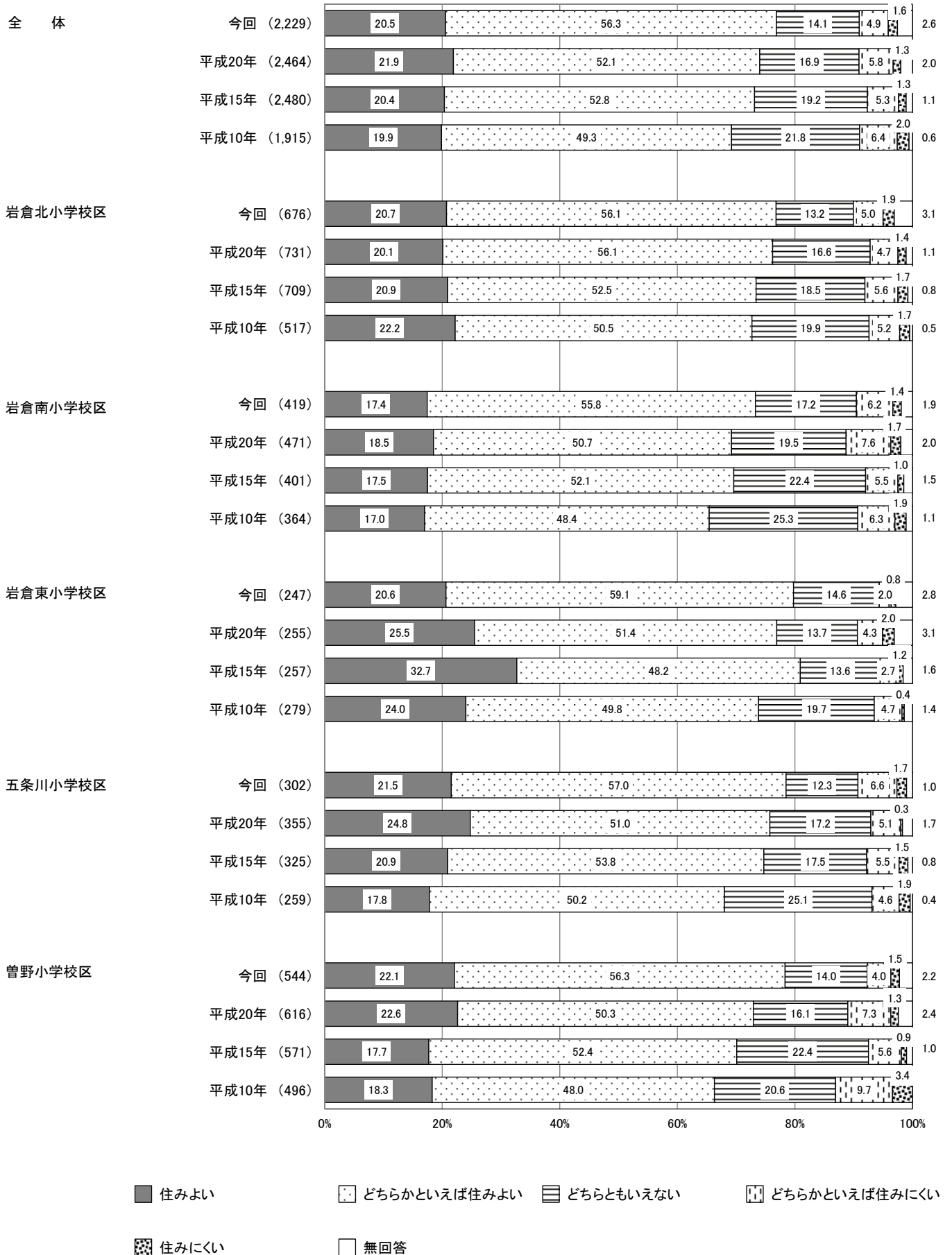
【全体】(図 2-1-1)

- ◆「住みよい」が20.5%、「どちらかと言えば住みよい」が56.3%となっており、これらを合わせ岩倉市に対して住みやすさを感じている市民の割合（以下“住みやすいという評価”）は76.8%を占めています。
- ◆一方、「どちらかと言えば住みにくい」が4.9%、「住みにくい」が1.6%となっており、これらを合わせた岩倉市に対して住みにくさを感じている市民の割合（以下“住みにくいという評価”）は6.5%にとどまっており、総じて、岩倉市は多くの市民から住みよいまちであるとの評価が得られています。
- ◆過去に実施した調査結果と比較すると、“住みやすいという評価”は、わずか数ポイントずつではあるものの、平成10年調査以降、一貫して増加しています。

【小学校区別】(図 2-1-1)

- ◆“住みやすいという評価”は、岩倉東小学校区で79.7%と5小学校区の中で最も多く、逆に、岩倉南小学校区では73.2%と5小学校区の中で最も少なくなっていますが、全般的に小学校区の違いによる大きな差はみられません。
- ◆過去に実施した調査結果と比較すると、“住みやすいという評価”の割合は、岩倉北小学校区、五条川小学校区、曾野小学校区では一貫して増加傾向にあります。岩倉南小学校区では、前回調査で若干減少しましたが、今回調査は前回調査より4.0ポイント増加し、過去最高となっています。岩倉東小学校区では、前回調査で4.0ポイント減少しましたが、今回調査では前回調査より2.8ポイント増加しています。すべての小学校区で前回調査より増加しています。

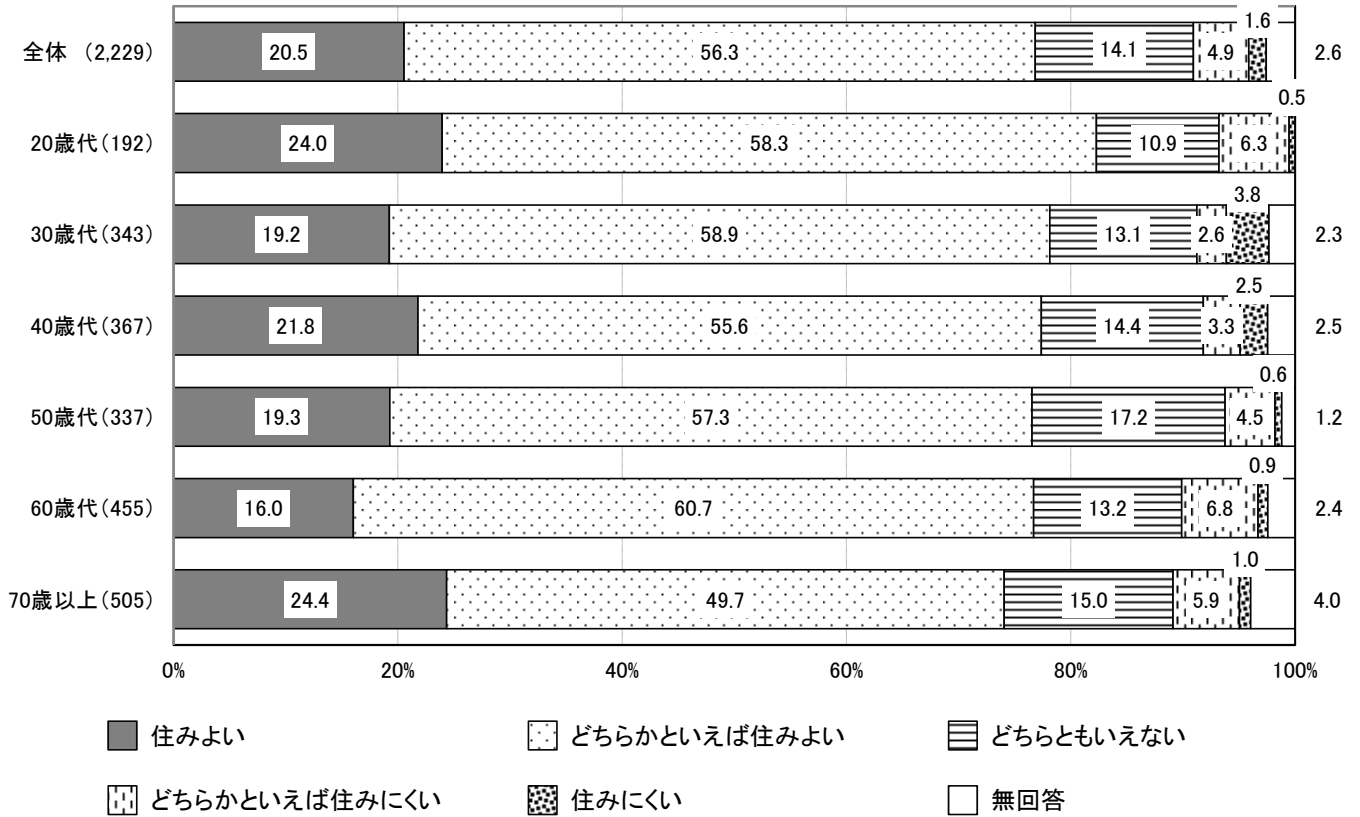
図 2-1-1 小学校区別「総合的な住みやすさの評価」(過去調査との比較)



【年齢別】(図 2-1-2)

- ◆どの年齢層においても“住みやすいという評価”が70%を超えており、年齢にあまり関係なく多くの市民から住みよいという評価が得られています。
- ◆年齢別にみると、“住みやすいという評価”の占める割合は、20歳代が82.3%で最も高く、70歳以上が74.1%で最も低くなっていますが、年齢による差はあまりありません。

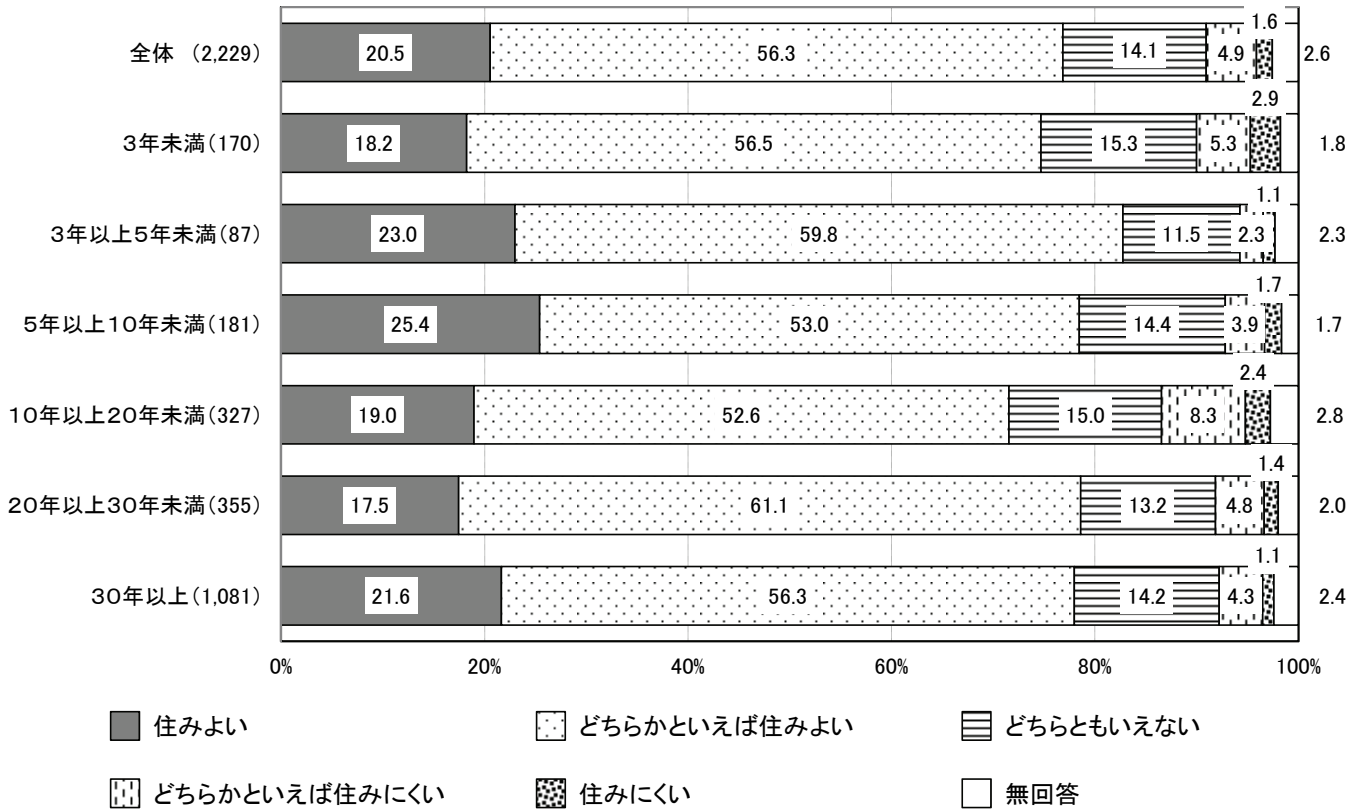
図 2-1-2 年齢別「総合的な住みやすさの評価」



【居住年数別】(図 2-1-3)

- ◆ “住みやすいという評価” については、「3 年以上 5 年未満」が 82.8%と最も多く、全体値を 6.0 ポイント上回っています。逆に、「10 年以上 20 年未満」が 71.6%と全体値を 5.2 ポイント下回っています。
- ◆ 居住年数別にみると、「5 年以上 10 年未満」では「住みよい」が占める割合が 25.4%と最も多く、全体値を 4.9 ポイント上回っています。逆に、「20 年以上 30 年未満」では「住みよい」の占める割合が 17.5%と全体値を 3.0 ポイント下回っています。

図 2-1-3 居住年数別「総合的な住みやすさの評価」



2-2 周辺の生活環境

(問8) お住まいの周辺の生活環境について、おたずねします。

【1つずつ選んで○をつけてください。】

【評価点の算定方法】

周辺の生活環境評価の各項目について、「満足」を+1点、「どちらともいえない」を0点、「不満」を-1点として評価点を算定し、算定した評価点に基づき評価の分析を行いました。

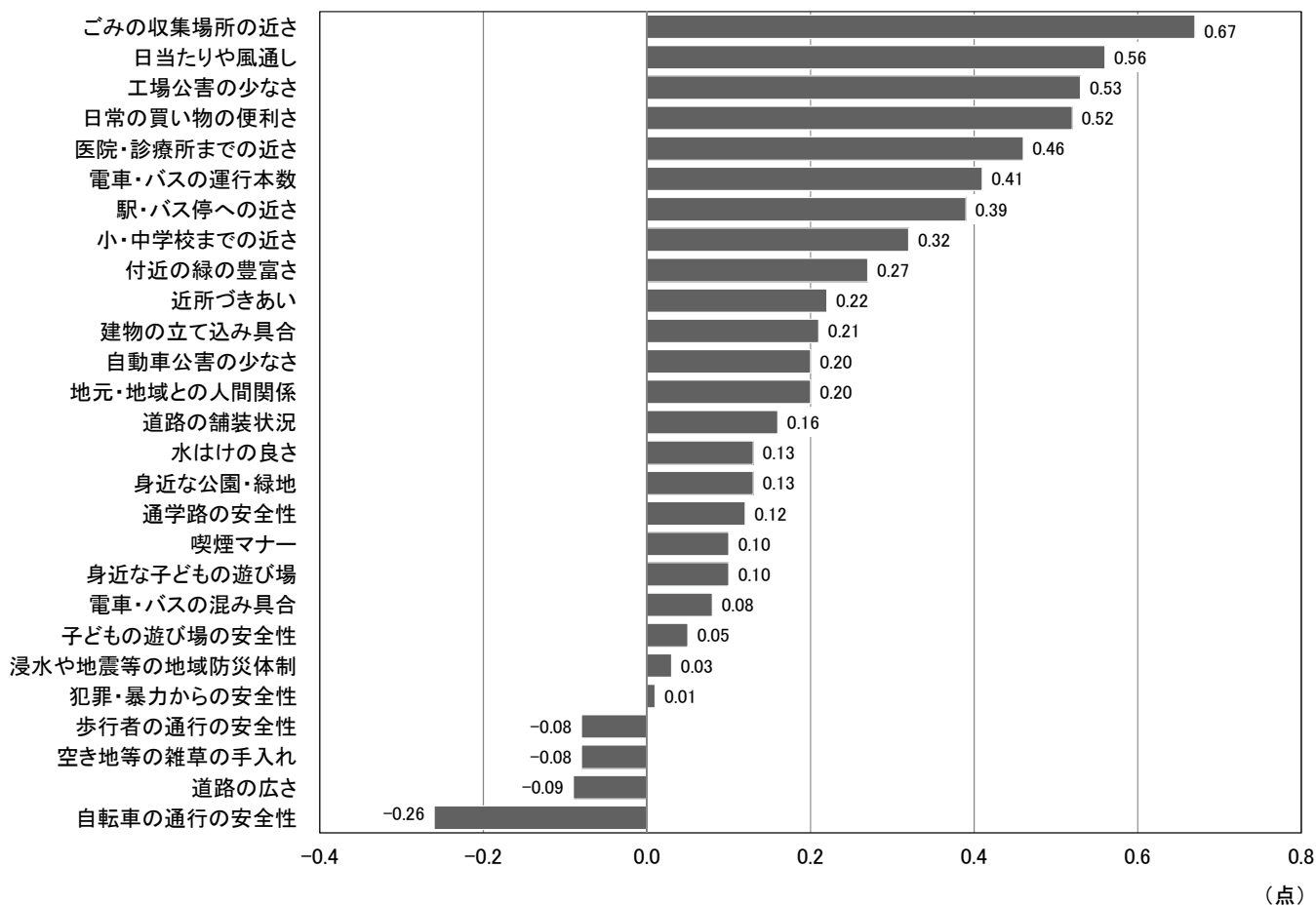
【全体】(表 2-2-1、図 2-2-1)

◆ 27項目の中で全体評価点がプラスであった項目は23項目、マイナスであった項目は4項目でした。

表 2-2-1 「周辺生活環境評価」評価点分布

評価点	0.6 以上	0.4 以上 0.6 未満	0.2 以上 0.4 未満	0 以上 0.2 未満	0 未満
今回調査	1	5	7	10	4
前回調査	2	3	10	6	6

図 2-2-1 「周辺生活環境評価」



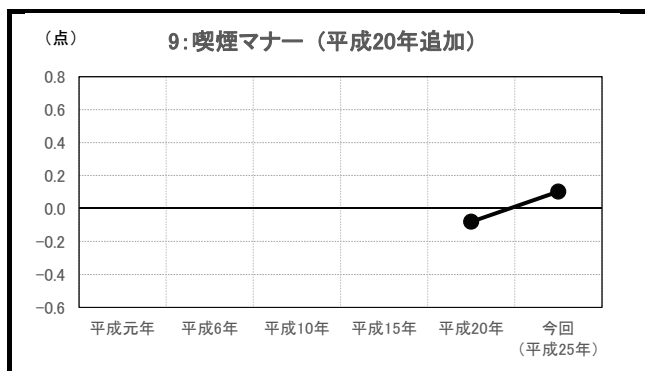
【過去調査との比較】（表 2-2-2、図 2-2-2、図 2-2-3）

- ◆ 平成元年（項目の中には途中からの追加もあります）から今回（平成 25 年）までの各項目の生活環境評価の評価点の推移をみると、毎回増加している項目は「医院・診療所までの近さ」「駅・バス停への近さ」の 2 項目です。
- ◆ 途中で減少した年があるものの全体的に増加している項目は「身近な子どもの遊び場」「身近な公園・緑地」「付近の緑の豊富さ」「自動車公害の少なさ」「通学路の安全性」「小・中学校までの近さ」「電車・バスの運行本数」「電車・バスの混み具合」「日常の買い物の便利さ」「日当たりや風通し」「近所づきあい」「地元・地域との人間関係」の 12 項目です。
- ◆ 平成 20 年までは増加していて平成 25 年に減少した項目は「水はけの良さ」「道路の舗装状況」「建物の立て込み具合」の 3 項目です。これらの項目は調査時点の状況により評価が変わる可能性があります。
- ◆ やや減少及び横ばいの項目は「子どもの遊び場の安全性」「工場公害の少なさ」「浸水や地震等の地域防災体制」の 3 項目です。
- ◆ 調査年で評価が変化している（増減の繰り返し）項目は「犯罪・暴力からの安全性」の 1 項目です。
- ◆ 平成 20 年以降で追加された項目は「ごみの収集場所の近さ」「喫煙マナー」「空き地等の雑草の手入れ」「歩行者の通行の安全性」「自転車の通行の安全性」の 5 項目です。
- ◆ 前回（平成 20 年）との比較では、増加した項目が 12 項目、減少した項目が 15 項目となっています。前回の平均評価点は 0.21、今回は 0.20 で 0.01 減少しています。
- ◆ 増加した主な項目は「喫煙マナー（0.18）」「医院・診療所までの近さ（0.18）」「身近な子どもの遊び場（0.13）」「駅・バス停への近さ（0.10）」「日常の買い物の便利さ（0.08）」です。
- ◆ 減少した主な項目は「道路の舗装状況（-0.24）」「犯罪・暴力からの安全性（-0.21）」「水はけの良さ（-0.20）」「自転車の通行の安全性（-0.18）」「工場公害の少なさ（-0.08）」です。減少した項目をみると調査時点の状況で評価が変わる可能性がある項目です。
- ◆ 「身近な子どもの遊び場」のポイントが増加した理由については、子育て支援センター、さくらの家の子どもルーム、長瀬公園などが整備されたことが考えられます。
- ◆ 「日常の買い物の便利さ」のポイントが増加した理由については、ドラッグストアやコンビニエンスストアの出店が増えていることが考えられます。
- ◆ 「水はけの良さ」のポイントが減少した理由については、地球温暖化の影響により近年ゲリラ豪雨が増加したことが考えられます。

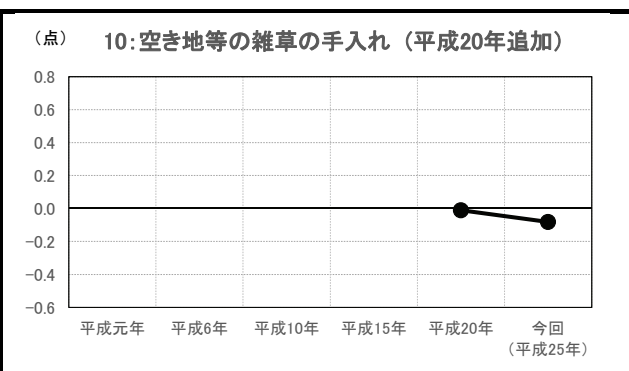
図 2-2-2 「周辺生活環境評価」過去調査比較（その 1）

<p>(点)</p> <p>1: 医院・診療所までの近さ</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>	<p>(点)</p> <p>2: 身近な子どもの遊び場</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>
<p>順調に増加しています。</p>	<p>増加傾向から平成 15 年に減少しましたが、その後は増加しています。</p>
<p>(点)</p> <p>3: 身近な公園・緑地</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>	<p>(点)</p> <p>4: 子どもの遊び場の安全性</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>
<p>増加傾向から平成 15 年に減少しましたが、その後は順調に増加しています。</p>	<p>平成 6 年は増加、平成 10 年以降減少しましたが、平成 25 年で増加しました。</p>
<p>(点)</p> <p>5: 付近の緑の豊かさ</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>	<p>(点)</p> <p>6: ごみの収集場所の近さ (平成20年追加)</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>
<p>平成 6 年で減少しましたが、その後は順調に増加しています。</p>	<p>平成 20 年からの項目ですが、平成 25 年は減少しました。</p>
<p>(点)</p> <p>7: 自動車公害の少なさ</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>	<p>(点)</p> <p>8: 工場公害の少なさ</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>
<p>平成 10 年で減少しましたが、その後は増加し、平成 25 年は平成 20 年の横ばいです。</p>	<p>高い評価点で若干の減少、増加を繰り返しています。</p>

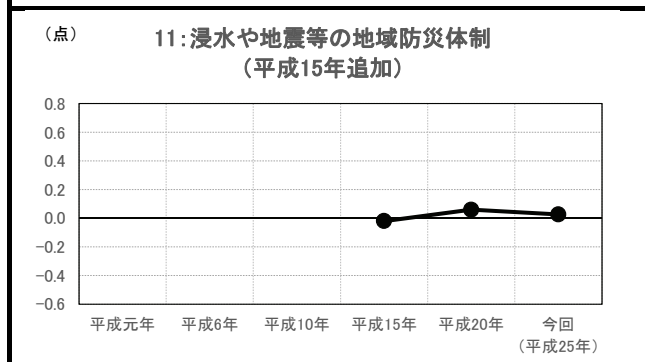
図 2-2-2 「周辺生活環境評価」過去調査比較（その 2）



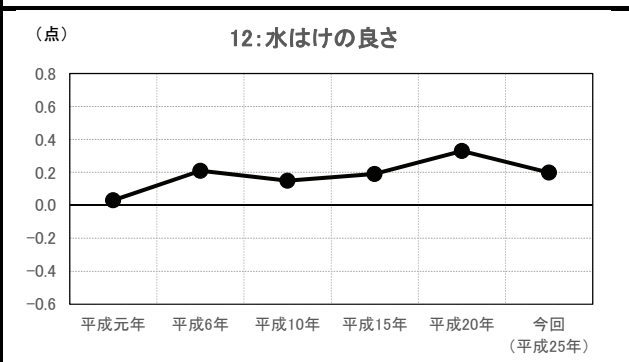
平成 20 年からの項目ですが、平成 25 年は増加しました。



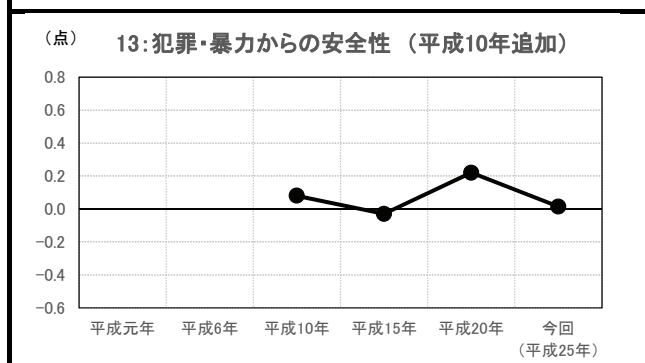
平成 20 年からの項目ですが、平成 25 年は減少しました。



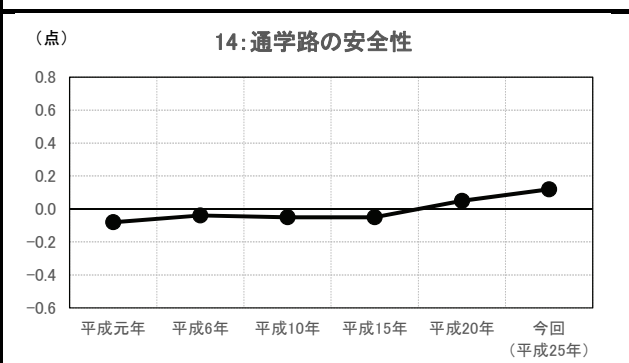
平成 15 年からの項目ですが、平成 25 年は減少しました。



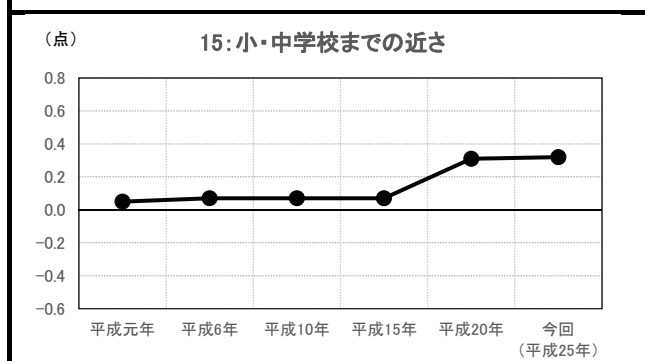
全体的には増加傾向となっていますが、平成 25 年は減少しました。



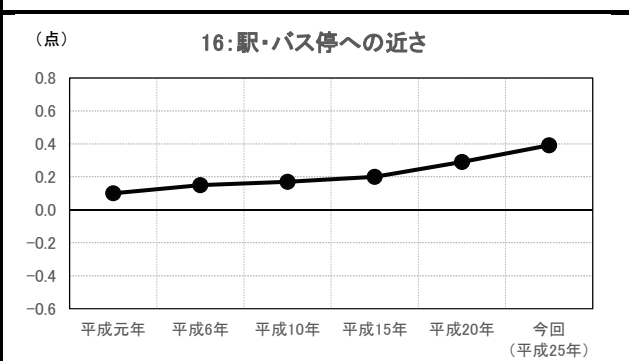
平成 10 年からの項目ですが、減少・増加を繰り返しています。



途中で横ばい状態でしたが、平成 15 年以降増加しています。



平成 20 年に大幅増加し、平成 25 年は若干増加しています。

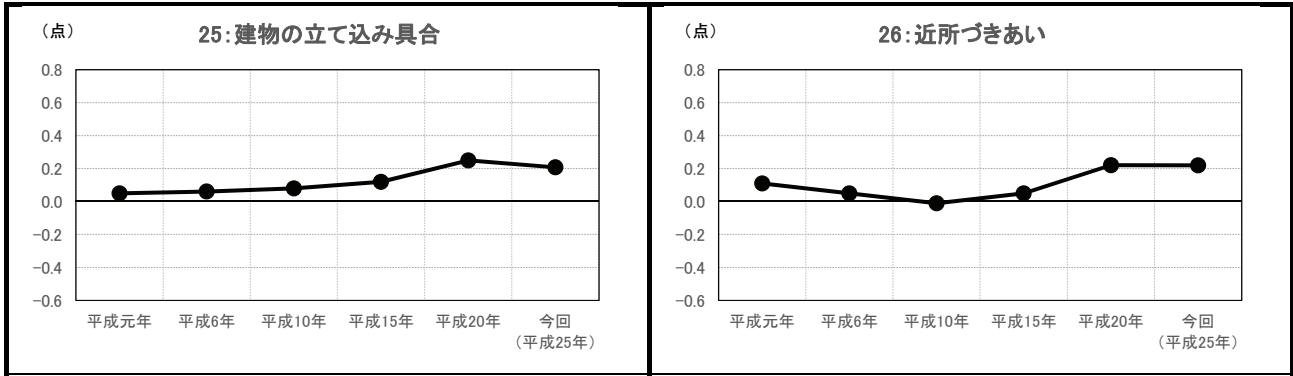


順調に増加しています。

図 2-2-2 「周辺生活環境評価」過去調査比較（その 3）

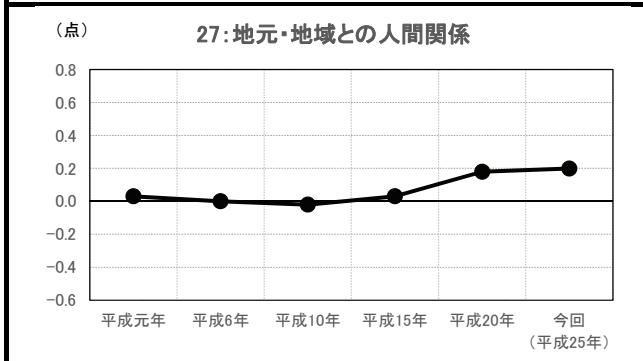
<p>(点)</p> <p>17:電車・バスの運行本数</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>	<p>(点)</p> <p>18:電車・バスの混み具合</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>
<p>途中減少していましたが、平成 20 年以降は増加しています。</p>	<p>順調に増加していましたが、平成 25 年は若干減少しました。</p>
<p>(点)</p> <p>19:歩行者の通行の安全性（平成20年追加）</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>	<p>(点)</p> <p>20:自転車の通行の安全性（平成20年追加）</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>
<p>平成 20 年からの項目ですが、平成 25 年は減少しました。</p>	<p>平成 20 年からの項目ですが、平成 25 年は減少しました。</p>
<p>(点)</p> <p>21:道路の広さ</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>	<p>(点)</p> <p>22:道路の舗装状況</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>
<p>減少傾向から平成 15 年・20 年と増加しましたが、平成 25 年は若干減少しました。</p>	<p>平成 10 年以降増加していましたが、平成 25 年は減少しました。</p>
<p>(点)</p> <p>23:日常の買い物の便利さ</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>	<p>(点)</p> <p>24:日当たりや風通し</p> <p>平成元年 平成6年 平成10年 平成15年 平成20年 今回 (平成25年)</p>
<p>平成 15 年までは減少していましたが、平成 20 年以降は増加しています。</p>	<p>平成 10 年以降増加していましたが、平成 25 年は若干減少しました。</p>

図 2-2-2 「周辺生活環境評価」過去調査比較（その 4）



徐々に増加していましたが、平成 25 年に若干減少しました。

平成 15 年から減少傾向が増加傾向となり、平成 25 年は横ばいです。



平成 20 年から増加し、平成 25 年は若干増加しています。

図 2-2-3 「周辺生活環境評価」(過去調査との比較)

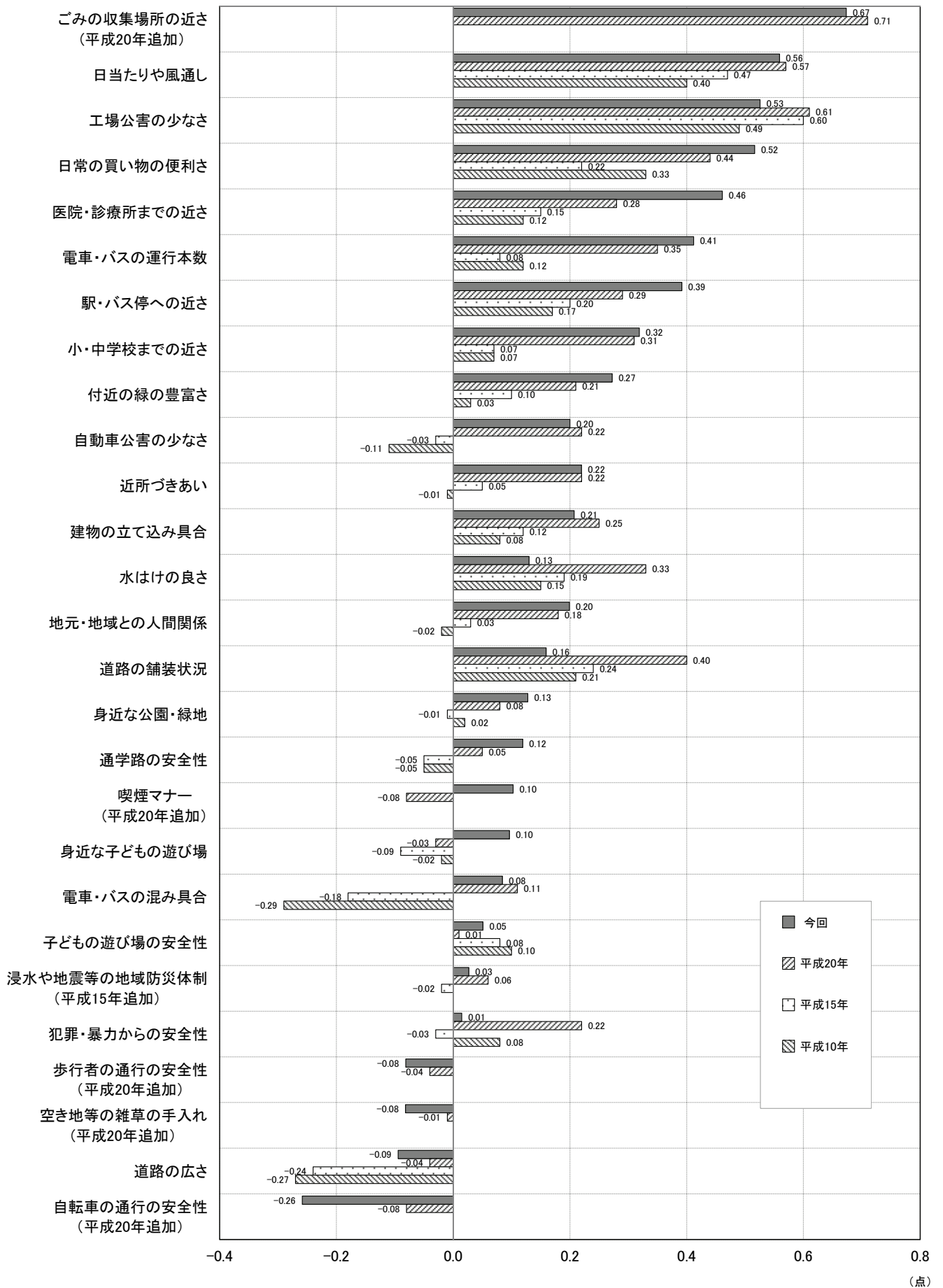


表 2-2-2 「周辺生活環境評価」(前回調査との比較)

項目	全体			
	順位	評価：満足度(点)		
		今回 (平成 25 年)	前回 (平成 20 年)	差 (今回-前回)
ごみの収集場所の近さ	1	0.67	0.71	-0.04
日当たりや風通し	2	0.56	0.57	-0.01
工場公害の少なさ	3	0.53	0.61	-0.08
日常の買い物の便利さ	4	0.52	0.44	0.08
医院・診療所までの近さ	5	0.46	0.28	0.18
電車・バスの運行本数	6	0.41	0.35	0.06
駅・バス停への近さ	7	0.39	0.29	0.10
小・中学校までの近さ	8	0.32	0.31	0.01
付近の緑の豊富さ	9	0.27	0.21	0.06
近所づきあい	10	0.22	0.22	0.00
建物の立て込み具合	11	0.21	0.25	-0.04
自動車公害の少なさ	12	0.20	0.22	-0.02
地元・地域との人間関係	12	0.20	0.18	0.02
道路の舗装状況	14	0.16	0.40	-0.24
水はけの良さ	15	0.13	0.33	-0.20
身近な公園・緑地	15	0.13	0.08	0.05
通学路の安全性	17	0.12	0.05	0.07
喫煙マナー	18	0.10	-0.08	0.18
身近な子どもの遊び場	18	0.10	-0.03	0.13
電車・バスの混み具合	20	0.08	0.11	-0.03
子どもの遊び場の安全性	21	0.05	0.01	0.04
浸水や地震等の地域防災体制	22	0.03	0.06	-0.03
犯罪・暴力からの安全性	23	0.01	0.22	-0.21
歩行者の通行の安全性	24	-0.08	-0.04	-0.04
空き地等の雑草の手入れ	24	-0.08	-0.01	-0.07
道路の広さ	26	-0.09	-0.04	-0.05
自転車の通行の安全性	27	-0.26	-0.08	-0.18

表 2-2-3 前回調査との比較による小学校区ごとの項目数の増加・減少の項目数

	全体	岩倉北小学校区	岩倉南小学校区	岩倉東小学校区	五条川小学校区	曾野小学校区
0.20 以上ポイントが増加した項目数	0	1	2	0	1	1
0.10 以上 0.20 未満の範囲でポイントが増加した項目数	4	2	5	1	2	5
0.01 以上 0.10 未満の範囲でポイントが増加した項目数	8	9	5	5	11	8
小計	12	12	12	6	14	14
0.01 以上 0.10 未満の範囲でポイントが減少した項目数	11	11	9	14	7	8
0.10 以上 0.20 未満の範囲でポイントが減少した項目数	1	2	4	5	3	3
0.20 以上ポイントが減少した項目数	3	2	2	2	3	2
小計	15	15	15	21	13	13
合計	27	27	27	27	27	27

図 2-2-4 「周辺生活環境評価」 小学校区間の差（前回調査との比較）

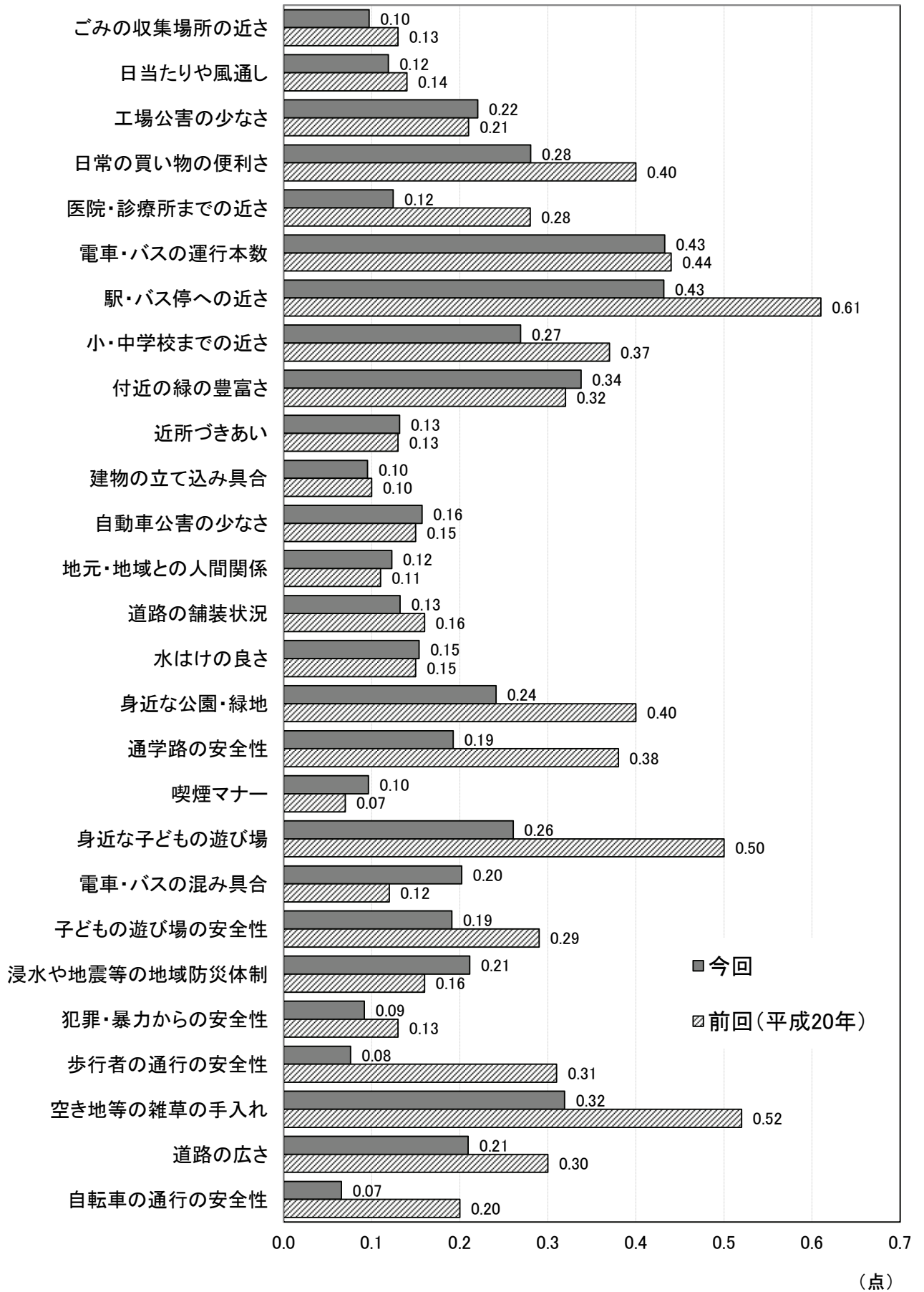


図 2-2-5 小学校区別「周辺生活環境評価」

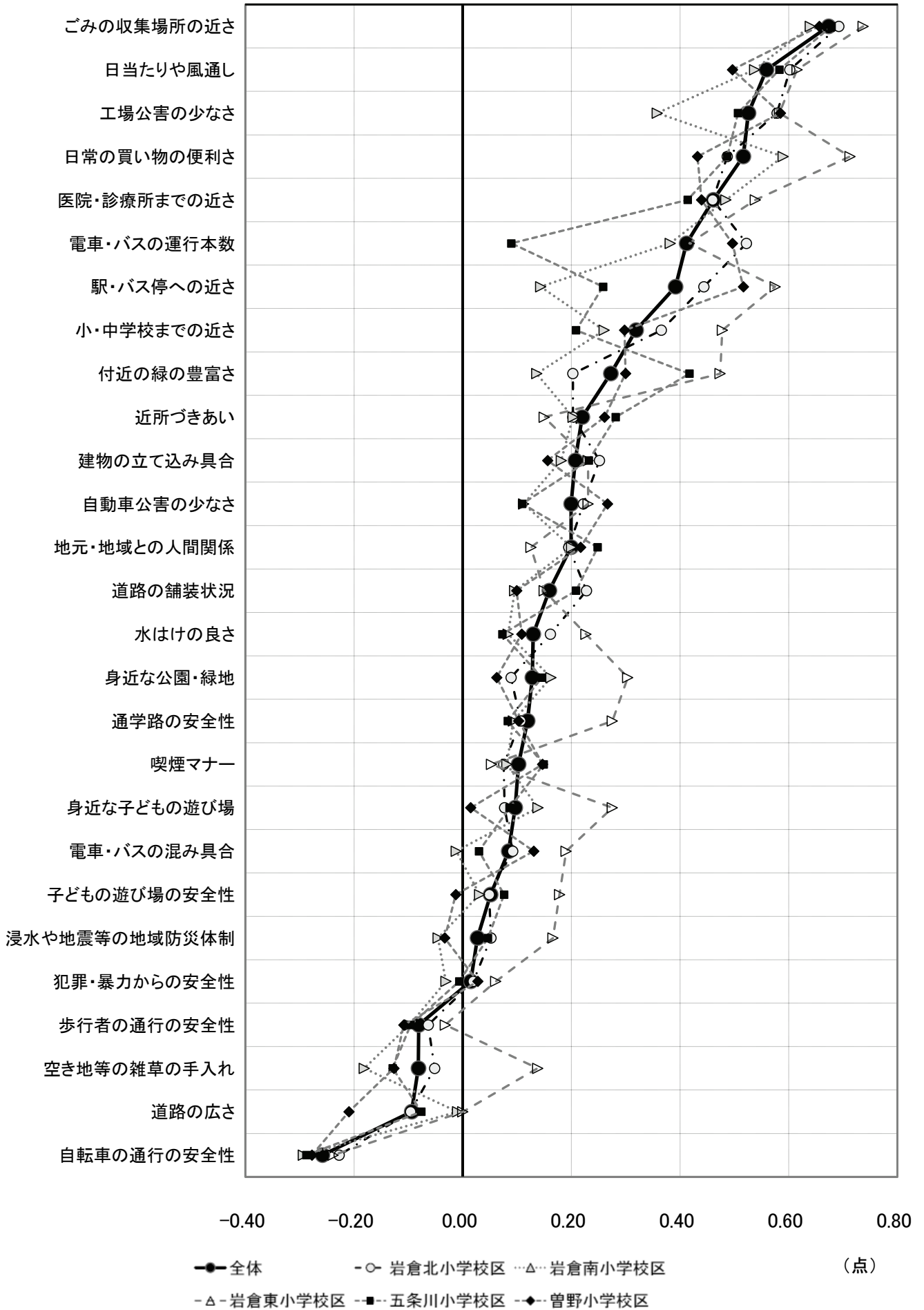
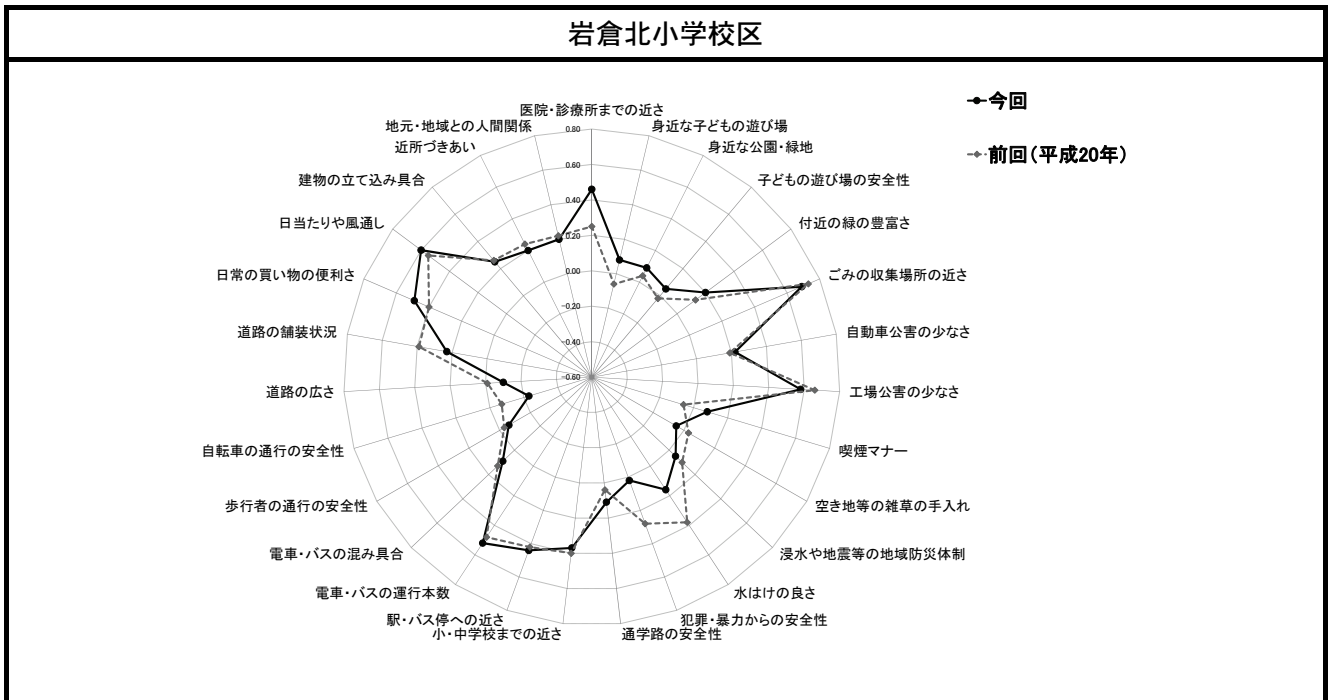


表 2-2-4 小学校区別「周辺生活環境評価」

(点)

項目	全体	岩倉北 小学校区	岩倉南 小学校区	岩倉東 小学校区	五条川 小学校区	曾野 小学校区
ごみの収集場所の近さ	0.67	0.69	0.64	0.74	0.68	0.66
日当たりや風通し	0.56	0.60	0.54	0.62	0.58	0.50
工場公害の少なさ	0.53	0.58	0.36	0.58	0.51	0.58
日常の買い物の便利さ	0.52	0.49	0.59	0.71	0.49	0.43
医院・診療所までの近さ	0.46	0.46	0.48	0.54	0.41	0.44
電車・バスの運行本数	0.41	0.52	0.38	0.42	0.09	0.50
駅・バス停への近さ	0.39	0.44	0.14	0.57	0.26	0.52
小・中学校までの近さ	0.32	0.37	0.26	0.48	0.21	0.30
付近の緑の豊富さ	0.27	0.20	0.14	0.47	0.42	0.30
近所づきあい	0.22	0.20	0.20	0.15	0.28	0.26
建物の立て込み具合	0.21	0.25	0.18	0.23	0.23	0.16
自動車公害の少なさ	0.20	0.22	0.11	0.23	0.11	0.27
地元・地域との人間関係	0.20	0.20	0.20	0.13	0.25	0.22
道路の舗装状況	0.16	0.23	0.10	0.15	0.21	0.10
水はけの良さ	0.13	0.16	0.08	0.23	0.07	0.11
身近な公園・緑地	0.13	0.09	0.16	0.30	0.15	0.06
通学路の安全性	0.12	0.11	0.09	0.28	0.08	0.10
喫煙マナー	0.10	0.08	0.08	0.05	0.15	0.15
身近な子どもの遊び場	0.10	0.08	0.14	0.28	0.09	0.01
電車・バスの混み具合	0.08	0.09	-0.01	0.19	0.03	0.13
子どもの遊び場の安全性	0.05	0.05	0.03	0.18	0.08	-0.01
浸水や地震等の地域防災体制	0.03	0.05	-0.05	0.17	0.05	-0.03
犯罪・暴力からの安全性	0.01	0.02	-0.03	0.06	-0.01	0.03
歩行者の通行の安全性	-0.08	-0.06	-0.10	-0.03	-0.10	-0.11
空き地等の雑草の手入れ	-0.08	-0.05	-0.18	0.14	-0.13	-0.13
道路の広さ	-0.09	-0.10	-0.01	0.00	-0.08	-0.21
自転車の通行の安全性	-0.26	-0.23	-0.29	-0.24	-0.29	-0.28

表 2-2-5 小学校区別「周辺生活環境評価の分析」(その1)



【ベスト5】			【ワースト5】		
①	ごみの収集場所の近さ	0.69	①	自転車の通行の安全性	-0.23
②	日当たりや風通し	0.60	②	道路の広さ	-0.10
③	工場公害の少なさ	0.58	③	歩行者の通行の安全性	-0.06
④	電車・バスの運行本数	0.52	④	空き地等の雑草の手入れ	-0.05
⑤	日常の買い物の便利さ	0.49	⑤	犯罪・暴力からの安全性	0.02

【他学区との比較】

全学区の中で最も評価が高かった項目は、「工場公害の少なさ」（曾野小学校区と同点）「電車・バスの運行本数」「建物の立て込み具合」「道路の舗装状況」「自転車の通行の安全性」の5項目となっています。

全学区の中で最も評価が低かった項目はありませんでした。

【過去調査との比較】

前回（平成20年）と比較すると、ポイントが増加している項目数は27項目中の12項目あり、そのうち0.2以上ポイントが増加している項目は、「医院・診療所までの近さ」の1項目でした。

0.1以上ポイントが増加している項目は、「身近な子どもの遊び場」「喫煙マナー」の2項目でした。

マイナス評価からプラス評価になった項目は、「身近な子どもの遊び」「子どもの遊び場の安全性」「喫煙マナー」の3項目でした。

ポイントが減少している項目数は27項目中15項目あり、そのうち0.2以上ポイントが減少している項目は「犯罪・暴力からの安全性」「水はけの良さ」の2項目でした。

0.1以上ポイントが減少している項目は「道路の舗装状況」「自転車の通行の安全性」の2項目でした。

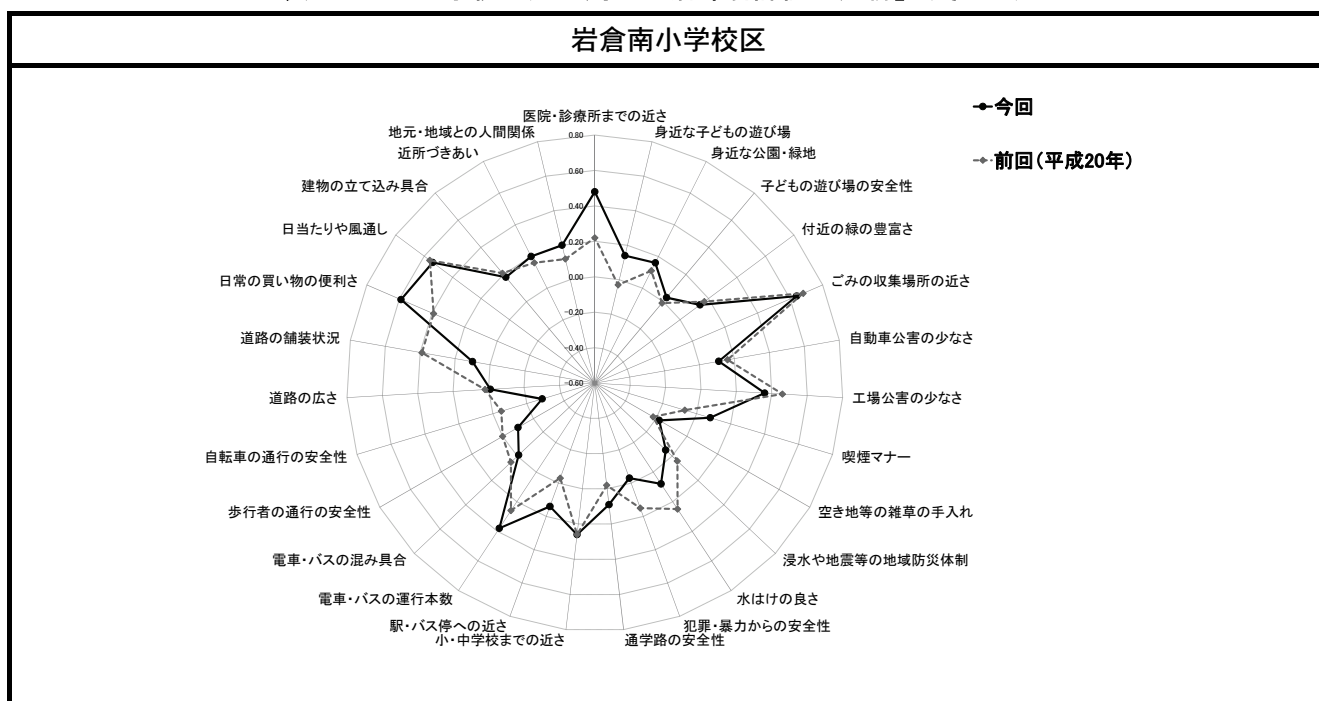
プラス評価からマイナス評価になった項目は「空き地等の雑草の手入れ」の1項目でした。

単純平均評価点は0.21ポイントで、前回（平成20年）と比較すると0.01ポイント増加しています。

【全体評価】

この学区は、市内の中でも駅や商業地が近くにありますが、一部の項目を除いて、全般的には平均程度の評価になっており、市内における平均的な学区といえます。

表 2-2-5 小学校区別「周辺生活環境評価の分析」(その2)



【ベスト5】			【ワースト5】		
①	ごみの収集場所の近さ	0.64	①	自転車の通行の安全性	-0.29
②	日常の買い物の便利さ	0.59	②	空き地等の雑草の手入れ	-0.18
③	日当たりや風通し	0.54	③	歩行者の通行の安全性	-0.10
④	医院・診療所までの近さ	0.48	④	浸水や地震等の地域防災体制	-0.05
⑤	電車・バスの運行本数	0.38	⑤	犯罪・暴力からの安全性	-0.03

【他学区との比較】

全学区の中で最も評価が高かった項目はありませんでした。

全学区の中で最も評価が低かった項目は、「ごみの収集場所の近さ」「駅・バス停への近さ」「付近の緑の豊富さ」「自動車公害の少なさ」(五条川小学校区と同点)「道路の舗装状況」(曾野小学校区と同点)「電車・バスの混み具合」「浸水や地震等の地域防災体制」「犯罪・暴力からの安全性」「空き地等の雑草の手入れ」「自転車の通行の安全性」(曾野小学校区と同点)の10項目でした。

【過去調査との比較】

前回(平成20年)と比較すると、ポイントが増加している項目数は27項目中の13項目あり、そのうち0.2以上ポイントが増加している項目は、「医院・診療所までの近さ」「日常の買い物の便利さ」の2項目でした。

マイナス評価からプラス評価になった項目は、「身近な子どもの遊び場」「子どもの遊び場の安全性」「喫煙マナー」「通学路の安全性」「駅・バス停への近さ」の5項目でした。

ポイントが減少している項目数は27項目中14項目あり、そのうち0.2以上ポイントが減少している項目は、「道路の舗装状況」「自転車の通行の安全性」の2項目でした。

プラス評価からマイナス評価になった項目は、「浸水や地震等の地域防災体制」「犯罪・暴力からの安全性」「電車・バスの混み具合」「道路の広さ」の4項目でした。

単純平均評価点は0.16ポイントで、前回(平成20年)と比較すると増減はありません。

【全体評価】

日常の買い物の便利さや医院・診療所までの近さなどの都市的生活の利便性は、前回に比べ向上しています。全般的に生活環境に関する評価は、低い学区となっています。

表 2-2-5 小学校区別「周辺生活環境評価の分析」(その3)

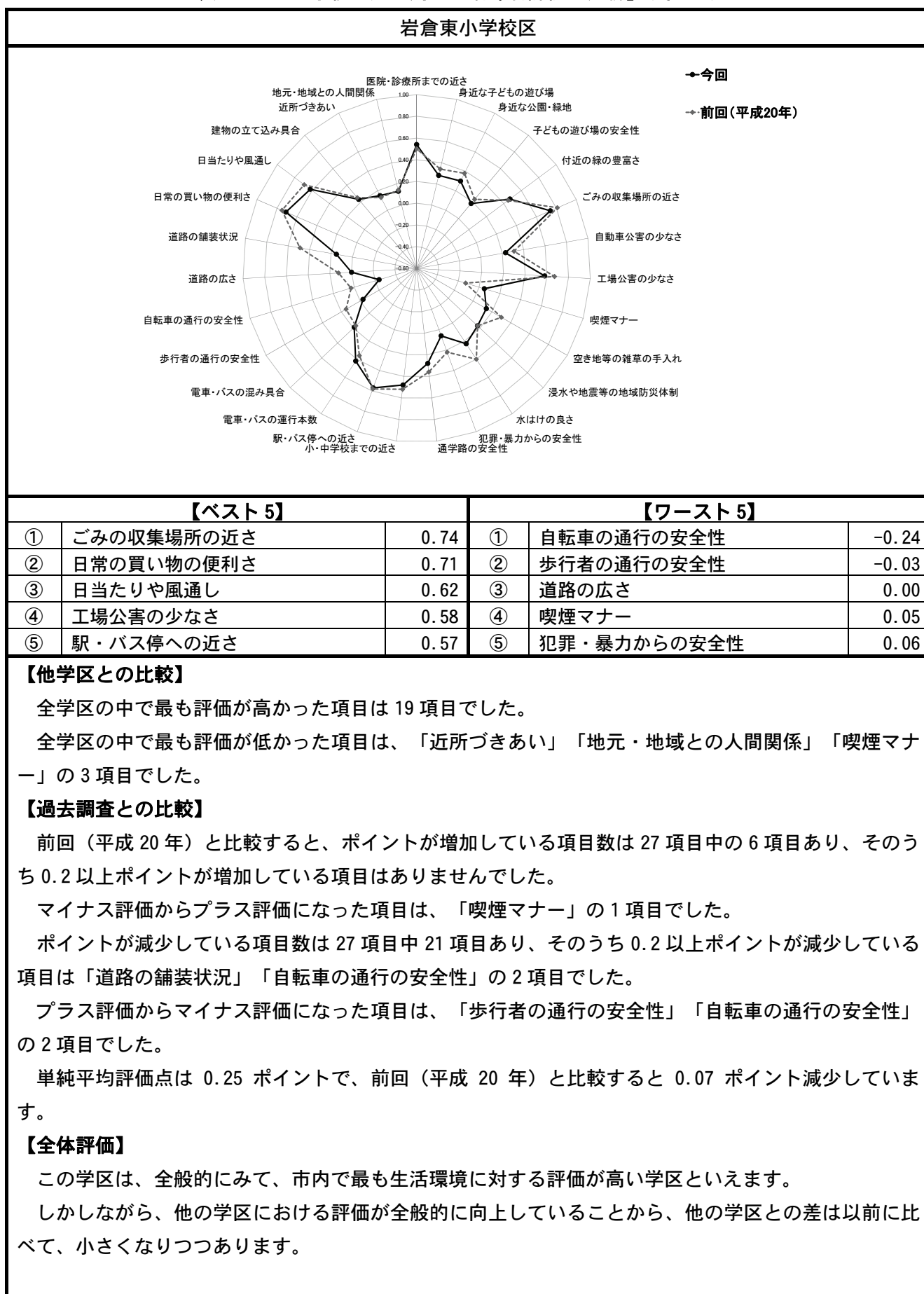
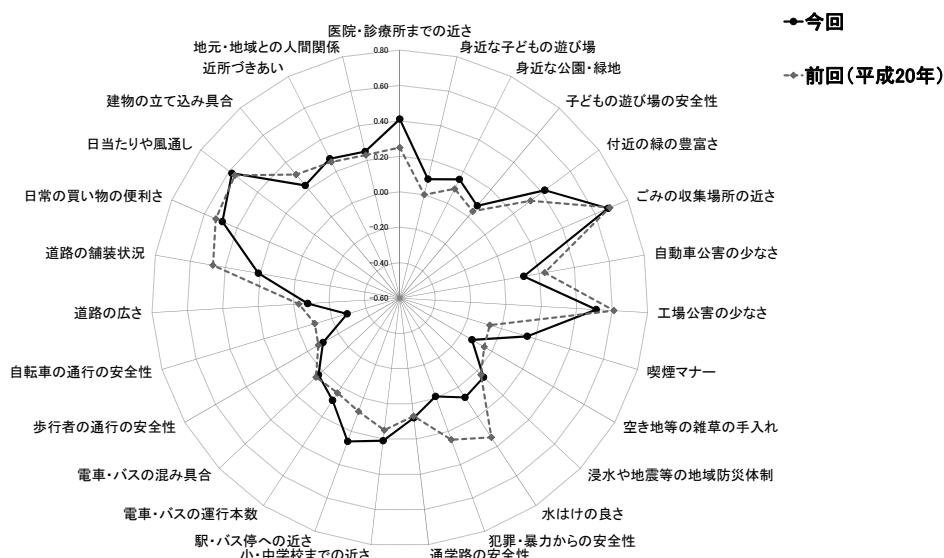


表 2-2-5 小学校区別「周辺生活環境評価の分析」(その4)

五条川小学校区



【ベスト5】

【ワースト5】

①	ごみの収集場所の近さ	0.68	①	自転車の通行の安全性	-0.29
②	日当たりや風通し	0.58	②	空き地等の雑草の手入れ	-0.13
③	工場公害	0.51	③	歩行者の通行の安全性	-0.10
④	日常の買い物の便利さ	0.49	④	道路の広さ	-0.08
⑤	付近の緑の豊富さ	0.42	⑤	犯罪・暴力からの安全性	-0.01

【他学区との比較】

全区区の中で最も評価が高かった項目は、「近所づきあい」「地元・地域との人間関係」「喫煙マナー」（曾野小学校区と同点）の3項目となっています。

全区区の中で最も評価が低かった項目は、「医院・診療所までの近さ」「電車・バスの運行本数」「小・中学校までの近さ」「自動車公害の少なさ」（岩倉南小学校区と同点）「水はけの良さ」「通学路の安全性」「自転車の通行の安全性」（岩倉南小学校区と同点）の7項目となっています。

【過去調査との比較】

前回（平成20年）と比較すると、ポイントが増加している項目数は、27項目中の14項目あり、そのうち0.2以上ポイントが増加している項目は「喫煙マナー」の1項目でした。

マイナス評価からプラス評価になった項目は「付近の緑の豊富さ」の1項目でした。

ポイントが減少している項目数は、27項目中13項目あり、そのうち0.2以上ポイントが減少している項目は、「水はけの良さ」「道路の舗装状況」「犯罪・暴力からの安全性」の3項目でした。

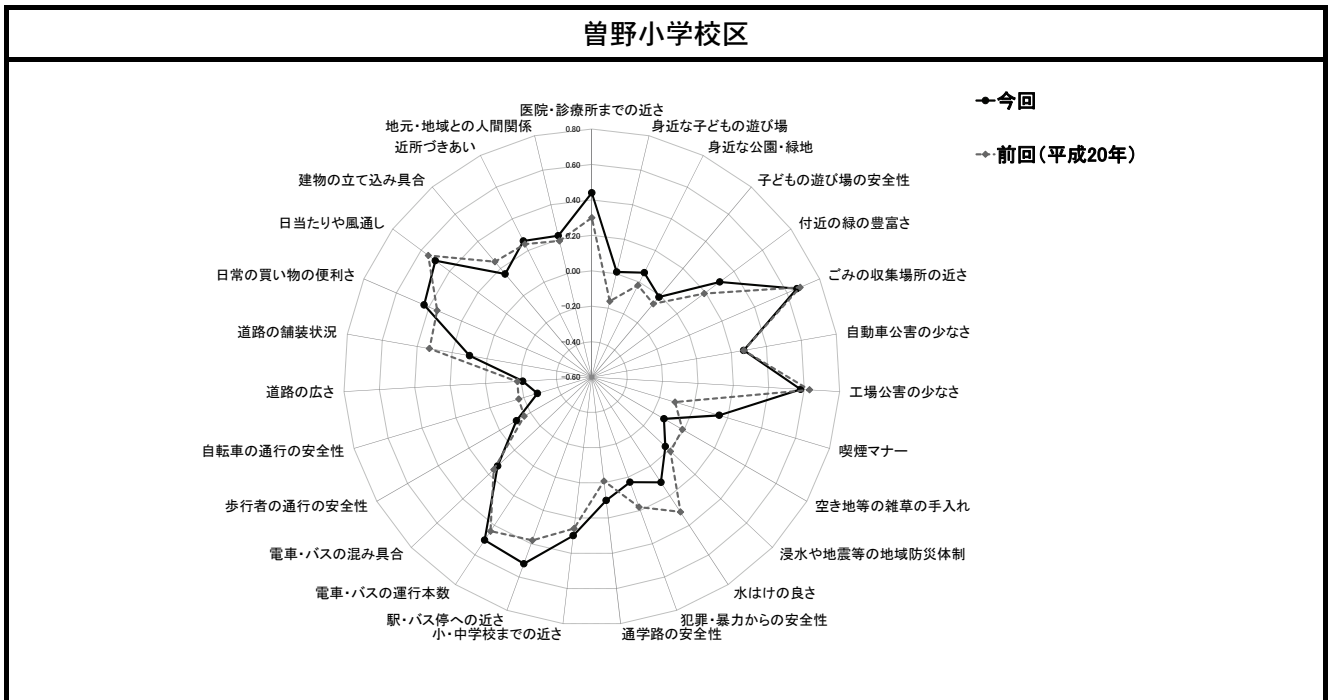
プラス評価からマイナス評価になった項目は「犯罪・暴力からの安全性」の1項目でした。

単純平均評価点は0.18ポイントで、前回（平成20年）と比較すると0.02ポイント減少しています。

【全体評価】

この学区は、「近所づきあい」「地元・地域との人間関係」などの近隣の人間関係や「付近の緑の豊富さ」の評価については、他の学区に比べて高いことが特徴といえます。

表 2-2-5 小学校区別「周辺生活環境評価の分析」(その5)



【ベスト5】			【ワースト5】		
①	ごみの収集場所の近さ	0.66	①	自転車の通行の安全性	-0.28
②	工場公害の少なさ	0.58	②	道路の広さ	-0.21
③	駅・バス停への近さ	0.52	③	空き地等の雑草の手入れ	-0.13
④	電車・バスの運行本数	0.50	④	歩行者の通行の安全性	-0.11
⑤	日当たりや風通し	0.50	⑤	浸水や地震等の地域防災体制	-0.03

【他学区との比較】

全学区の中で最も評価が高かった項目は、「工場公害の少なさ」（岩倉北小学校区、岩倉東小学校区と同点）「自動車公害の少なさ」「喫煙マナー」（五条川小学校区と同点）の3項目となっています。

全学区の中で最も評価が低かった項目は、「日当たりや風通し」「日常の買い物の便利さ」「建物の立て込み具合」「道路の舗装状況」（岩倉南小学校区と同点）「身近な公園・緑地」「身近な子どもの遊び場」「子どもの遊び場の安全性」「歩行者の通行の安全性」「道路の広さ」の9項目となっています。

【過去調査との比較】

前回（平成20年）と比較すると、ポイントが増加している項目数は27項目中の14項目あり、そのうち0.2以上ポイントが増加している項目は「喫煙マナー」の1項目でした。

マイナス評価からプラス評価になった項目は、「身近な子どもの遊び場」「身近な公園・緑地」「通学路の安全性」の3項目でした。

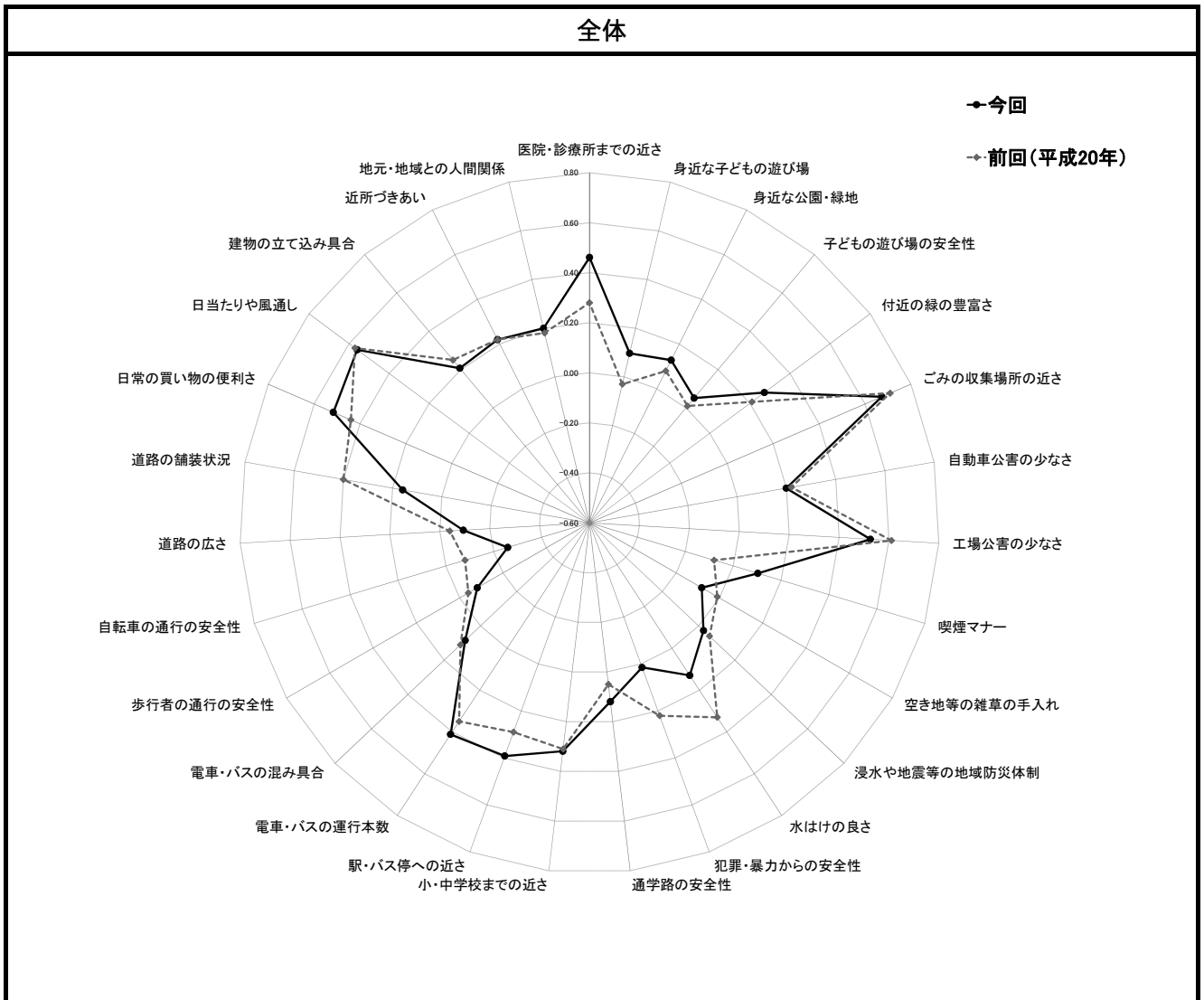
ポイントが減少している項目数は、27項目中13項目あり、そのうち0.2以上ポイントが減少している項目は「道路の舗装状況」「水はけの良さ」の2項目でした。

プラス評価からマイナス評価になった項目は、「浸水や地震等の地域防災体制」の1項目でした。単純平均評価点は0.19ポイントで、前回（平成20年）と比較すると0.01ポイント増加しています。

【全体評価】

全般的に評価は高くなっていますが、「身近な子どもの遊び場」「身近な公園・緑地」「子どもの遊び場の安全性」などの子どもの遊び場については、他の学区より評価が低くなっています。

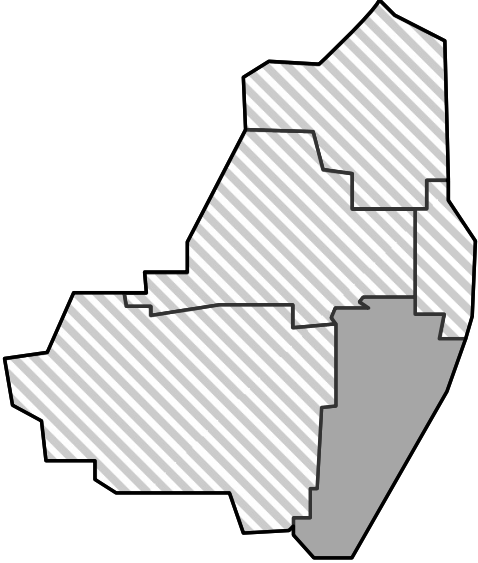
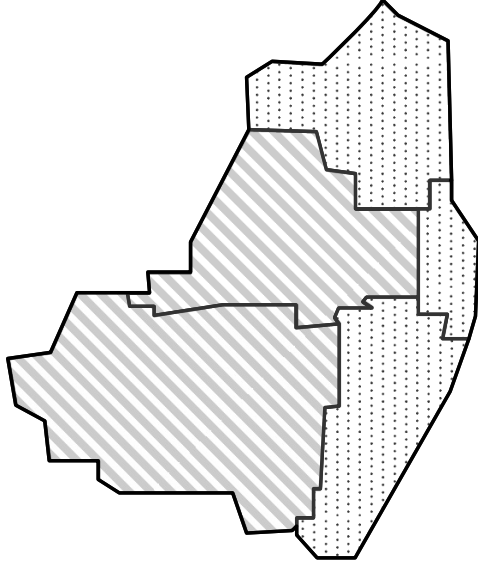
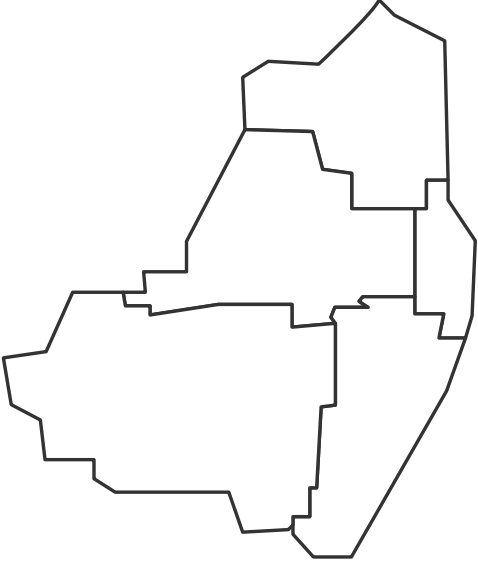
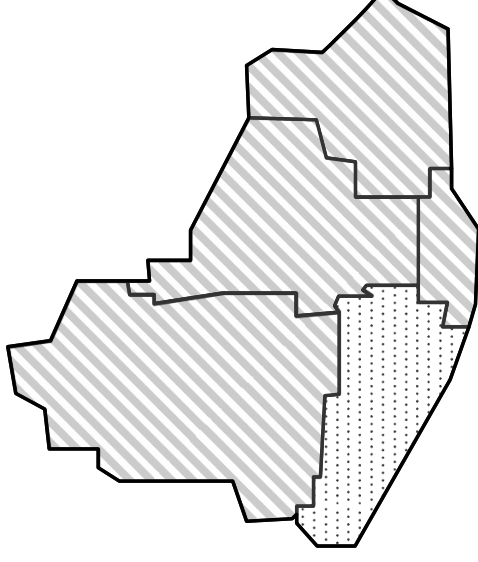
表 2-2-5 小学校区別「周辺生活環境評価の分析」(その6)

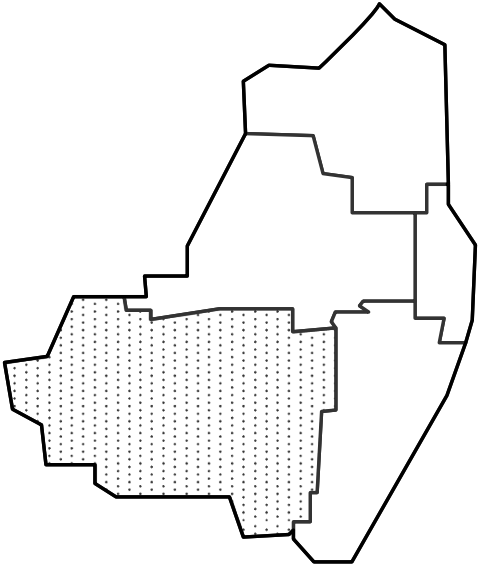
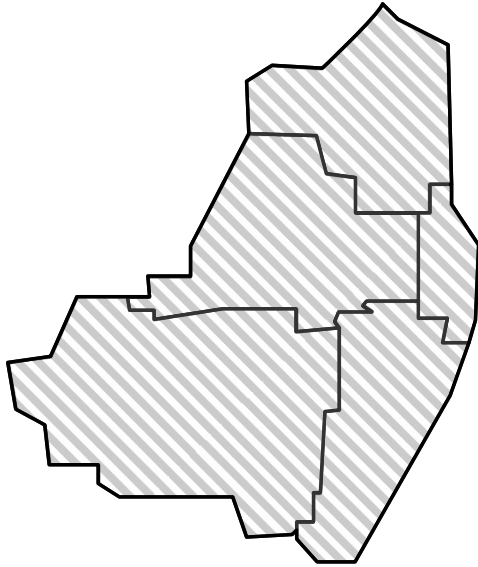
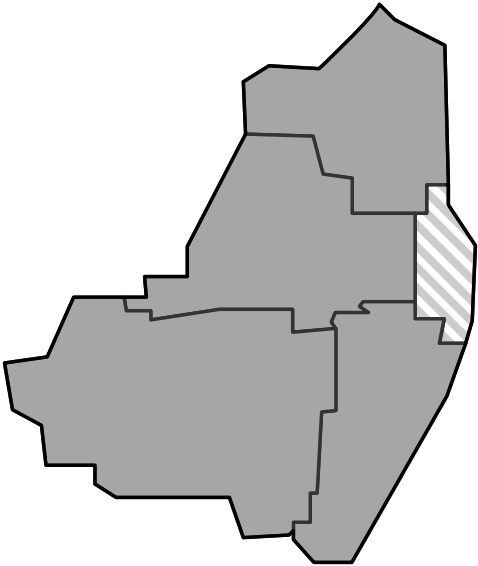
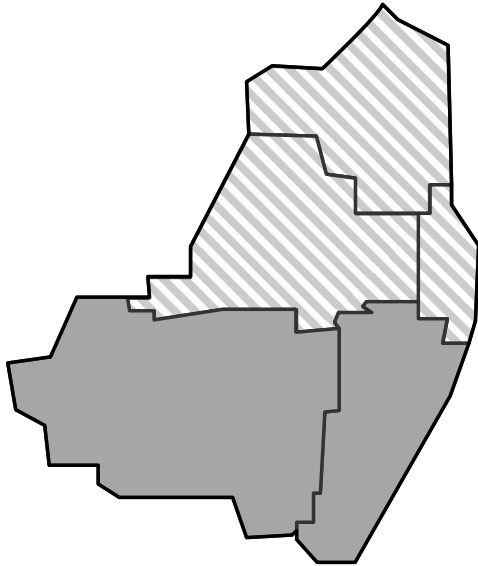


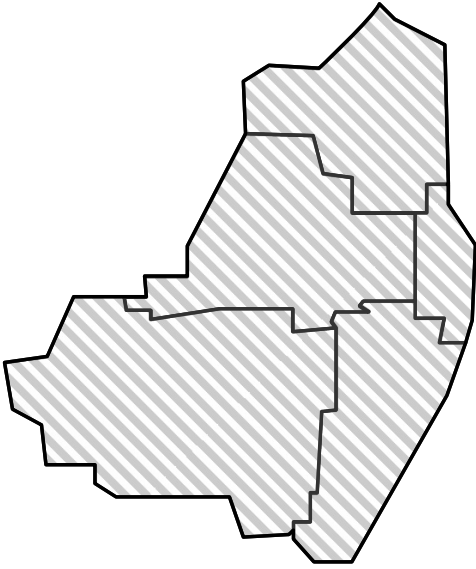
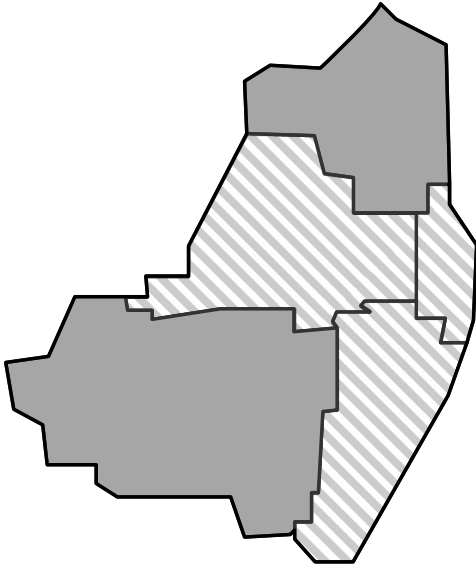
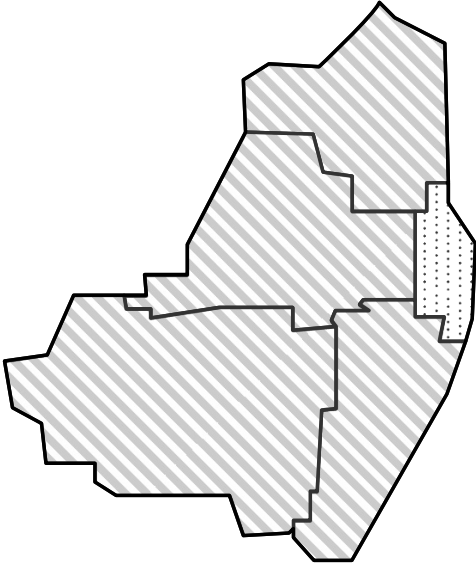
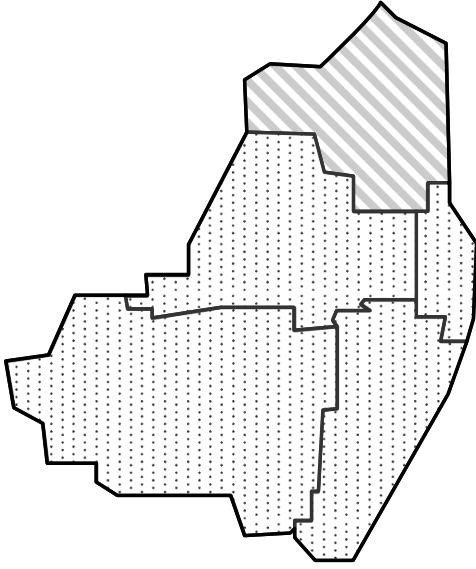
【ベスト5】			【ワースト5】		
①	ごみの収集場所の近さ	0.67	①	自転車の通行の安全性	-0.26
②	日当たりや風通し	0.56	②	道路の広さ	-0.09
③	工場公害の少なさ	0.53	③	空き地等の雑草の手入れ	-0.08
④	日常の買い物の便利さ	0.52	④	歩行者の通行の安全性	-0.08
⑤	医院・診療所までの近さ	0.46	⑤	犯罪・暴力からの安全性	0.01

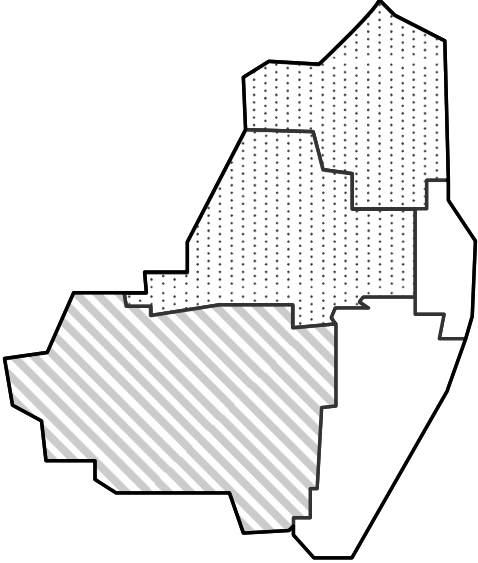
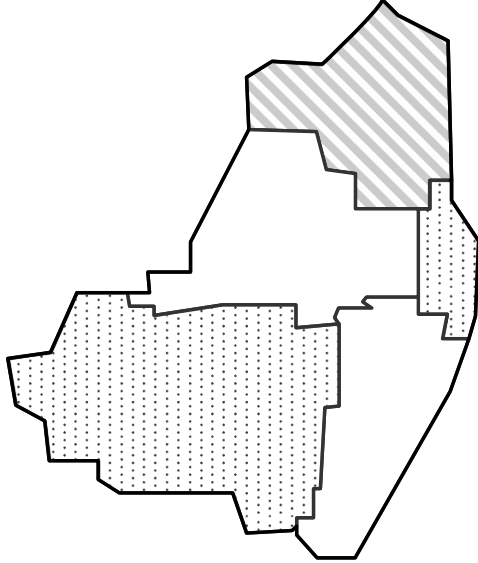
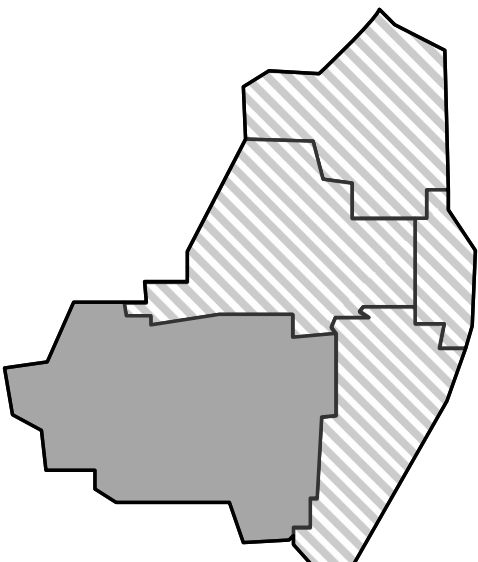
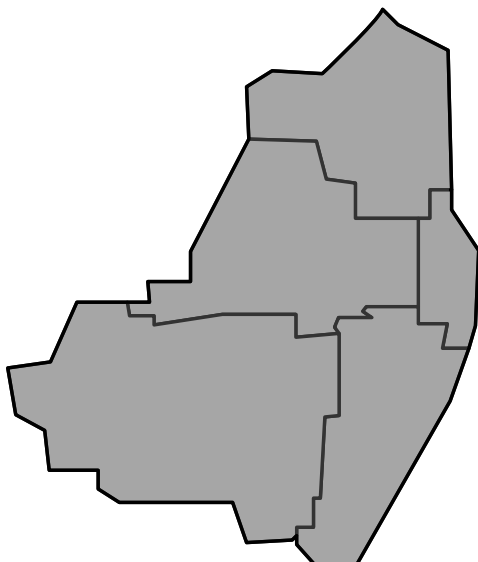
表 2-2-6 小学校区別「周辺生活環境評価」

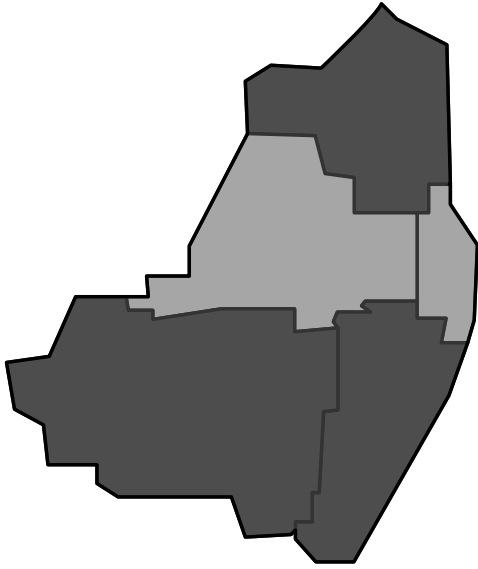
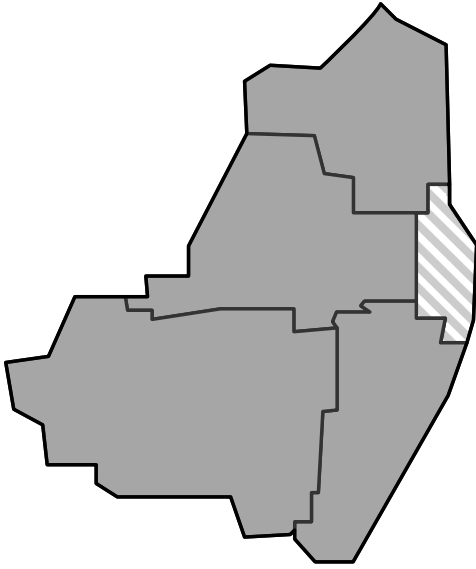
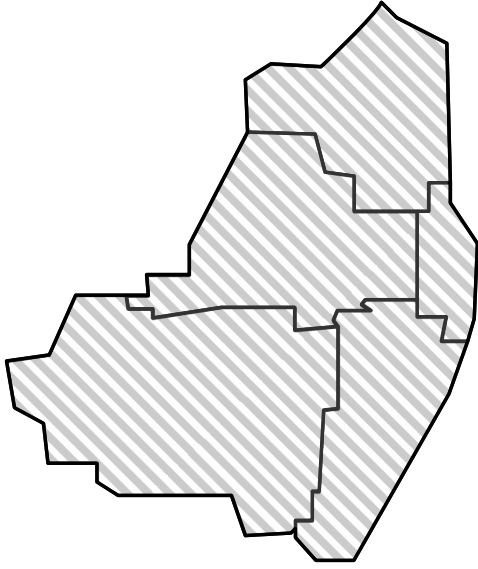
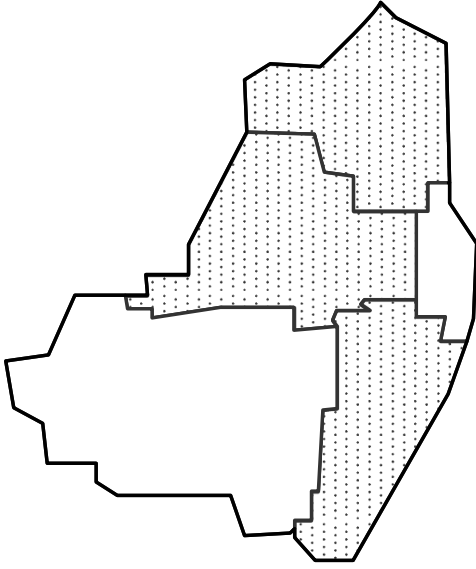
凡例		1. 医院・診療所までの近さ		順位	5		
		平均		0.46			
		<p>最も評価の高い岩倉東小学校区で 0.54、最も評価の低い五条川小学校区で 0.41 となっており、学区の差は 0.13 であまり大きくありません。</p> <p>全学区で 0.40 以上のプラス評価を得ています。</p>					
2. 身近な子どもの遊び場		順位	18	3. 身近な公園・緑地		順位	15
		平均	0.10			平均	0.13
<p>最も評価の高い岩倉東小学校区で 0.28、最も評価の低い曾野小学校区で 0.01 となっており、学区の差は 0.27 とやや大きくなっています。</p> <p>全学区でプラス評価を得ています。</p>		<p>最も評価の高い岩倉東小学校区で 0.30、最も評価の低い曾野小学校区で 0.06 となっており、学区の差は 0.24 とやや大きくなっています。</p> <p>全学区でプラス評価を得ています。</p>					

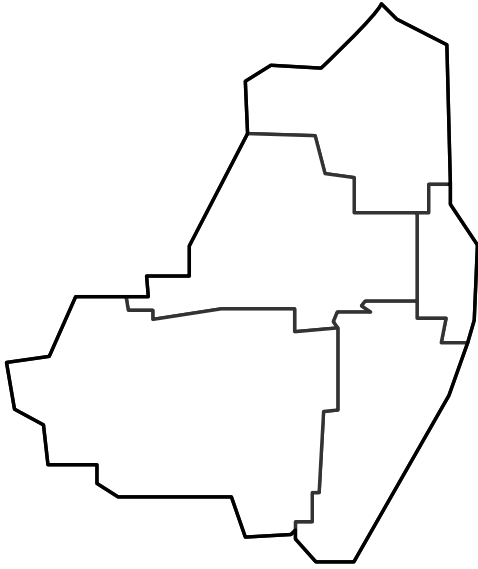
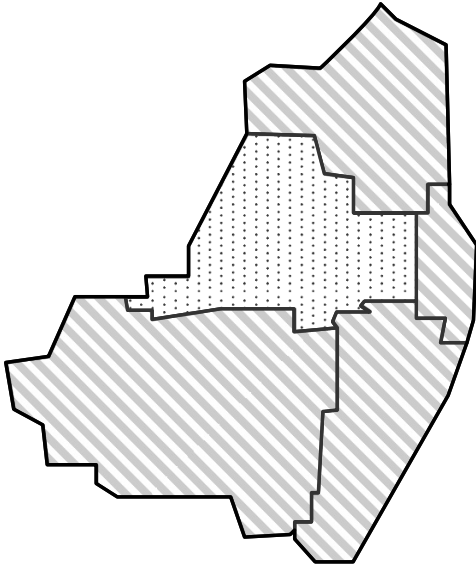
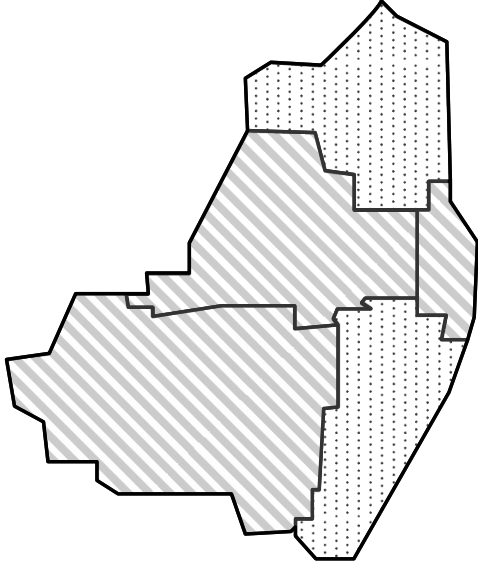
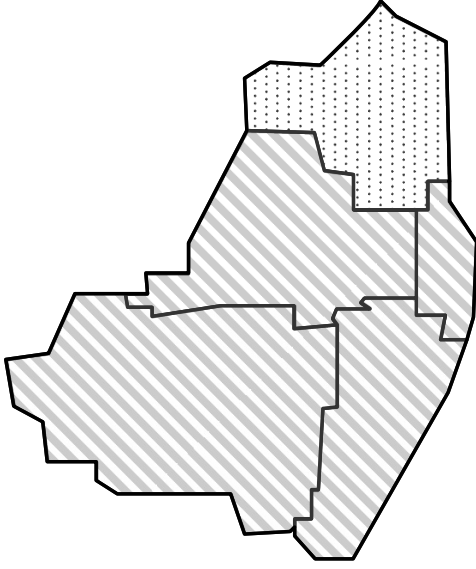
4. 子どもの遊び場の安全性	順位	21	5. 付近の緑の豊富さ	順位	9
	平均	0.05		平均	0.27
					
<p>曾野小学校区でマイナス評価となっています。他の学区はプラス評価ですが、最も高い評価の岩倉東小学校区で0.18となっており、全体的に低い評価となっています。</p>			<p>最も評価の高い岩倉東小学校区で0.47、最も評価の低い岩倉南小学校区で0.14となっており、学区の差は0.33と大きくなっています。全学区でプラス評価を得ています。</p>		
6. ごみの収集場所の近さ	順位	1	7. 自動車公害の少なさ	順位	12
	平均	0.67		平均	0.20
					
<p>最も評価の高い岩倉東小学校区で0.74、最も評価の低い岩倉南小学校区で0.64となっており、学区の差は0.10でありあまり大きくありません。全学区で0.6以上のプラス評価を得ています。</p>			<p>最も評価の高い曾野小学校区で0.27、最も評価の低い岩倉南小学校区・五条川小学校区で0.11となっており、学区の差は0.16でありあまり大きくありません。全学区でプラス評価を得ています。</p>		

8. 工場公害の少なさ	順位	3	9. 喫煙マナー	順位	18
	平均	0.53		平均	0.10
					
<p>岩倉南小学校区は0.36で他の学区に比べて評価が低くなっています。 他の学区は0.50以上の評価となっています。</p>			<p>最も評価の高い五条川小学校区・曽野小学校区で0.15、最も評価の低い岩倉東小学校区で0.05となっており、学区の差は0.10で大きくありません。</p>		
10. 空き地等の雑草の手入れ	順位	24	11. 浸水や地震等の地域防災体制	順位	22
	平均	-0.08		平均	0.03
					
<p>岩倉東小学校区のみ評価がプラスで、他学区はすべてマイナス評価となっています。 学区の差は0.32と大きくなっています。</p>			<p>プラス評価は、岩倉北小学校区・岩倉東小学校区・五条川小学校区で、マイナス評価は、岩倉南小学校区・曽野小学校区となっています。 学区の差は0.22とやや大きくなっています。</p>		

12. 水はけの良さ	順位	15	13. 犯罪・暴力からの安全性	順位	23
	平均	0.13		平均	0.01
					
<p>最も評価の高い岩倉東小学校区で0.23、最も評価の低い五条川小学校区で0.07となっており、学区の差は0.16でありあまり大きくありません。 全学区でプラス評価を得ています。</p>			<p>プラス評価は、岩倉北小学校区・岩倉東小学校区・曾野小学校区で、マイナス評価は、岩倉南小学校区・五条川小学校区となっています。 学区の差は0.09であり大きくありません。</p>		
14. 通学路の安全性	順位	17	15. 小・中学校までの近さ	順位	8
	平均	0.12		平均	0.32
					
<p>最も評価の高い岩倉東小学校区で0.28、最も評価の低い五条川小学校区で0.08となっており、学区の差は0.19でありあまり大きくありません。 全学区でプラス評価を得ています。</p>			<p>最も評価の高い岩倉東小学校区で0.48、最も評価の低い五条川小学校区で0.21となっており、学区の差は0.27でした。 全学区でプラス評価を得ています。</p>		

16. 駅・バス停への近さ	順位	7	17. 電車・バスの運行本数	順位	6
	平均	0.39		平均	0.41
					
<p>最も評価の高い岩倉東小学校区で0.57、最も評価の低い岩倉南小学校区で0.14となっており、学区の差は0.43とかなり大きくなっています。 全学区でプラス評価を得ています。</p>			<p>五条川小学校区は0.09で他の学区と比べるとかなり低くなっています。他の学区は0.38以上の評価を得ています。</p>		
18. 電車・バスの混み具合	順位	20	19. 歩行者の通行の安全性	順位	24
	平均	0.08		平均	-0.08
					
<p>岩倉南小学校区でマイナス評価となっています。他の学区はプラス評価ですが、最も高い評価の岩倉東小学校区で0.19となっており、全体的に低い評価となっています。</p>			<p>すべての学区でマイナス評価となっています。学区の差は0.08で大きくありませんが、全体的に低い評価となっています。</p>		

20. 自転車の通行の安全性	順位	27	21. 道路の広さ	順位	26
	平均	-0.26		平均	-0.09
					
<p>すべての学区でマイナス評価となっています。学区の差は0.07で大きくありませんが、全体的に低い評価となっています。</p>			<p>岩倉東小学校区以外の学区はマイナス評価です。全体的に低い評価となっています。</p>		
22. 道路の舗装状況	順位	14	23. 日常の買い物の便利さ	順位	4
	平均	0.16		平均	0.52
					
<p>最も評価の高い岩倉北小学校区で0.23、最も評価の低い岩倉南小学校区・曾野小学校区で0.10となっており、学区の差は0.13であまり大きくありません。全学区でプラス評価を得ています。</p>			<p>最も評価の高い岩倉東小学校区で0.71、最も評価の低い曾野小学校区で0.43となっており、学区の差は0.28でした。全学区で0.43以上のプラス評価を得ています。</p>		

24. 日当たりや風通し	順位	2	25. 建物の立て込み具合	順位	11
	平均	0.56		平均	0.21
					
<p>最も評価の高い岩倉東小学校区で0.62、最も評価の低い曾野小学校区で0.50となっており、学区の差は0.12でありあまり大きくありません。 全学区で0.50以上のプラス評価を得ています。</p>			<p>最も評価の高い岩倉北小学校区で0.25、最も評価の低い曾野小学校区で0.16となっており、学区の差は0.10でありあまり大きくありません。 全学区でプラス評価を得ています。</p>		
26. 近所づきあい	順位	10	27. 地元・地域との人間関係	順位	12
	平均	0.22		平均	0.20
					
<p>最も評価の高い五条川小学校区で0.28、最も評価の低い岩倉東小学校区で0.15となっており、学区の差は0.13でありあまり大きくありません。 全学区でプラス評価を得ています。</p>			<p>最も評価の高い五条川小学校区で0.25、最も評価の低い岩倉東小学校区で0.13となっており、学区の差は0.12でありあまり大きくありません。 全学区でプラス評価を得ています。</p>		

【総合的住みやすさ別の評価】（表 2-2-7、図 2-2-6、図 2-2-7）

- ◆総合的な住みやすさの評価が高いほど生活環境評価も高く、それに対して総合的な住みやすさの評価が低いほど生活環境評価も低いという傾向が見られます。
- ◆評価点格差（項目別の最大値-最小値）の分布から、評価点格差が0.7以上ある項目は「日常の買い物の便利さ（0.84）」「歩行者の通行の安全性（0.84）」「駅・バス停への近さ（0.79）」、「道路の広さ（0.75）」「地元・地域との人間関係（0.74）」「医院・診療所までの近さ（0.73）」「付近の緑の豊富さ（0.72）」「身近な公園・緑地（0.71）」となっています。

総合的に住みやすいまちとしての評価をより多くの市民から得るためには、こうした項目に重点をおいた施策・事業の充実が効果的であると考えられます。

表 2-2-7 「周辺生活環境評価」評価点格差分布

評価点格差	0.8 以上	0.7 以上 0.8 未満	0.6 以上 0.7 未満	0.5 以上 0.6 未満	0.4 以上 0.5 未満	0.4 未満
項目数	2	6	8	4	5	2

図 2-2-6 「周辺生活環境評価」評価点格差

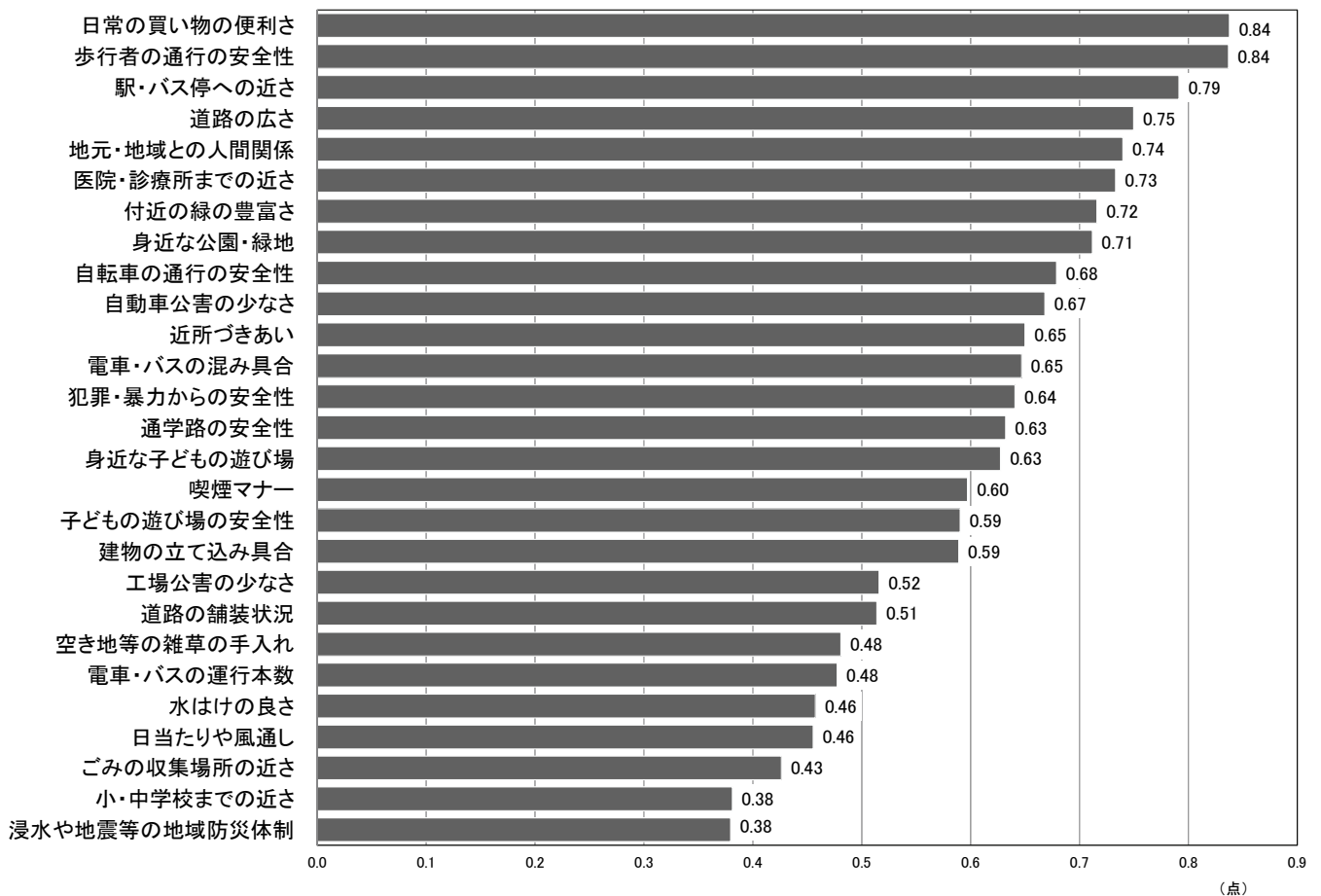
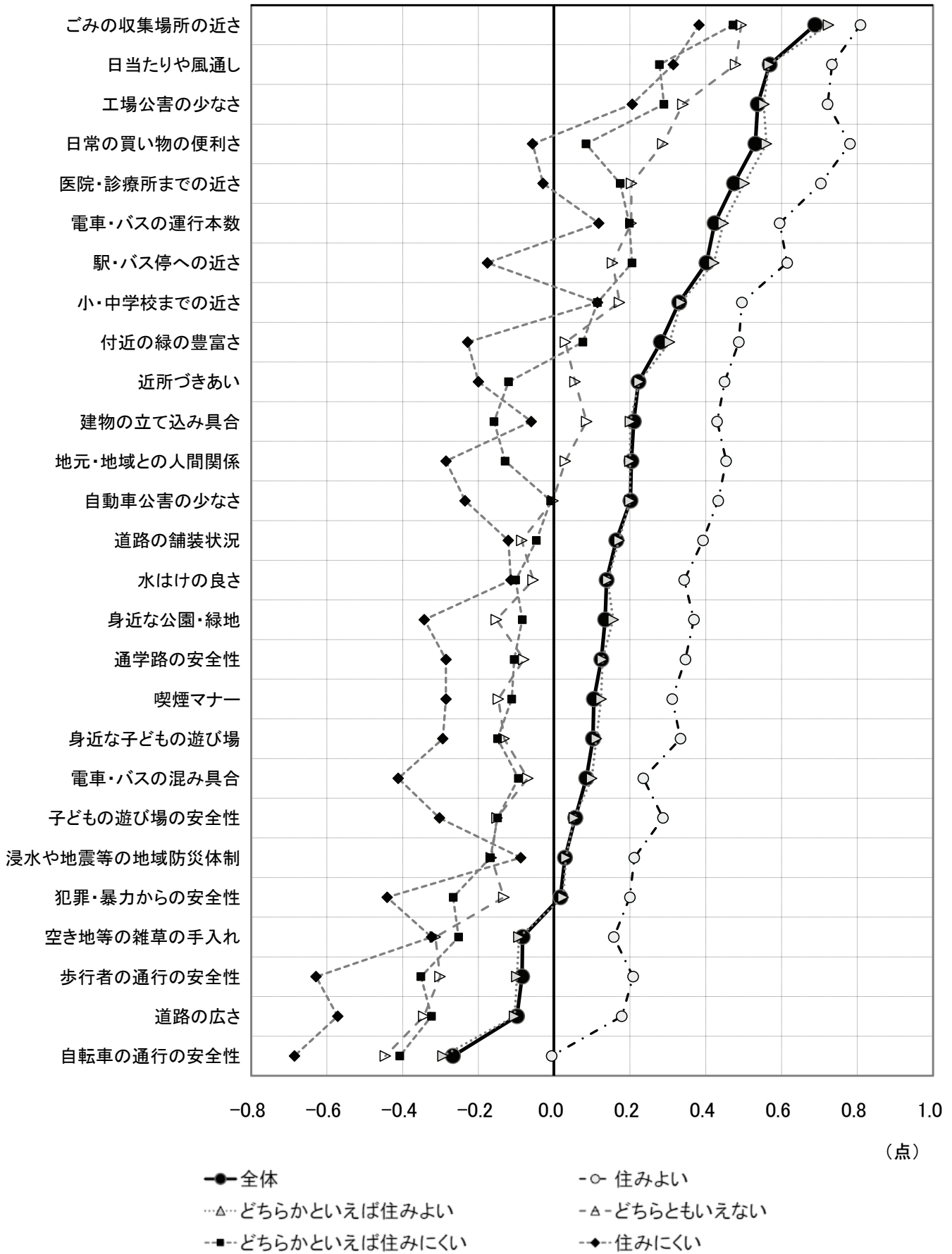


図 2-2-7 総合的な住みやすさ別「周辺生活環境評価」



2-3 生活の場としての評価

(問11) 次の観点から岩倉市を見た場合、どのように感じますか。

【1つずつ選んで○をつけてください。】

5項目中「家族で休日や余暇を過ごすまち」だけがマイナス評価となっており、それ以外の項目についてはプラスの評価を得ています。「子育てするまち」「児童・生徒・学生が生活するまち」「家庭を預かる主婦（主夫）が暮らすまち」「高齢者が生活するまち」については、前回調査に比較して評価が下がっています。全項目にわたって岩倉南小学校区における評価が最も低くなっています。

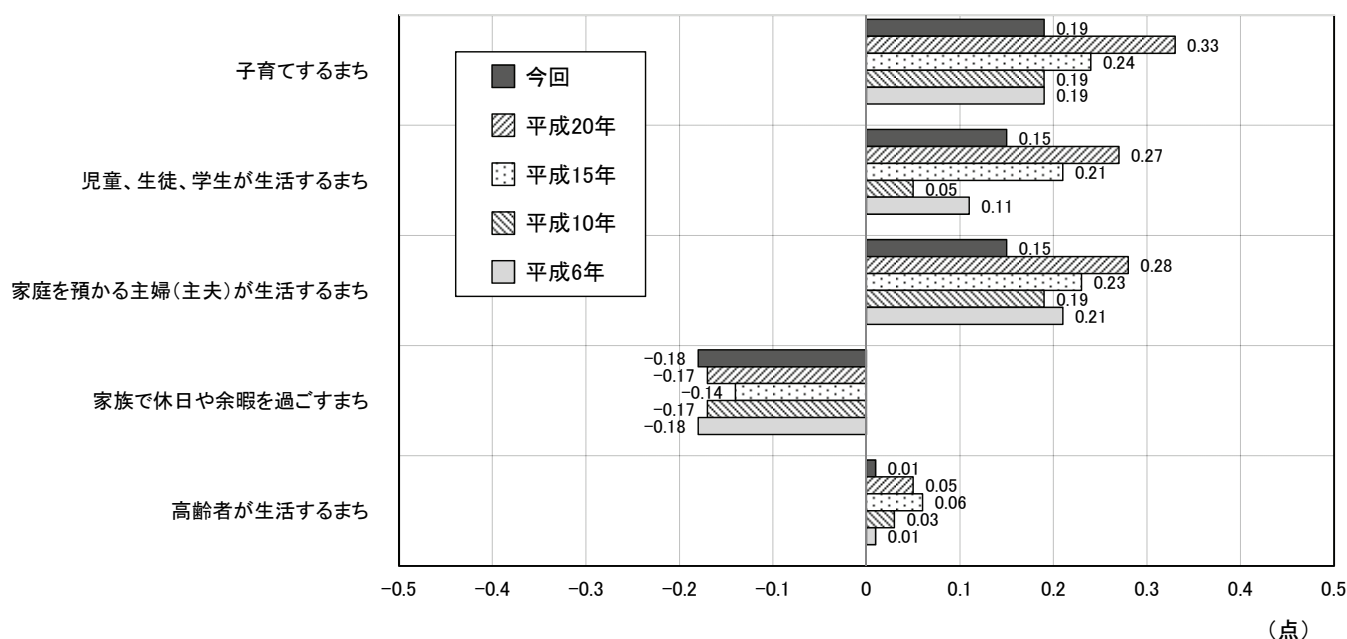
【評価点の算定方法】

岩倉市を生活の場としてどのように感じているのかについて、「子育てするまち」「児童・生徒・学生が生活するまち」「家庭を預かる主婦（主夫）が暮らすまち」「家族で休日や余暇を過ごすまち」「高齢者が生活していくまち」の5項目に分けて評価を求め、「良い」を+1点、「普通」を0点、「悪い」を-1点として評価点を算定しました。

【全体】(図2-3-1)

- ◆「子育てするまち」が0.19で最も高くなっています。「児童・生徒・学生が生活するまち」「家庭を預かる主婦（主夫）が暮らすまち」が0.15、「高齢者が生活していくまち」が0.01とプラスの評価を得ています。
- ◆子ども・主婦（主夫）が暮らすまちとしての評価が高いのですが、平成20年調査と比較すると評価は下がっています。
- ◆「家族で休日や余暇を過ごすまち」が-0.18で、5項目の中で唯一マイナス評価となっています。
- ◆本市の場合は市域が狭いために、レジャー施設や公園などの余暇の場をまとめた面積で確保することが困難であることもあり、過去の調査から依然としてマイナスの評価が続いています。

図 2-3-1 「生活の場としての評価」(過去調査との比較)



【小学校区別】(図 2-3-2、図 2-3-3)

- ◆ 前回調査との比較を交えながら各項目についてみると、まず、「子育てするまち」、「児童、生徒、学生が生活するまち」、「家庭を預かる主婦(主夫)が生活するまち」については、すべての小学校区で評価が下がっています。「家族で休日や余暇を過ごすまち」については、唯一岩倉南小学校区が前回調査を上回っています。
- ◆ 「子育てするまち」については、五条川小学校区・曾野小学校区では 0.22 と他の小学校区に比べ評価が高く、岩倉南小学校区では 0.14 で他の小学校区に比べて評価が低くなっています。また、すべての小学校区で前回調査よりも評価が下がっています。
- ◆ 「児童、生徒、学生が生活するまち」については、五条川小学校区では 0.21 と他の小学校区に比べて評価が高く、岩倉南小学校区では 0.11 で他の小学校区に比べて評価が低くなっています。また、すべての小学校区で前回調査よりも評価が下がっています。
- ◆ 「家庭を預かる主婦(主夫)が生活するまち」については、五条川小学校区では 0.17 と他の小学校区に比べて若干評価が高く、岩倉南小学校区では 0.11 で他の小学校区に比べて評価が低くなっています。また、すべての小学校区で前回調査よりも評価が下がっています。
- ◆ 「高齢者が生活するまち」については、五条川小学校区では 0.06 と他の小学校区に比べ評価が高く、岩倉南小学校区では -0.05 で唯一マイナス評価となっています。また、前回調査と比較すると、岩倉東小学校区が前回調査と同じ評価で、他の小学校区では前回調査よりも評価が下がっています。
- ◆ 「家族で休日や余暇を過ごすまち」については、全小学校区でマイナス評価となっており、しかも、前回調査よりも、岩倉南小学校区を除いた 4 小学校区で評価が下がっています。
- ◆ 今回調査では、五条川小学校区における評価が全項目で最上位となっています。また岩倉南小学校区が全項目で最下位となっています。

図 2-3-2 小学校区別「生活の場としての評価」(今回)

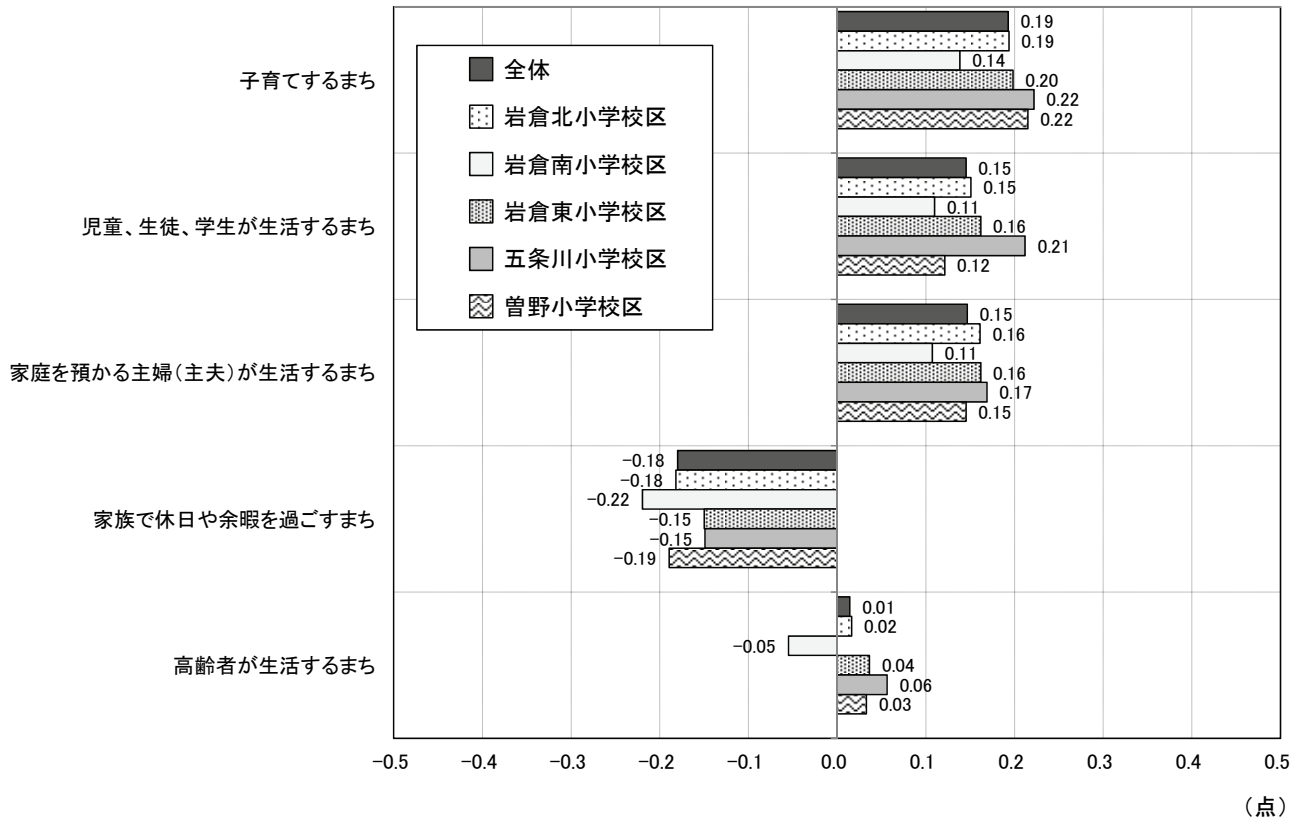
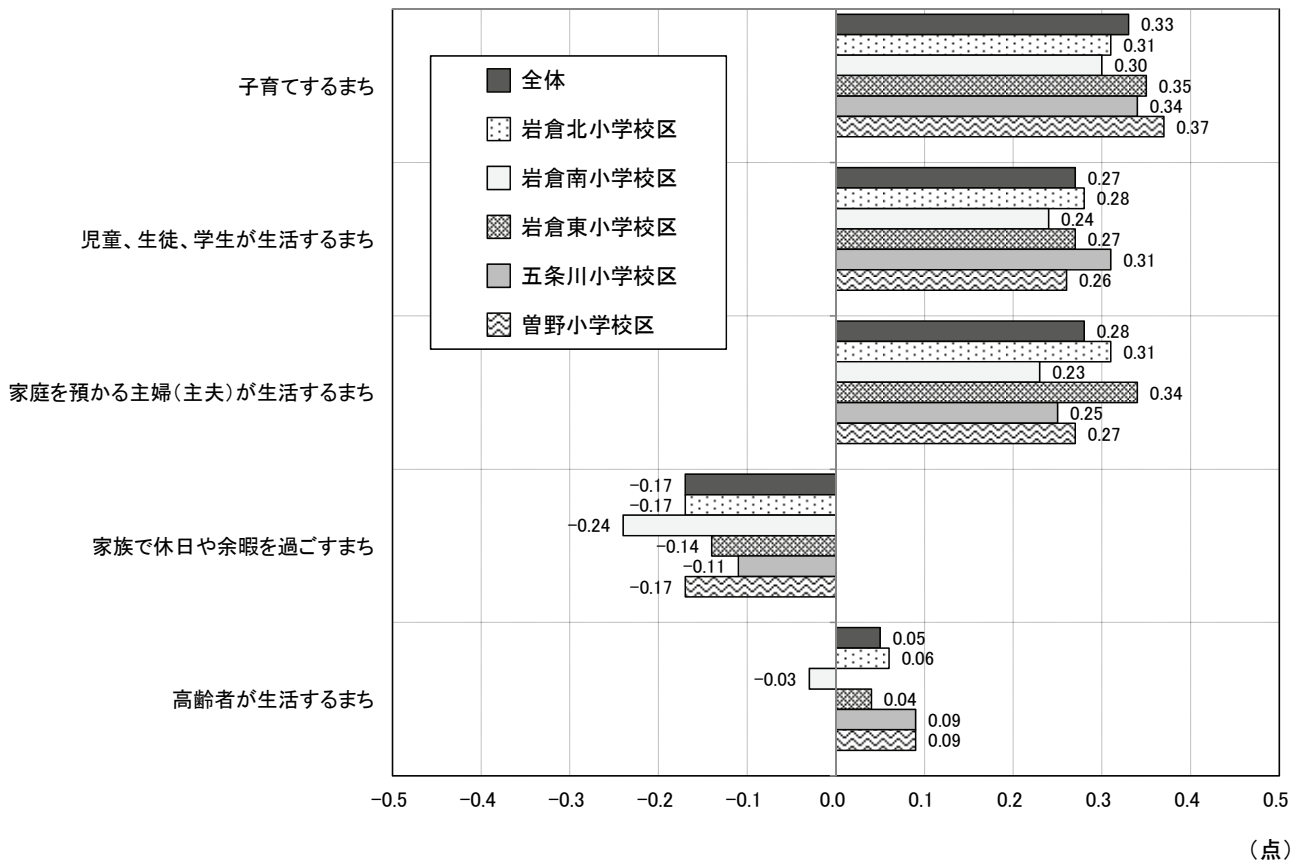


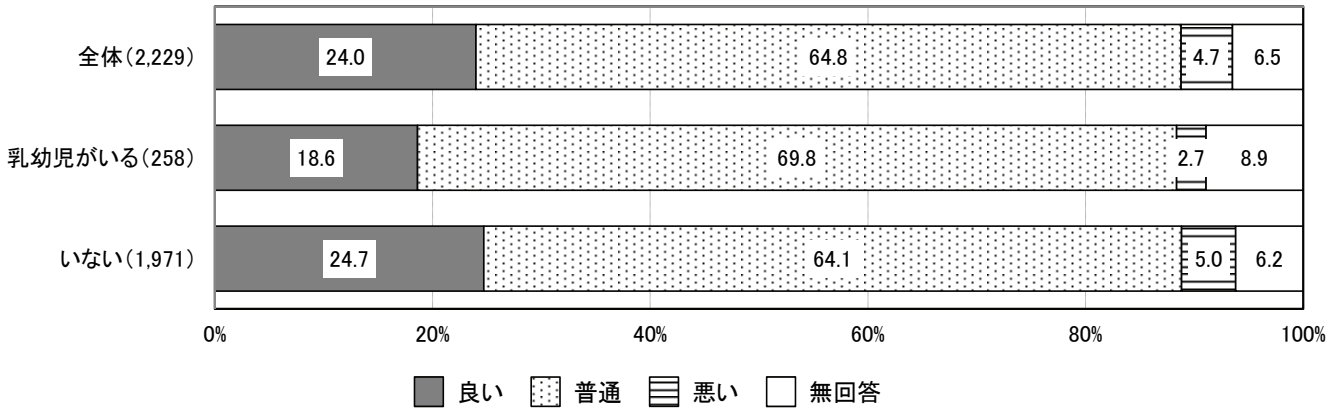
図 2-3-3 小学校区別「生活の場としての評価」(平成 20 年)



【子育てするまちとしての評価】(図 2-3-4)

◆世帯における乳幼児の有無別に「子育てするまち」としての評価についてみると、「良い」とする評価については、乳幼児がいる市民は18.6%と、いない市民の24.7%より6.1ポイント下回っています。一方で、「悪い」とする評価については、乳幼児がいる市民は2.7%となっており、いない市民の5.0%よりも2.3ポイントですが下回っています。

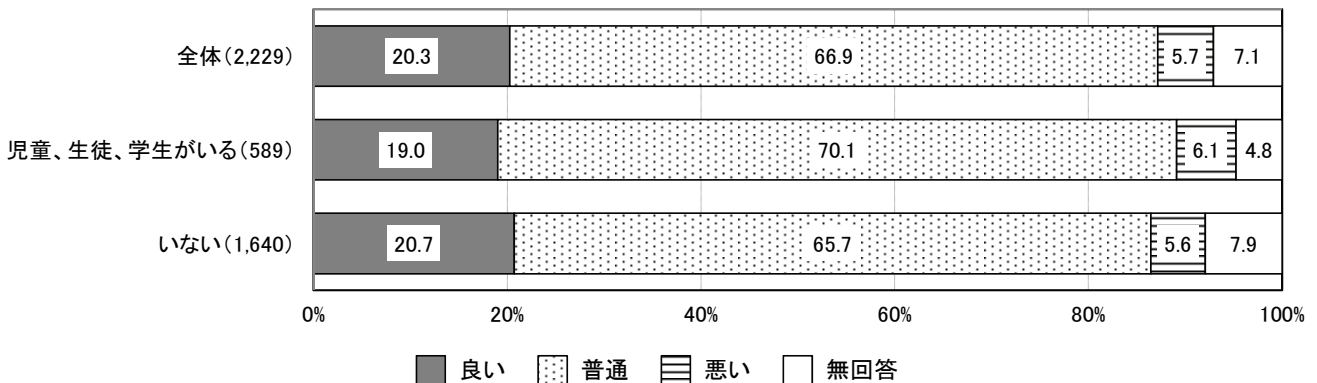
図 2-3-4 世帯における乳幼児の有無別「子育てするまちとしての評価」



【児童、生徒、学生が生活するまちとしての評価】(図 2-3-5)

◆世帯における児童、生徒、学生の有無別に「児童、生徒、学生が生活するまち」としての評価についてみると、「良い」については、児童、生徒、学生がいる市民では19.0%と、いない市民の20.7%よりも1.7ポイント下回っています。「悪い」とする評価についても、児童、生徒、学生がいる市民においては6.1%となっており、いない市民の5.6%よりもわずか0.5ポイントですが上回っています。

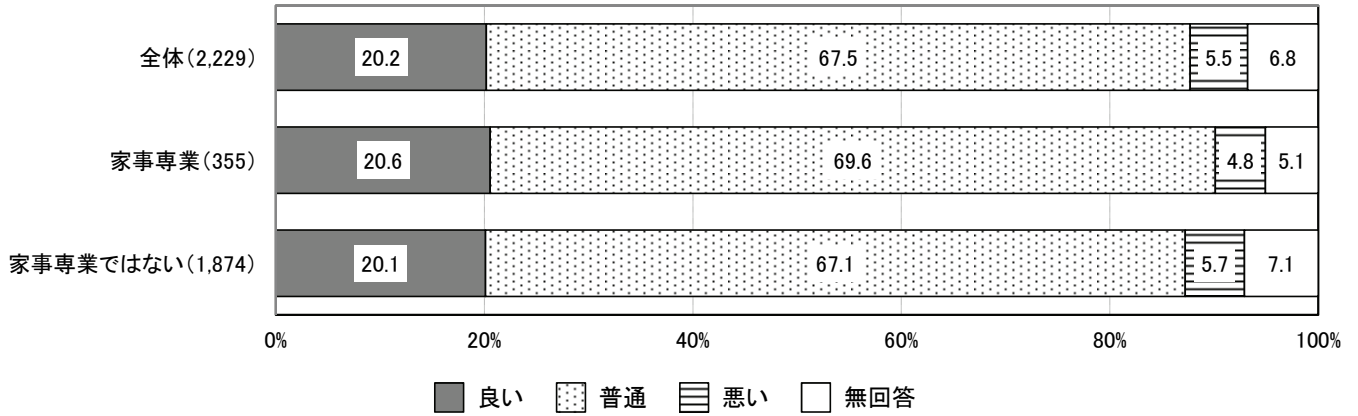
図 2-3-5 世帯における児童、生徒、学生の有無別「児童、生徒、学生が生活するまちとしての評価」



【家庭を預かる主婦(主夫)が生活まちとしての評価】(図 2-3-6)

◆家事專業別に「家庭を預かる主婦(主夫)が生活するまち」としての評価についてみると、「良い」については、家事專業がいる市民では20.6%と、いない市民の20.1%よりも0.5ポイント上回っています。一方で、「悪い」とする評価については、家事專業がいる市民においては4.8%となっており、いない市民の5.7%よりも0.9ポイントですが下回っています。

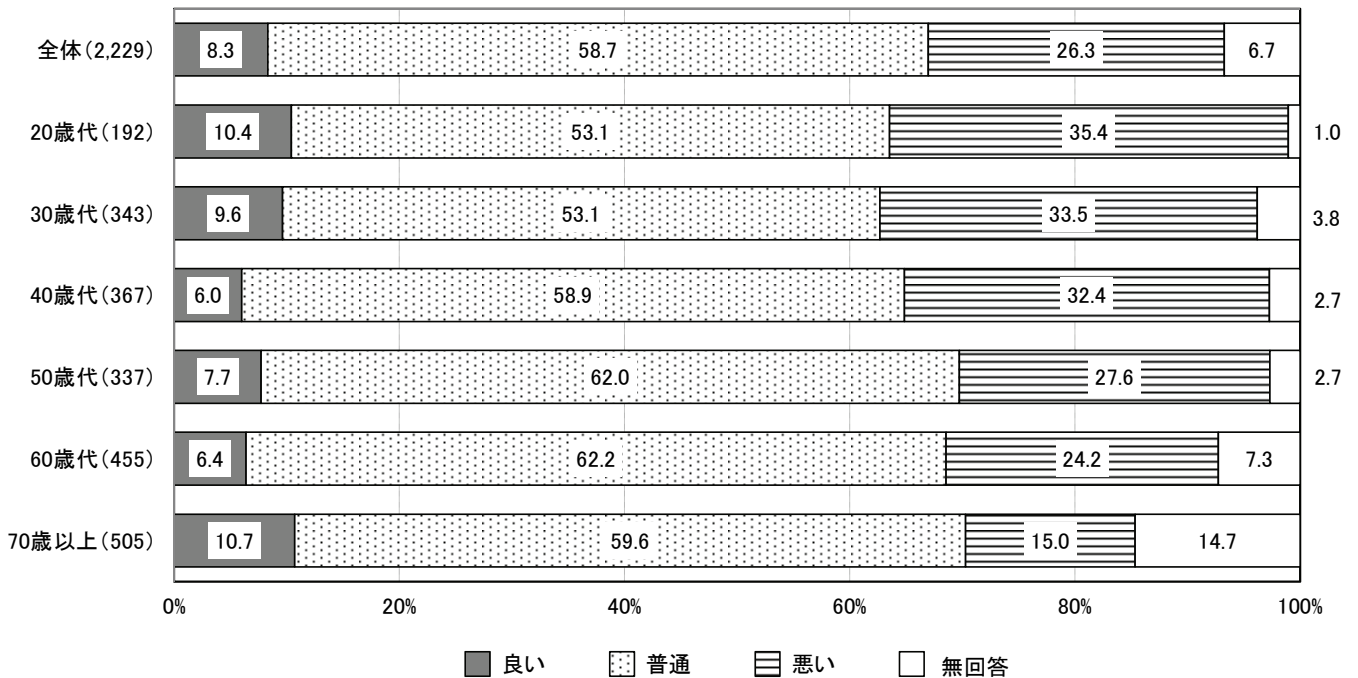
図 2-3-6 世帯における家事專業の有無別「家庭を預かる主婦(主夫)が生活するまちとしての評価」



【家族で休日や余暇を過ごすまちとしての評価】(図 2-3-7)

◆回答者の年齢別に「家族で余暇を過ごすまち」としての評価についてみると、「悪い」とする評価については、20歳代が35.4%、30歳代が33.5%、40歳代32.4%と、若年層ほど「悪い」とする評価が多く、年齢が高くなるにしたがって、その割合は順次少なくなる傾向が顕著にみられます。

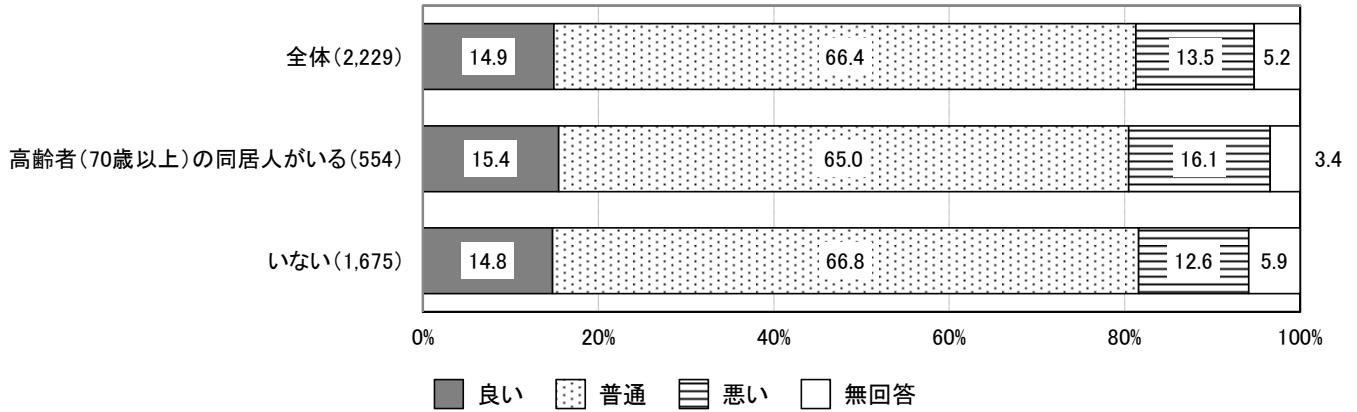
図 2-3-7 回答者の年齢別「家族で休日や余暇を過ごすまちとしての評価」



【高齢者が生活するまちとしての評価】(図 2-3-8)

- ◆この調査では、高齢者がいる市民は 70 歳以上の同居人がいる市民としています。
- ◆世帯における高齢者の有無別に「高齢者が生活するまち」としての評価についてみると、「良い」とする評価については、高齢者がいる市民は 15.4%と、いない市民の 14.8%よりわずかに 0.6 ポイント上回っています。一方で、「悪い」とする評価については、高齢者がいる市民は 16.1%となっており、いない市民の 12.6%より 3.5 ポイント上回っています。

図 2-3-8 世帯における高齢者の有無別「高齢者が生活するまちとしての評価」



2-4 定住意向

(問13) これからも岩倉市に住み続けたいと思いますか。【○は1つだけ】

岩倉市に“定住意向”を示している市民は72.7%を占めています。その割合は前回調査より6.8ポイント減少しています。一部を除き、年齢が高いほど、また、居住年数が長いほど“定住意向”の占める割合が多くなる傾向がみられます。

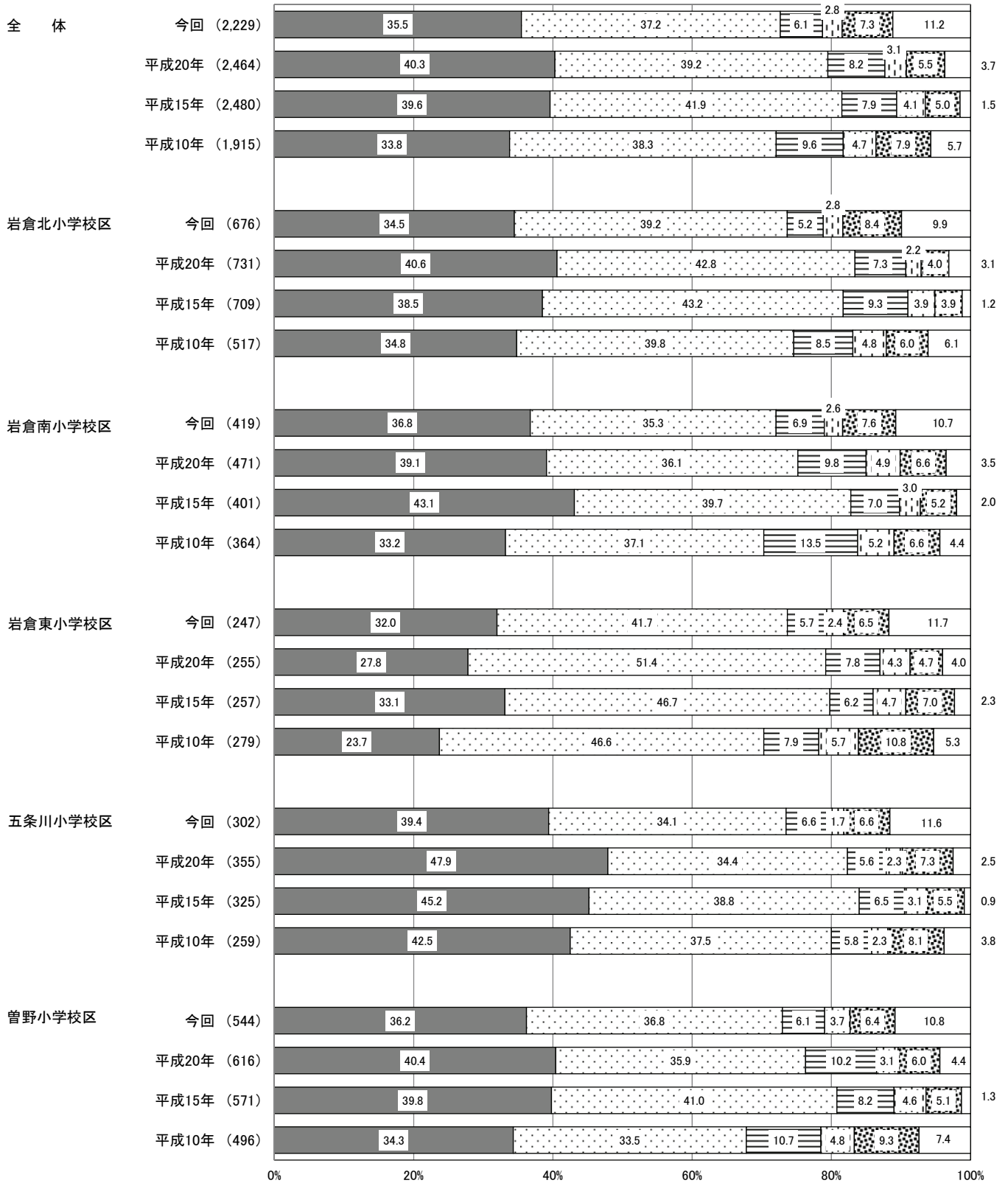
【全体】(図2-4-1)

- ◆「永住したい」が35.5%、「当分住み続けたい」が37.2%となっています。これらを合わせた岩倉市への定住の意向を持つ市民（以下、“定住意向”）は、72.7%を占めています。
- ◆「できれば移転したい」が6.1%、「移転する予定がある」が2.8%となっています。これらを合わせた岩倉市から移転の意向を持つ市民（以下、“移転意向”）については8.9%となっています。
- ◆過去の調査結果と比べると、前回調査では“定住意向”が79.5%であったのに対して、今回調査では72.7%となっており、今回調査では前回調査よりも6.8ポイント減少しています。

【小学校区別】(図2-4-1)

- ◆「永住したい」については、五条川小学校区において39.4%と全体値に比べて3.9ポイント多くなっています。逆に、岩倉東小学校区においては32.0%と全体値に比べて3.5ポイント少なくなっています。小学校区間の差は減少しています。
- ◆前回調査と比べると、「永住したい」が増加した小学校区は岩倉東小学校区（4.2ポイント）で、他の小学校区はすべて減少しています。特に五条川小学校区は8.5ポイント減少しています。
- ◆“定住意向”の割合は、すべての小学校区で前回調査よりもポイントが減少しています。なかでも、岩倉北小学校区において9.7ポイント減少しています。

図 2-4-1 小学校区別「定住意向」(過去調査との比較)



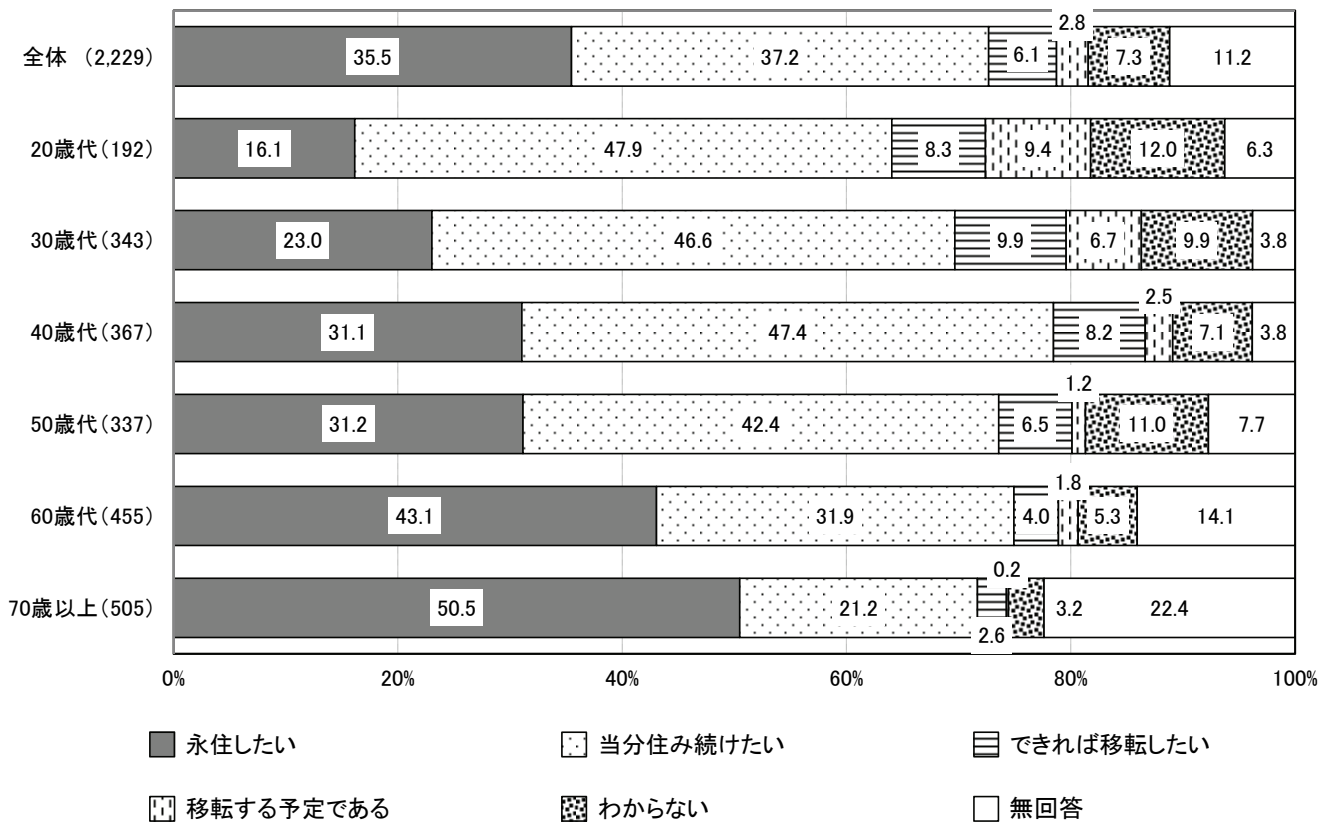
永住したい
 当分住み続けたい
 できれば移転したい

移転する予定である
 わからない
 無回答

【年齢別】(図 2-4-2)

- ◆年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがって「永住したい」の割合が順次多くなっており、20歳代の16.1%に対して、70歳以上では50.5%と、その差は34.4ポイントと大きくなっています。
- ◆“定住意向”については40歳代が78.5%と最も多く、20歳代が64.0%と最も少なくなっています。
- ◆逆に、“移転意向”については、20歳代で17.7%、30歳代では16.6%になっているのに対し、年齢が高くなるにしたがってその割合が少なくなる傾向がみられ、最も割合が少ない70歳以上ではわずか2.8%となっています。
- ◆また、「わからない」という回答についても20歳代では12.0%と最も多く、50歳代を除き年齢が高くなるにしたがってその割合が少なくなる傾向がみられます。
- ◆20歳代と30歳代については、就職や婚姻などによる移動の機会が多いため、“移転意向”という回答の占める割合が他の年齢層よりも多くなっているものと考えられます。
- ◆なお、最も“定住意向”を示す市民の割合が少ない20歳代でも64.0%と6割強が“定住意向”を示しており、“移転意向”を示している市民(17.7%)を46.3ポイントも上回っています。

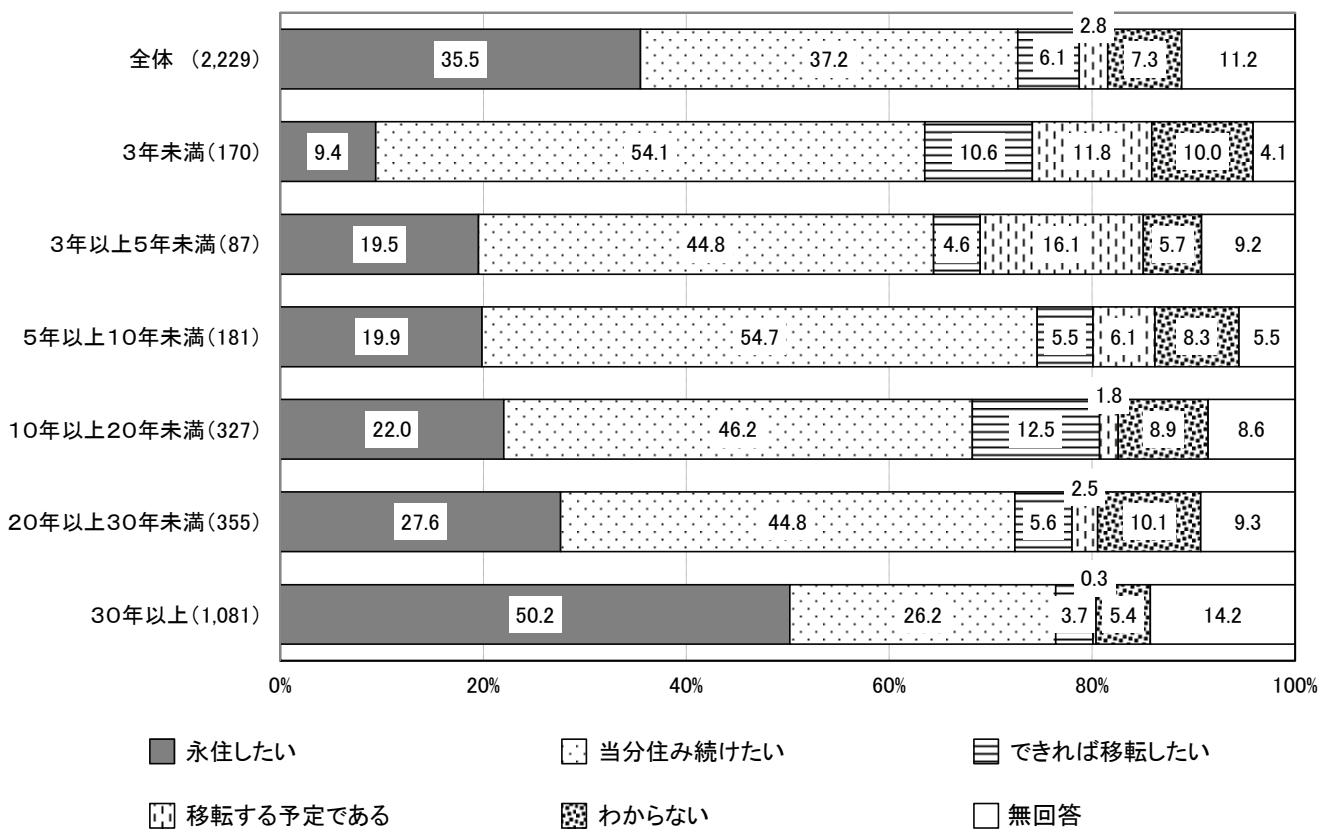
図 2-4-2 年齢別「定住意向」



【居住年数別】(図 2-4-3)

- ◆居住年数が長くなるにしたがって「永住したい」の割合が多くなっています。特に、居住年数が30年以上の市民層では「永住したい」という回答が50.2%を占め、際立って多くなっていることが特徴となっています。
- ◆“定住意向”については、30年以上が76.4%で最も多く、3年未満が63.5%と最も少なくなっています。差は12.9ポイントとなっています。5年以上10年未満を除き、居住年数が長くなるにしたがってその割合が多くなる傾向がみられます。
- ◆逆に、“移転意向”については、10年以上20年未満を除き、居住年数が短い程その割合が多くなる傾向が顕著にみられ、居住年数が最も短い3年未満の市民層では22.4%を占め最も多くなっています。

図 2-4-3 居住年数別「定住意向」



2-4-1 定住理由

(問13-1) 永住したい、当分住み続けたい理由は何ですか。【〇は3つまで】

定住理由については、「自分の家や土地がある」(61.1%)を理由とする市民が最も多く、「交通の便が良い」も比較的多くなっています。それ以外に、「愛着がある」「通勤・通学に便利」ということを理由とする人も少なくありません。

【全体】(図2-4-4)

- ◆「自分の家や土地がある」が61.1%と最も多くなっています。次いで「交通の便が良い」が38.1%、「愛着がある」が30.9%の順となっています。

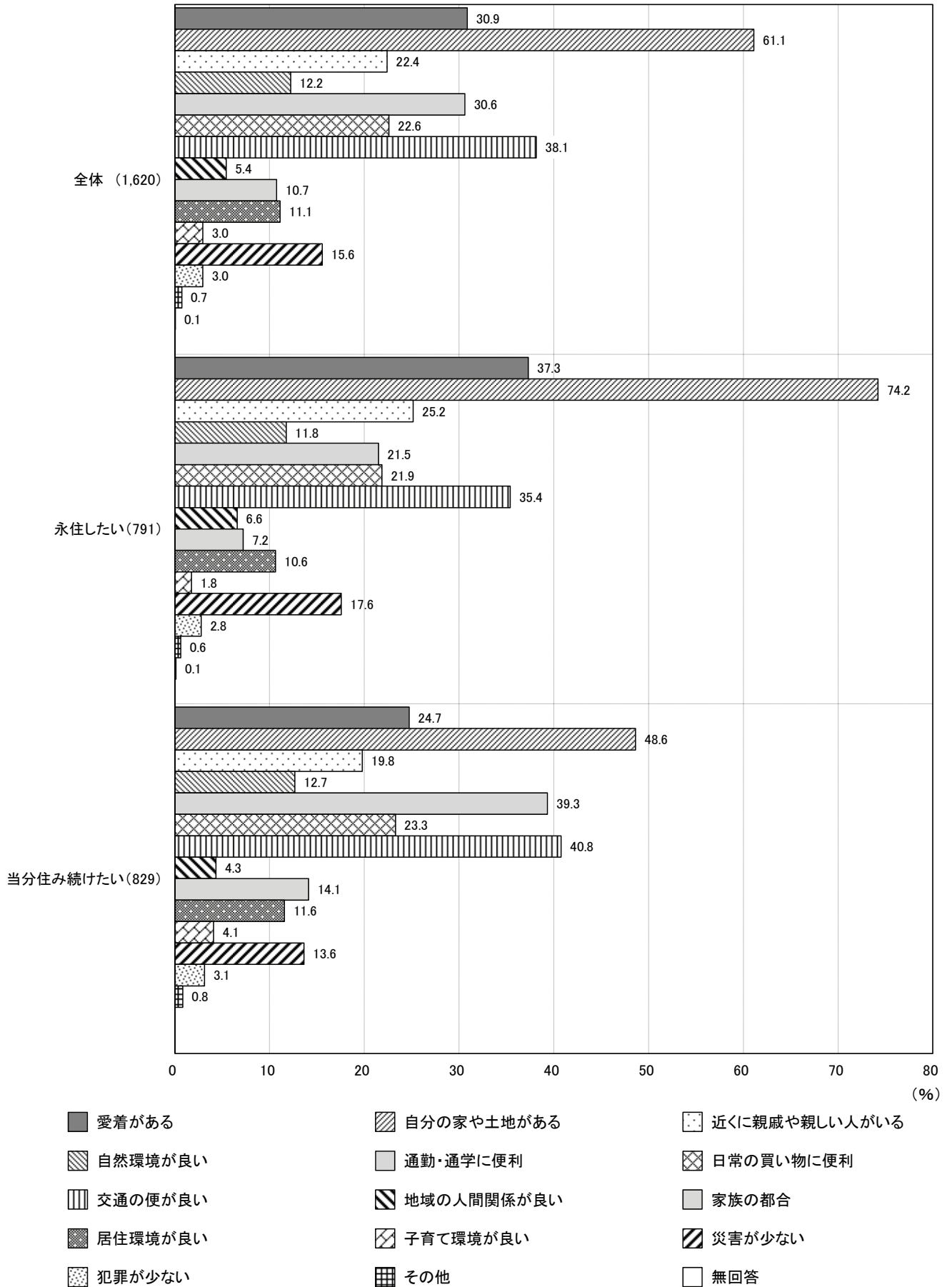
【永住したい理由】(図2-4-4)

- ◆永住したいとする理由については、「自分の家や土地がある」が74.2%と最も多く、次いで「愛着がある」が37.3%、「交通の便が良い」が35.4%となっています。

【当分住み続けたい理由】(図2-4-4)

- ◆当分住み続けたいとする理由については、こちらも「自分の家や土地がある」が48.6%と最も多く、次いで「交通の便が良い」が40.8%、「通勤・通学に便利」が39.3%となっています。

図 2-4-4 「定住理由」



2-4-2 移転理由

(問13-2) できれば移転したい、移転する予定である理由は何ですか。【〇は3つまで】

移転理由については、「自分の家や土地がない」(29.3%)という理由が最も多くなっています。次いで「愛着がない」となっています。そのほかに「近くに親戚や親しい人がいない」、「家族の都合」ということを理由とする人も少なくありません。

【全体】(図2-4-5)

- ◆「自分の家や土地がない」が29.3%で最も多くなっています。次いで「愛着がない」が28.8%、「近くに親戚や親しい人がいない」が21.2%となっています。「その他」が25.8%となっています。

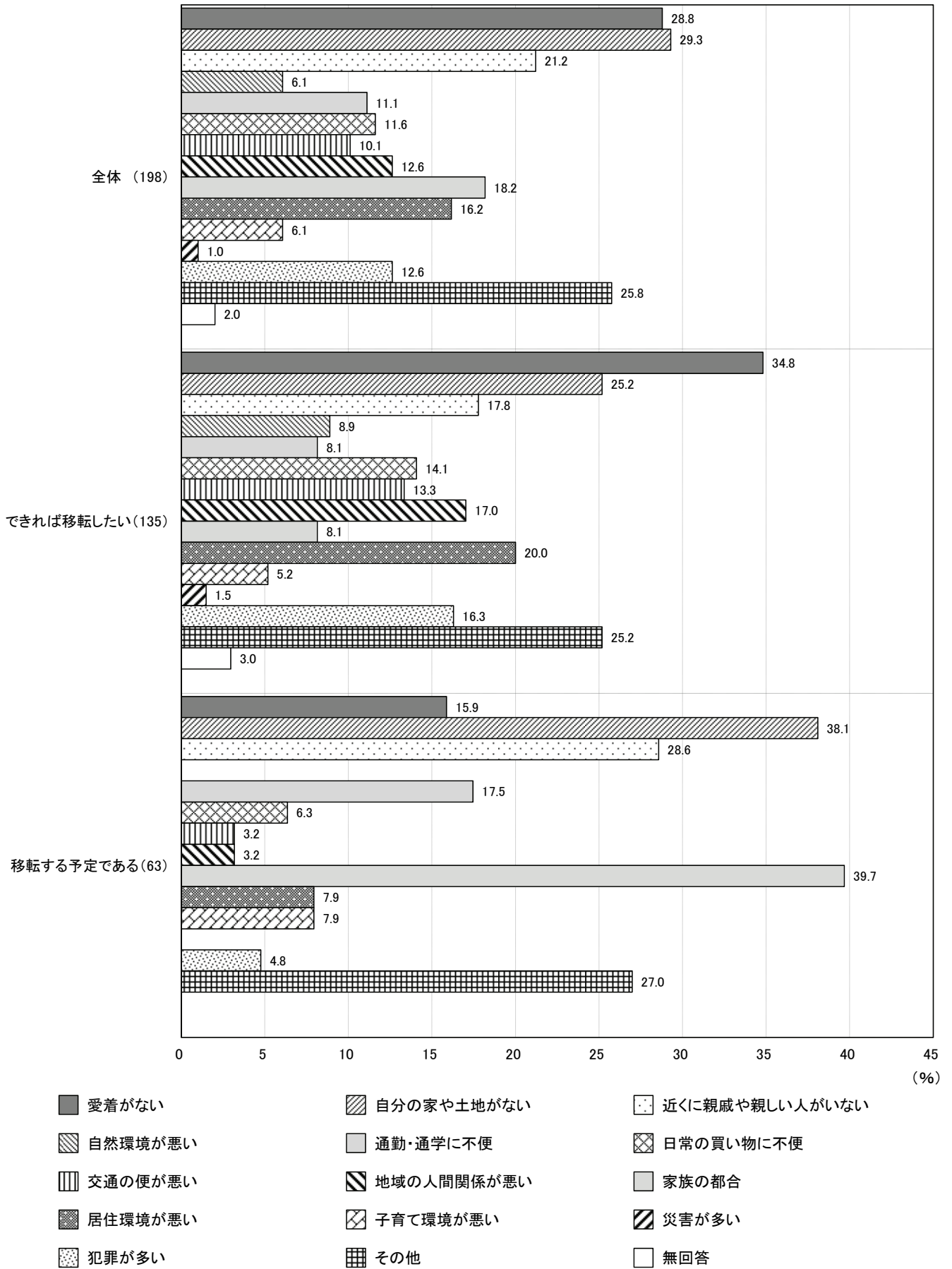
【できれば移転したい理由】(図2-4-5)

- ◆「愛着がない」が34.8%で最も多くなっています。次いで「自分の家や土地がない」が25.2%、「居住環境が悪い」が20.0%となっています。「その他」が25.2%となっています。

【移転する予定である理由】(図2-4-5)

- ◆「家族の都合」が39.7%と最も多く、次いで「自分の家や土地がない」が38.1%、「近くに親戚や親しい人がいない」が28.6%となっています。「その他」が27.0%となっています。

図 2-4-5 「移転理由」



2-5 住まい周辺の住環境の問題点

(問14) お住まいの周辺の住環境について問題であると感じていることはありますか。

【あてはまるものすべてに○】

61.3%の市民が、住まい周辺の住環境について何らかの問題点を感じています。

「道路が狭く、建物がごちゃごちゃしている」が33.3%と最も多く、次いで「農地が住宅に変わるなど身近な緑が減少している」が19.7%で多くなっています。

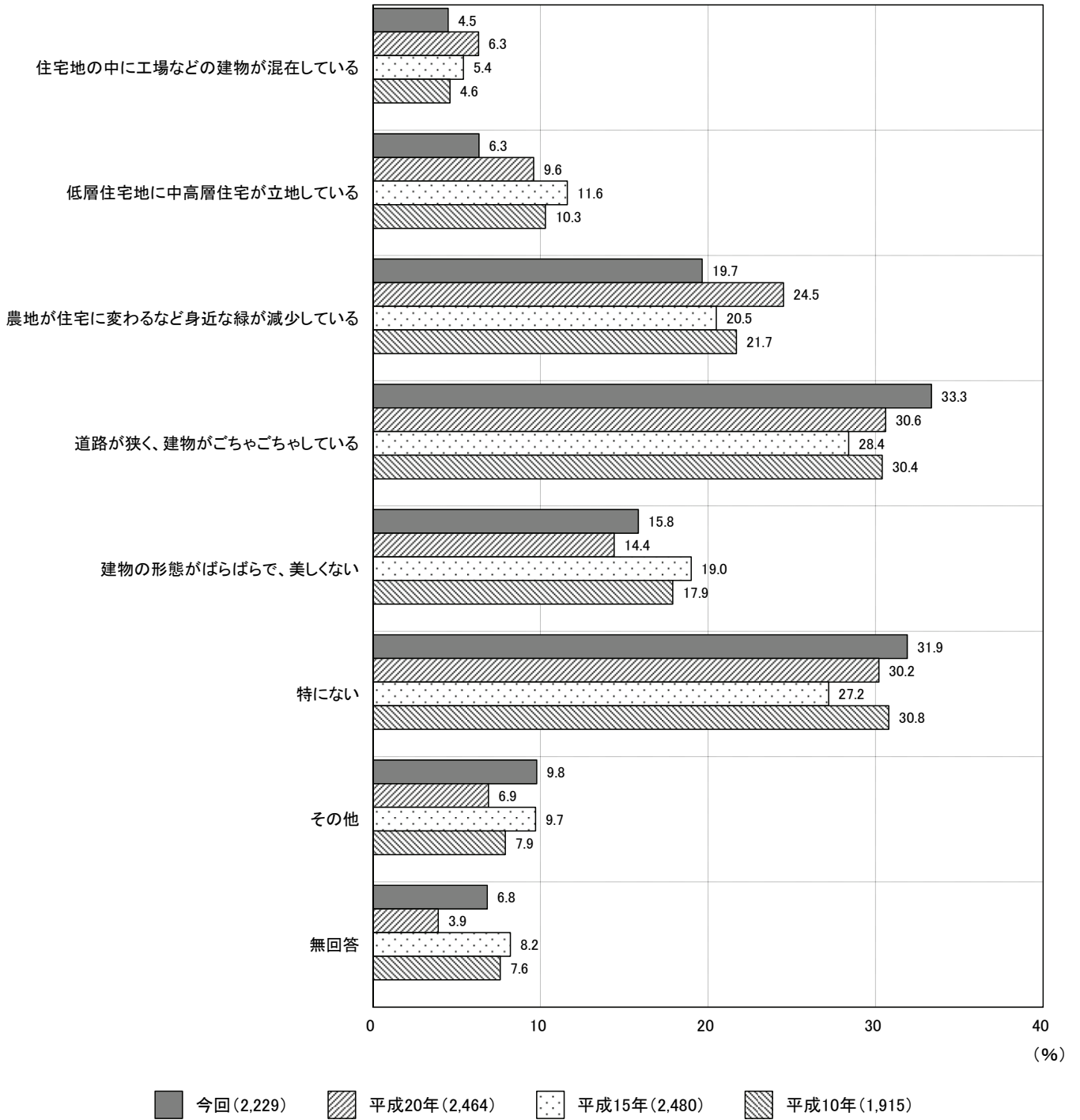
【全体】(図 2-5-1)

- ◆平成10年・15年・20年の調査に引き続いて、住まい周辺の住環境の問題点について尋ねたところ、「特になし」の31.9%に「回答なし」の6.8%を合わせた38.7%を除いた残りの61.3%の市民が、住まい周辺の住環境について何らかの問題点を感じています。
- ◆最も多くの市民が問題点として捉えている事項は「道路が狭く、建物がごちゃごちゃしている」で33.3%、次いで、「農地が住宅に変わるなど身近な緑が減少している」が19.7%、「建物の形態がばらばらで、美しくない」が15.8%という順になっています。
- ◆「低層住宅地に中高層住宅が立地している」(6.3%)と「住宅地の中に工場などの建物が混在している」(4.5%)については、共に10%未満とあまり大きな問題点となっていません。

【過去調査との比較】(図 2-5-1)

- ◆「道路が狭く、建物がごちゃごちゃしている」については、平成10年調査から平成15年調査にかけて、わずかながら減少しましたが、平成20年調査及び今回調査では増加しています。今回調査を平成20年調査と比較すると2.7ポイント増加しています。
- ◆「農地が住宅に変わるなど緑が減少している」については、平成10年調査から平成15年調査にかけてわずかながら減少しましたが、平成20年調査では増加しています。今回調査では4.8ポイント減少しています。
- ◆「建物の形態がばらばらで、美しくない」については、平成10年調査から平成15年調査にかけて増加しましたが、平成20年調査では減少しています。今回調査では1.4ポイント増加しています。
- ◆「低層住宅地に中高層住宅が立地している」については、平成10年調査から平成15年調査にかけて増加し、平成20年調査と今回調査では減少しています。今回調査を平成20年調査と比較すると3.3ポイント減少しています。
- ◆全般的にみて、大きな変化は認められませんが、「特になし」が今回調査で過去最も多くなっています。

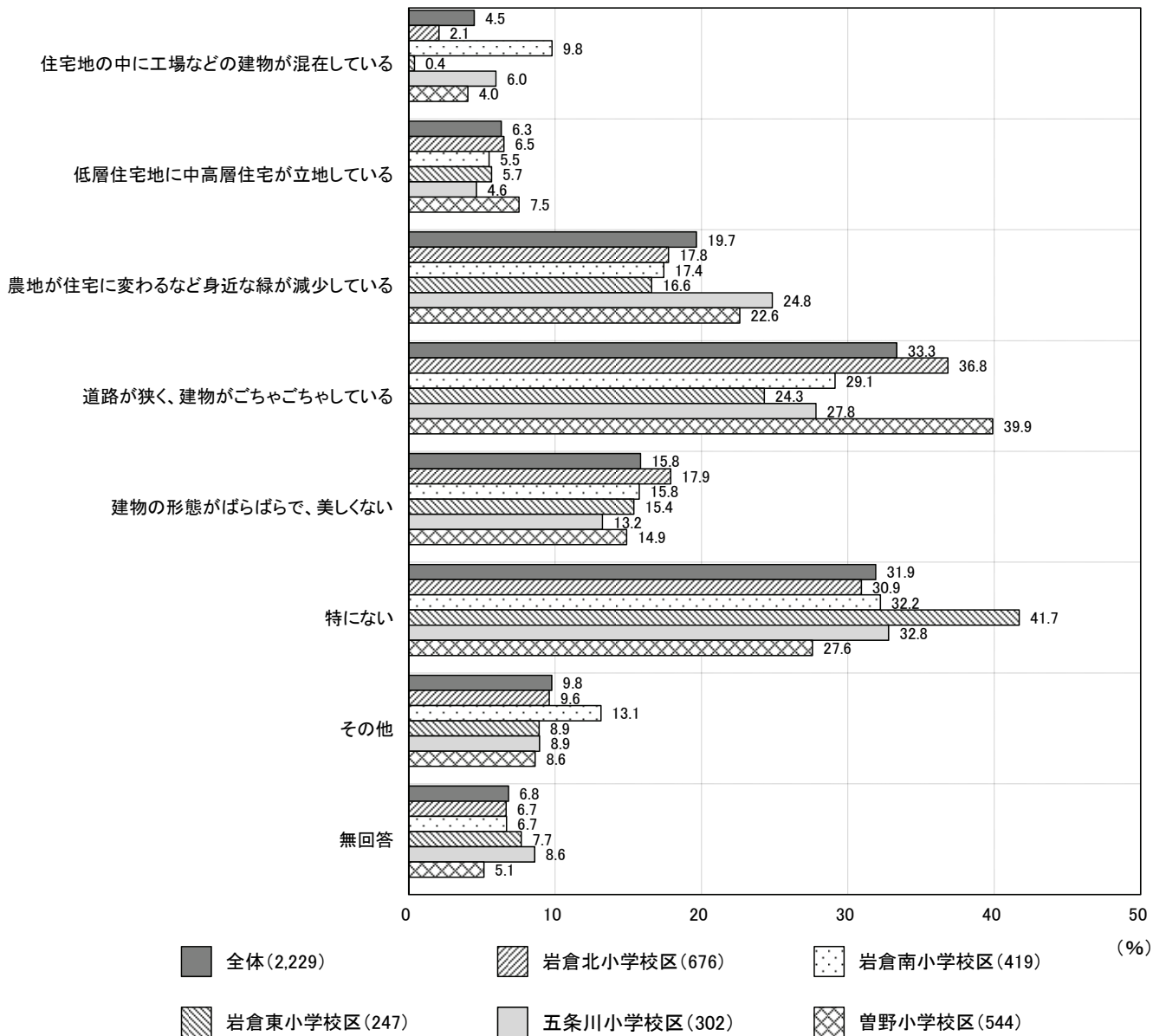
図 2-5-1 「住まい周辺の住環境の問題点」(過去調査との比較)



【小学校区別】(図 2-5-2)

- ◆「道路が狭く、建物がごちゃごちゃしている」については、曾野小学校区が 39.9%で若干多くなっています。
- ◆「農地が住宅に変わるなど緑が減少している」については、五条川小学校区で 24.8%と多くなっています。
- ◆「低層住宅地に中高層住宅が立地している」については、曾野小学校区で 7.5%と他の小学校区よりも若干多くなっています。
- ◆「住宅地の中に工場などの建物が混在している」については、岩倉南小学校区(9.8%)と五条川小学校区(6.0%)で若干多くなっています。
- ◆岩倉東小学校区では、「特にない」が 41.7%となっており、問題点の指摘割合が他の小学校区に比べて少なくなっています。この理由としては、岩倉東小学校区が他の小学校区に比べて都市基盤が整っていることが考えられます。

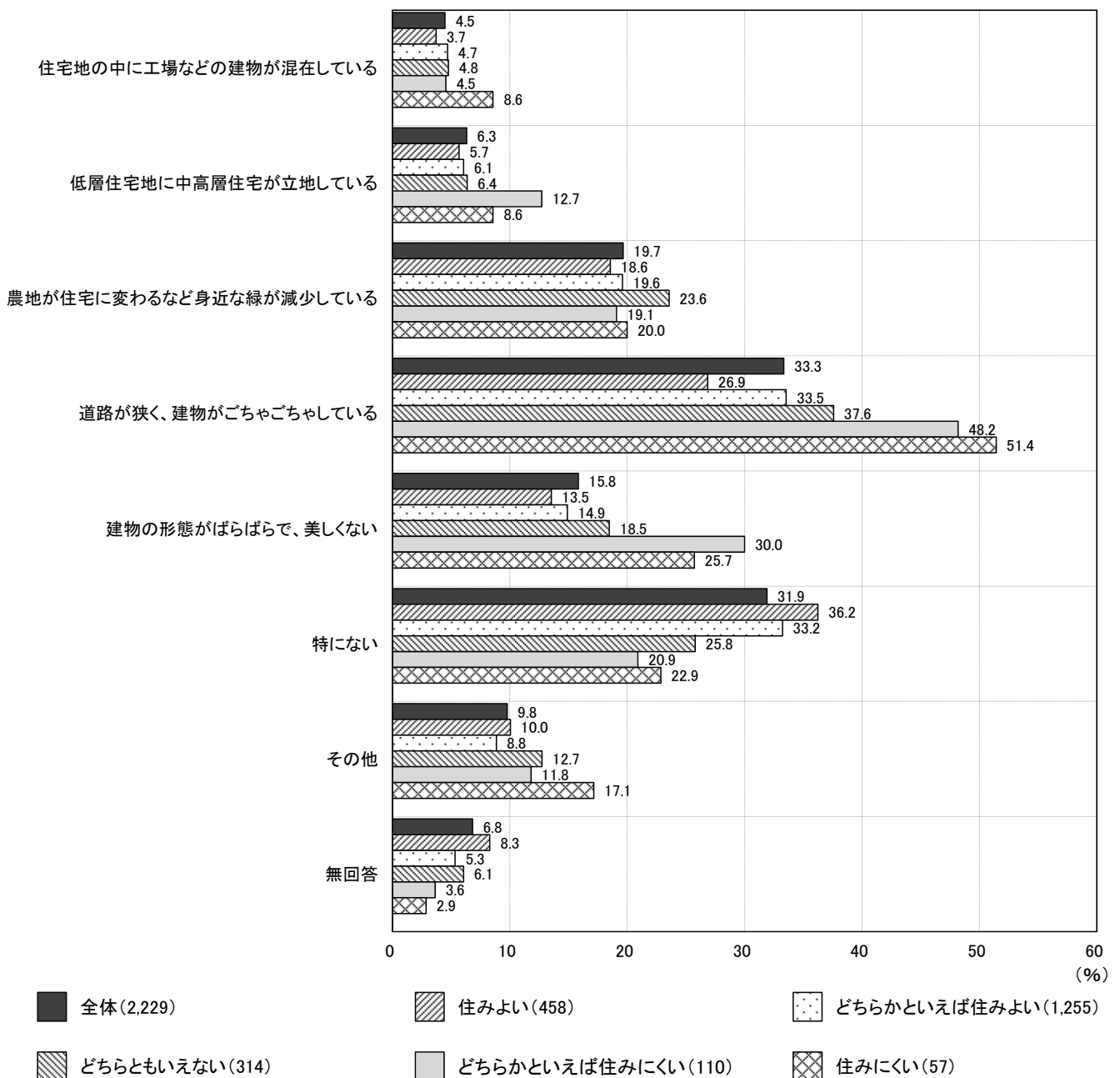
図 2-5-2 小学校区別「住まい周辺の住環境の問題点」



【総合的な住みやすさ別】(図 2-5-3)

- ◆「道路が狭く、建物がごちゃごちゃしている」については、総合的な住みやすさの評価が低くなるにしたがって、問題点としての指摘割合が多くなる傾向がみられます。
- ◆「建物の形態がばらばらで、美しくない」については、「住みにくい」を除き総合的な住みやすさの評価が低くなるにしたがって、問題点としての指摘割合が多くなる傾向がみられます。
- ◆「低層住宅地に中高層住宅が立地している」、「住宅地の中に工場などの建物が混在している」については、「住みにくいという評価」をしている市民が、「住みやすいという評価」をしている市民に比べて多くなっています。
- ◆以上の結果をまとめると、総合的な住みやすさの評価を高める 1 つの方策として、道路幅員の拡幅や密集市街地の解消、緑の保全などが大切であると考えられます。

図 2-5-3 総合的な住みやすさ別「住まい周辺の住環境の問題点」



2-6 まちづくりのルールについての考え

(問15) 地域の住環境を保全するため、建物の用途や高さの制限など、まちづくりのルールを定めることについてどのようにお考えですか。【○は1つだけ】

過去の調査に比べて、まちづくりのルールを設けることに賛成的な意見が減少し、反対的な意見を持つ市民の占める割合は増加しています。しかし依然として賛成的な意見を持つ市民は51.6%と多くを占め、反対的な市民の20.8%を30.8ポイントも上回っています。

【全体】(図2-6-1)

- ◆平成6年の調査から引き続き、建物の用途や高さ制限などのまちづくりのルールについての考え方を尋ねたところ、「現在の住環境を保全するため、ぜひ必要である」が27.2%と最も多く、「みんながルールづくりに賛成するならそれに従う」という消極的な賛成意見(24.4%)を合わせると、まちづくりのルールを設けることに賛成的な市民(以下“ルールに賛成的な市民”)は51.6%となっています。
- ◆逆に、「厳しい規制をかけることにより、土地利用の自由度が阻害されるので反対である」は5.7%であり、「現在の規制で十分であり必要ない」(15.1%)を合わせて、まちづくりのルールを設けることに反対的な市民(以下“ルールに反対的な市民”)の割合は20.8%でした。
- ◆このように、“ルールに賛成的な市民”が“ルールに反対的な市民”を30.8ポイントも上回っています。なお、「わからない」というどちらとも判断がつけられない市民も21.8%を占めており、少なくありません。

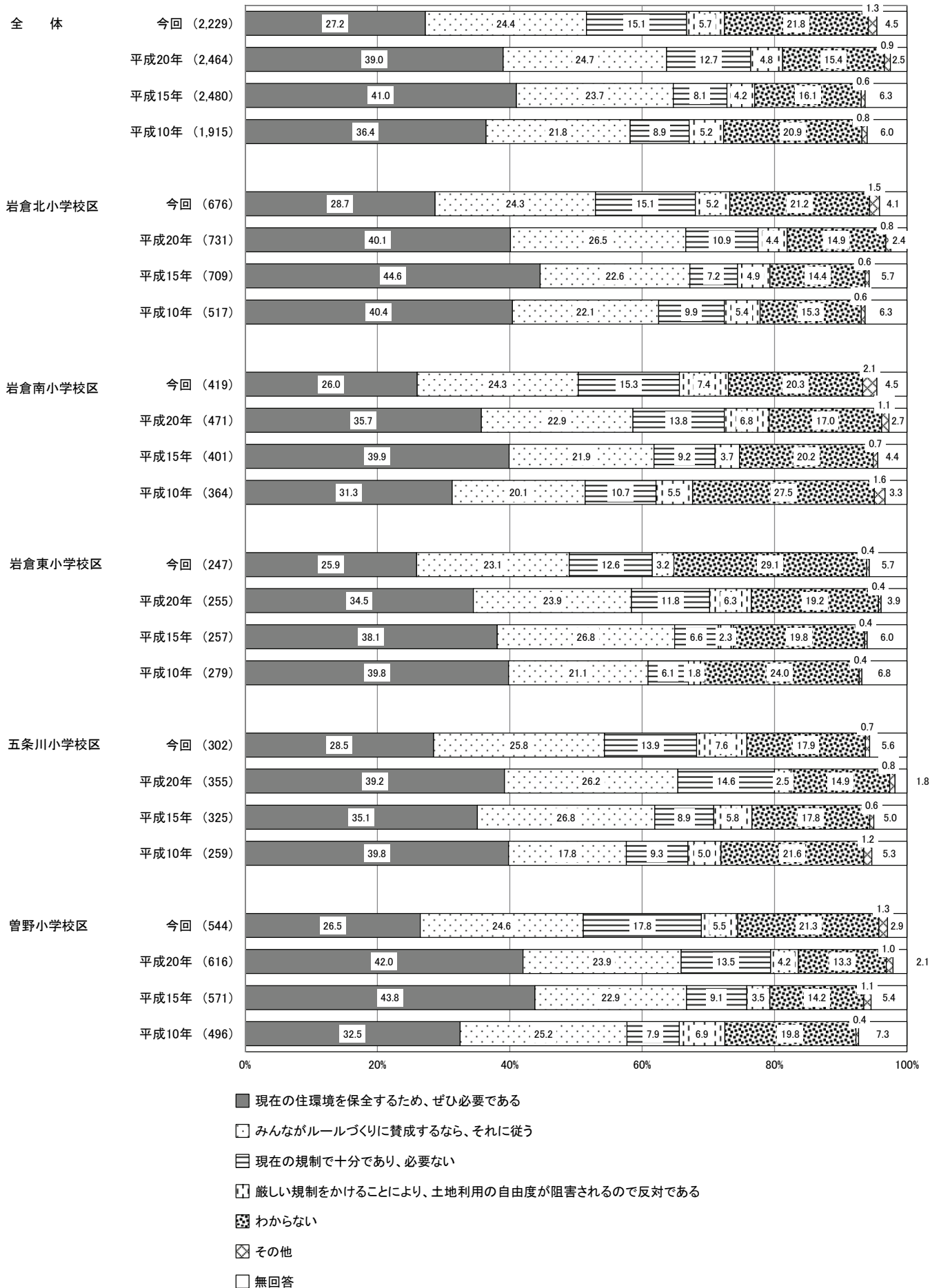
【過去調査との比較】(図2-6-1)

- ◆“ルールに賛成的な市民”の占める割合は、平成10年調査58.2%、平成15年調査64.7%、平成20年調査63.2%でしたが、今回調査では51.6%と減少しています。
- ◆その一方で、“ルールに反対的な市民”の占める割合は、平成10年調査14.1%、平成15年調査12.3%、平成20年調査17.5%でしたが、今回調査では20.8%と増加しています。

【小学校区別】(図2-6-1)

- ◆“ルールに賛成的な市民”は、五条川小学校区において54.3%と全体値よりわずかながら多くなっています。逆に、岩倉東小学校区において49.0%と全体値よりわずかながら下回っています。小学校区間の差は小さくなっています。
- ◆過去調査の結果と比較すると、全小学校区で“ルールに賛成的な市民”が過去調査中で今回調査が最も少なくなっています。同時に、“ルールに反対的な市民”は岩倉東小学校区を除き、過去調査中で今回調査が最も多くなっています。

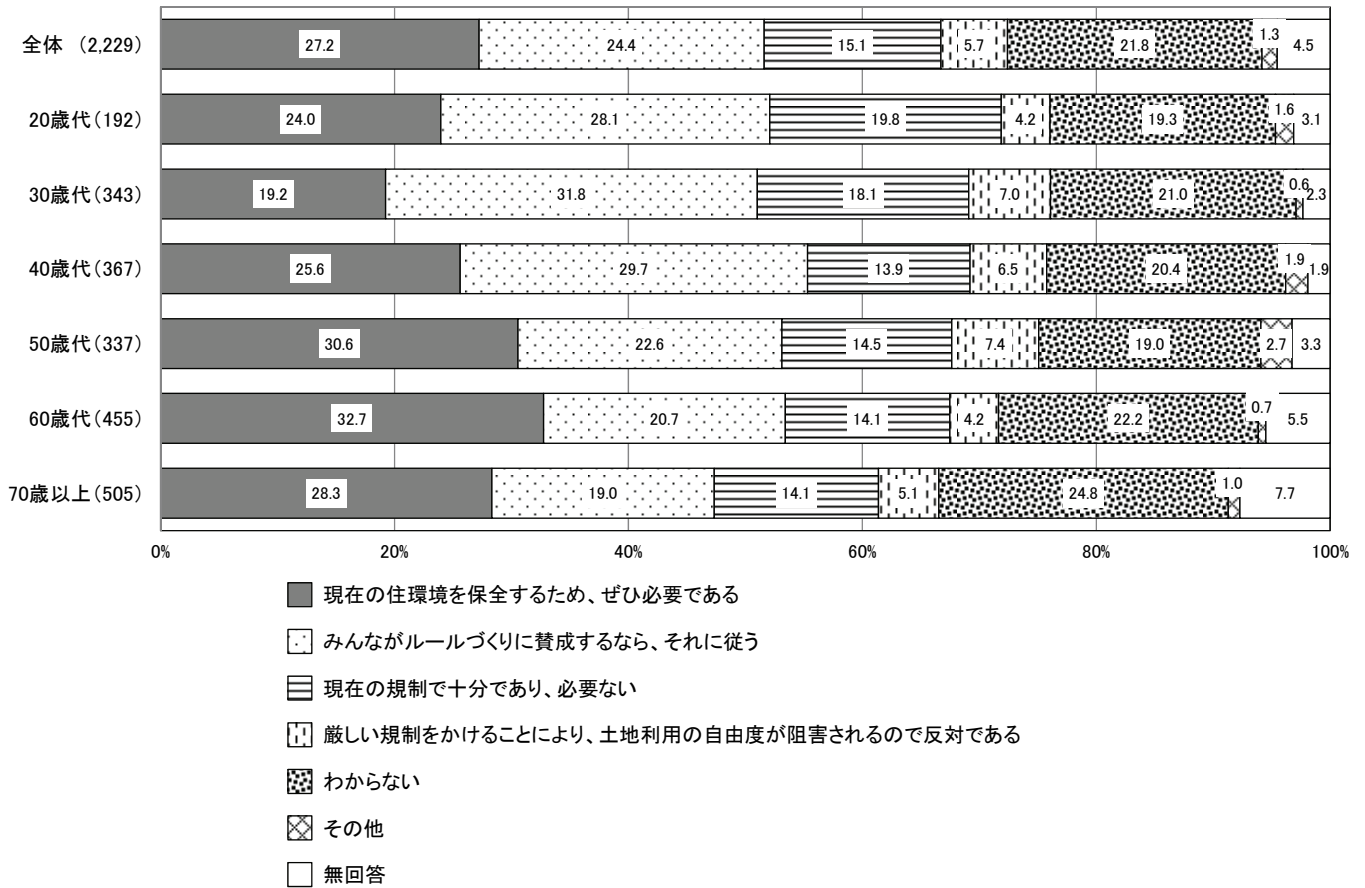
図 2-6-1 小学校区別「まちづくりのルールについての考え」(過去調査との比較)



【年齢別】(図 2-6-2)

- ◆年齢別にみると、“ルールに賛成的な市民”では、40歳代が55.3%で最も多く、70歳以上が47.3%で最も少なくなっています。その差は8.0ポイントです。
- ◆“ルールに反対的な市民”では30歳代が25.1%で最も多く、60歳代が18.3%で最も少なくなっています。その差は6.8ポイントです。
- ◆年齢別には大きな差があるとは言えません。

図 2-6-2 年齢別「まちづくりのルールについての考え」

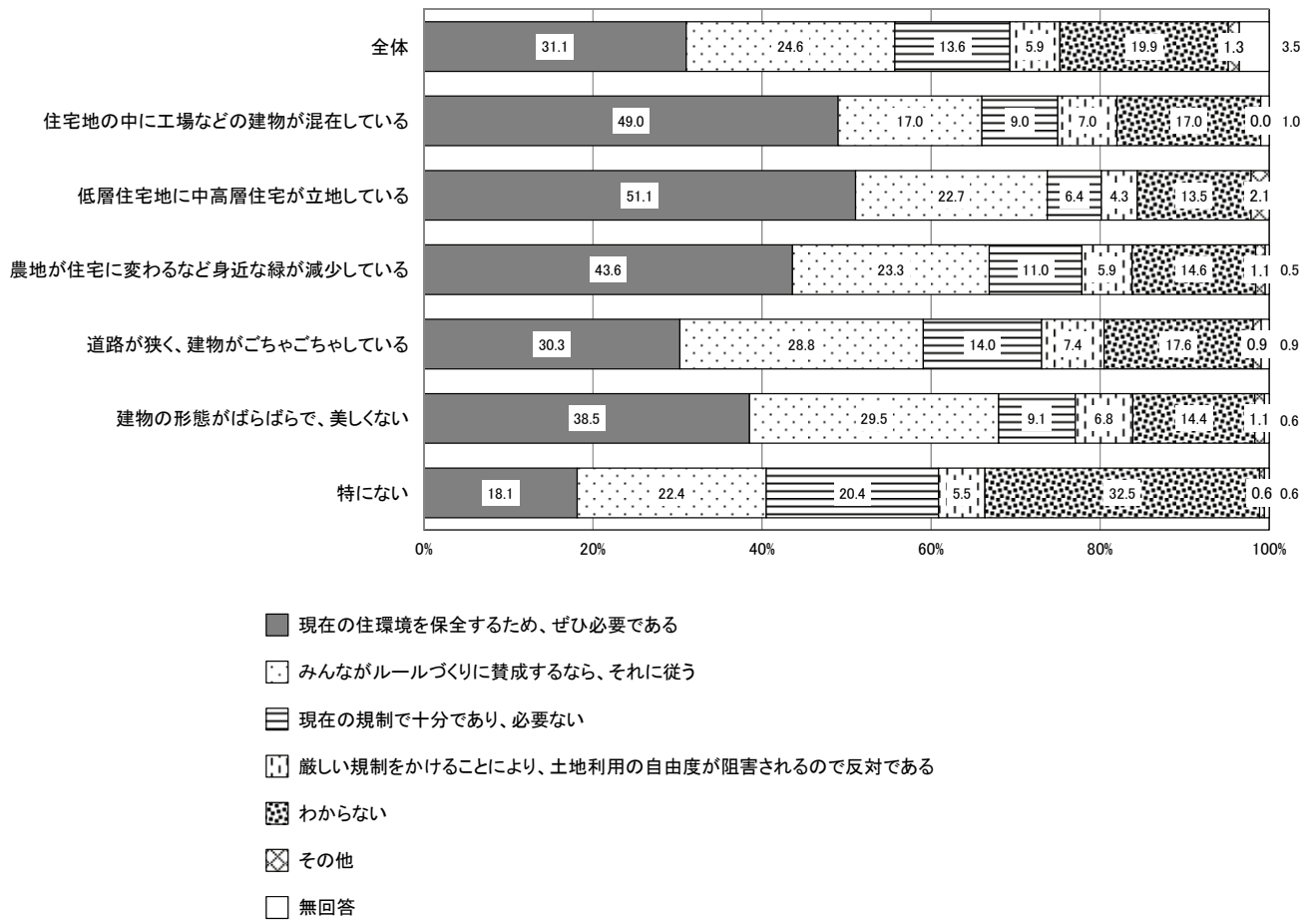


【住まい周辺の住環境の問題点別】(図 2-6-3)

◆住まい周辺の住環境の問題点別にみると、「特にない」という市民では、“ルールに賛成的な市民”の占める割合が40.5%と全体値と比べて15.2ポイント下回っていますが、住まい周辺の住環境に対して何らかの問題点を指摘している市民に占める“ルールに賛成的な市民”の割合は、いずれも全体値に比べて多くなっています。

◆なかでも、「低層住宅地に中高層住宅が立地している」ことを問題点としている市民における“ルールに賛成的な市民”は73.8%、「建物の形態がばらばらで美しい」ことを問題点としている市民における“ルールに賛成的な市民”は68.0%を占めています。

図 2-6-3 住まい周辺の住環境の問題点別「まちづくりのルールについての考え」



3. 岩倉市のまちづくり

3. 岩倉市のまちづくり

3-1 岩倉市のまちの魅力

(問9) 岩倉市のまちの魅力について、おたずねします。【魅力がある点と魅力がない点、それぞれあてはまるものをすべて選んで○をつけてください。】

「魅力がある点」の方が「魅力がない点」よりも1人あたりの回答項目数が多く、これまでの調査と比較しても「魅力がある点」の評価割合は大きく増加しており、全般的に岩倉市の魅力については評価が高まっているといえます。

(1) 選択肢の概要と指摘項目数

【選択肢の概要】

- ◆今回調査では、選択肢の並び順を分類別（健康・福祉、環境・防災防犯、生涯学習・教育、都市基盤、産業、協働、その他の7分類）にし、関連する内容で選択しやすいうにしました。この方法が、1人あたりの回答項目数の増加につながっていると思われます。
- ◆今回調査で前回調査から変更した項目は、次のとおりです。「特別養護老人ホームなどの介護保険施設が整っている（整っていない）」、「保育園・児童館・老人憩の家・ふれあいセンターなどの福祉施設が整っている（不十分である）」、「介護保険サービスが整っている（整っていない）」を、今回調査では、「高齢者の福祉サービスが充実している（充実していない）」、「子育て支援サービスが充実している（充実していない）」、「障害者の福祉サービスが充実している（充実していない）」に変更し、対象者を明確にしました。

【指摘項目数の推移】（表3-1-1）

- ◆「魅力がある点」「魅力がない点」ともに、前回調査と比べた1人あたりの回答項目数の増加値を表3-1-1にまとめています。各回の調査で項目数が異なるため、平成15年調査の項目数を基準にそれぞれの調査の項目数を割ることで1人あたりの回答数に補正をかけています。
- ◆「魅力がある点」に回答した総項目数は18,056項目で、補正前（実数）の1人あたりの回答項目数は8.1項目で、項目数が同じ前回調査と比較すると3.1項目増加しています。補正後の1人あたりの回答項目数でも、過去調査よりも増加しています。
- ◆「魅力がない点」に回答した総項目数は13,820項目で、補正前（実数）の1人あたりの回答項目数は6.2項目で、項目数が同じ前回調査と比較すると2.5項目増加しています。補正後の1人あたりの回答項目数でも、過去調査よりも増加しています。

表3-1-1 回答項目数の推移

魅力がある点	項目数	回答者数	回答項目総数	1人あたりの回答項目数		
				(補正前)	(補正後)	(増加値)
平成25年	26	2,229	18,056	8.1	7.5	+2.9
平成20年	26	2,464	12,316	5.0	4.6	+1.1
平成15年	24	2,480	8,704	3.5	3.5	—
魅力がない点	項目数	回答者数	回答項目総数	1人あたりの回答項目数		
				(補正前)	(補正後)	(増加値)
平成25年	26	2,229	13,820	6.2	5.7	+2.3
平成20年	26	2,464	9,089	3.7	3.4	+0.7
平成15年	24	2,480	6,804	2.7	2.7	—

(2) 魅力がある点

市民の 94.3%が岩倉市の「魅力がある点」について評価しています。順位の変動はあるものの、全般的に評価（回答割合）は高まっています。

「交通の便が良い」が最も多く、次いで、「市内のイベントが活発」「日常の買物が便利」「自然環境に恵まれている」「人々が親切で人間味がある」と続いています。

【全体】(表 3-1-2)

- ◆「無回答」の 5.7%を除いた 94.3%の市民が岩倉市に何らかの魅力を感じ評価しています。
- ◆1位は「交通の便が良く、通勤・通学に便利である」(72.6%)で、2位は「桜まつりやふれ愛まつりなど、市内のイベントが活発に行われている」(65.8%)、3位は「日常の買物が便利である」(64.6%)、4位は「緑などの自然環境に恵まれている」(47.4%)、5位は「人々が親切で人間味がある」(40.4%)となっています。

【過去調査との比較】(表 3-1-2)

- ◆「魅力がある点」を評価している市民は 94.3%で、前回調査の 93.6%に比べて 0.7ポイント増加しています。
- ◆上位 10項目について前回調査と比較すると、順位の変動はあるものの全般的に評価（回答割合）が高まっています。
- ◆これまで上位に入っていた「保育園・児童館・老人憩の家・ふれあいセンターなどの福祉施設が整っている」は、子育て、障害者、高齢者別の項目としたため、「子育て支援サービスが充実している」が 16位、「高齢者の福祉サービスが充実している」が 15位となっています。また、前回調査 8位（22.4%）の「道路の整備状況が良い」は今回調査 13位（30.2%）で評価は上がっているものの順位は後退しています。全体の評価が上がった影響と思われます。
- ◆新たに上位に入った項目は、「人間関係が良い」が 7位（36.3%）で、前回調査の 12位（19.9%）から順位、評価ともにアップしています。また、「市民の文化・芸術活動が盛んである」が 8位（34.1%）で、前回調査の 11位（21.0%）から順位、評価ともにアップしています。

表3-1-2 過去調査比較「魅力がある点」(上位10)

順位	平成 15 年	割合 (%)	順位	平成 20 年	割合 (%)	順位	平成 25 年	割合 (%)
1	交通の便が良い	68.3	1	交通の便が良い	68.3	1	交通の便が良い	72.6
2	福祉施設が整っている	39.3	2	市内のイベントが活発	58.8	2	市内のイベントが活発	65.8
3	自然環境に恵まれている	28.9	3	福祉施設が整っている	44.6	3	日常の買物が便利	64.6
4	田園環境に恵まれている	22.8	4	自然環境に恵まれている	34.7	4	自然環境に恵まれている	47.4
5	介護保険サービスが整っている	16.1	5	田園環境に恵まれている	30.3	5	人々が親切で人間味がある	40.4
6	日常の買物が便利	16.0	6	人々が親切で人間味がある	25.4	6	田園環境に恵まれている	38.9
7	市が適当な規模でまとまりがある	15.7	7	日常の買物が便利	24.1	7	人間関係が良い	36.3
8	住宅地など開発の余地がある	14.7	8	道路の整備状況が良い	22.4	8	市民の文化・芸術活動が盛ん	34.1
9	道路の整備状況が良い	13.4	9	市が適当な規模でまとまりがある	22.2	9	住宅地など開発の余地がある	33.7
10	人々が親切で人間味がある	13.1	10	住宅地など開発の余地がある	21.4	10	市が適当な規模でまとまりがある	33.6

【年齢別】（表 3-1-3、図 3-1-1）

- ◆年齢別の「魅力がある点」の上位 10 項目をみると 50 歳代を除き、1 位から 3 位までは全年齢で同じです。4 位以降で順位が異なってきます。70 歳以上の 4 位は「人々が親切で人間味がある」で、全体 4 位の「緑などの自然環境に恵まれている」は 6 位となっています。全体 8 位の「市民の文化・芸術活動が盛んである」は 30 歳代で 14 位、全体 9 位の「農地が多く住宅地など開発の余地がある」は 70 歳以上で 14 位、全体 10 位の「市の面積・人口が適当な規模でまとまりがある」は 70 歳以上で 15 位となっています。
- ◆年齢間の差をみると、最も差の大きな項目は「障害者の福祉サービスが充実している（全体 20 位）」で 15.0 ポイント（70 歳以上：31.1%、40 歳代：16.1%）です。2 番目は「高齢者の福祉サービスが充実している（全体 15 位）」で 14.9 ポイント（70 歳以上：38.8%、30 歳代：23.9%）、3 番目は「医療施設が充実している（全体 12 位）」で 14.7 ポイント（20 歳代：40.6%、60 歳代：25.9%）となっています。

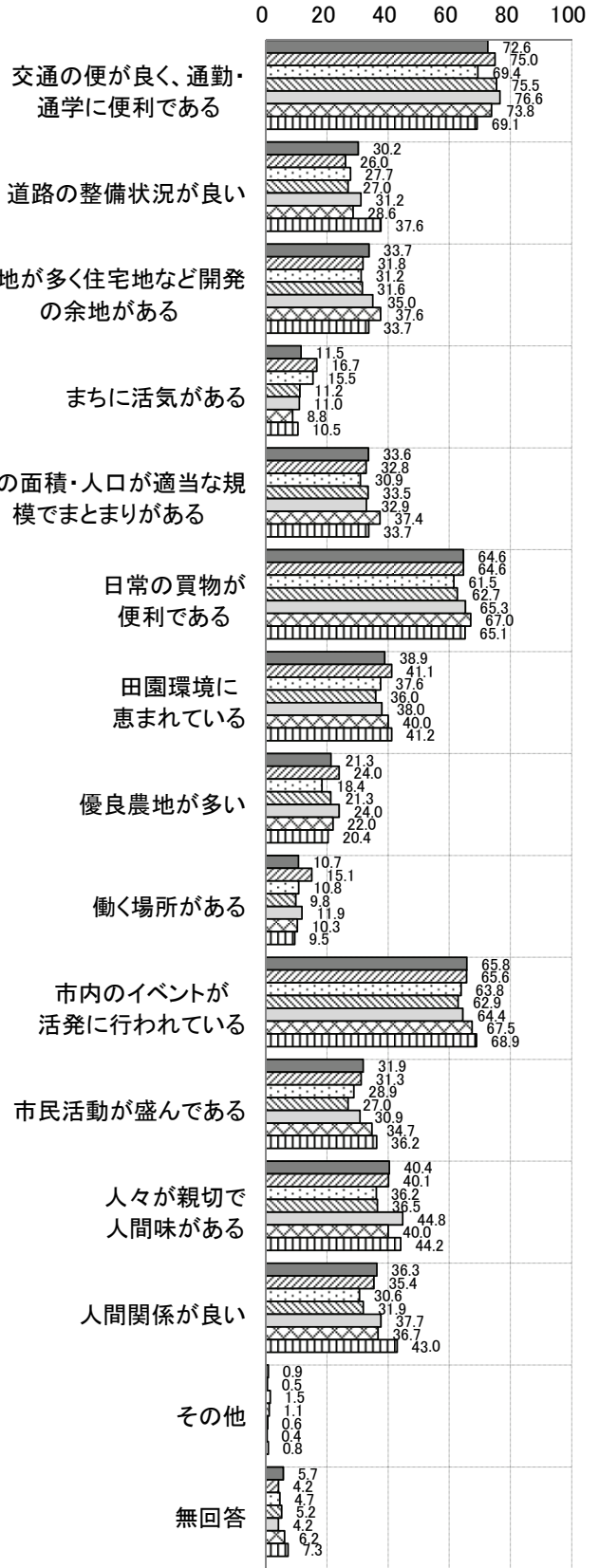
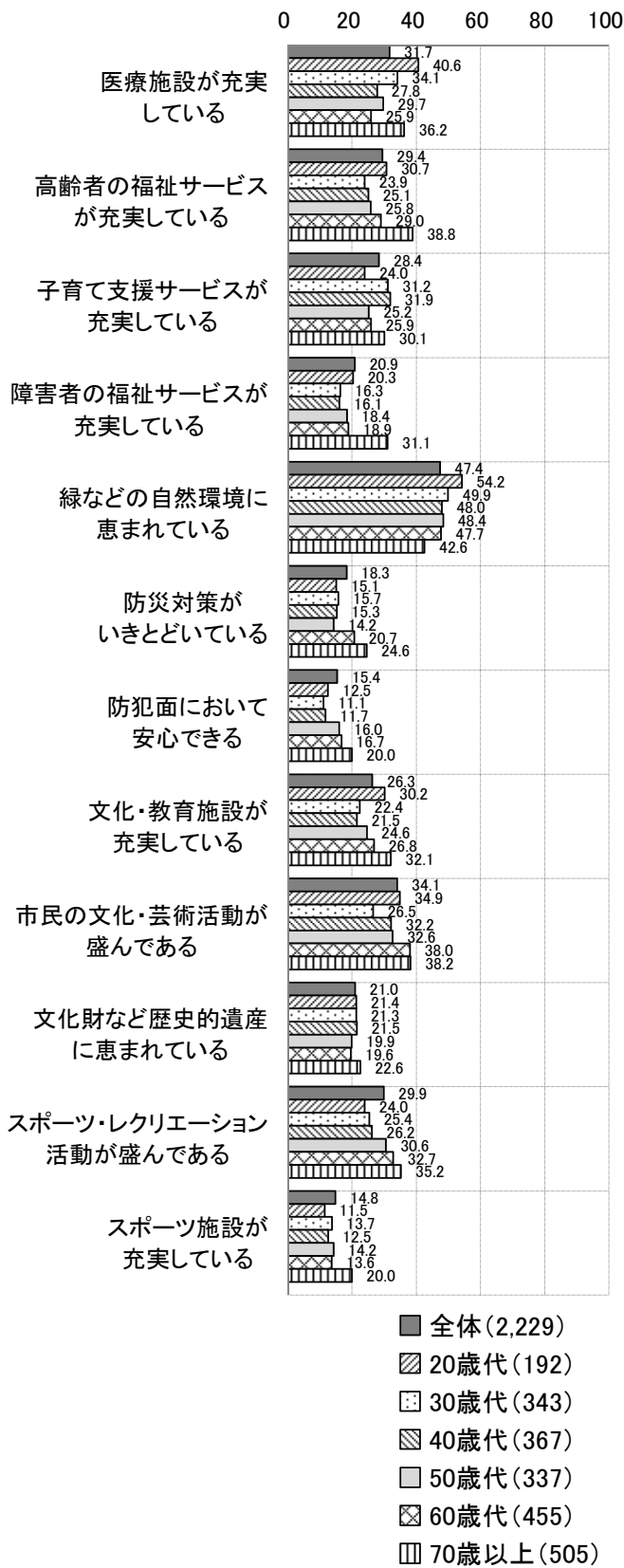
表 3-1-3 年齢別「魅力がある点」（上位 10）

	全体	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
交通の便が良く、通勤・通学に便利である	1	1	1	1	1	1	1
市内のイベントが活発に行われている	2	2	2	2	3	2	2
日常の買物が便利である	3	3	3	3	2	3	3
緑などの自然環境に恵まれている	4	4	4	4	4	4	6
人々が親切で人間味がある	5	7	6	5	5	5	4
田園環境に恵まれている	6	5	5	6	6	6	7
人間関係が良い	7	8	11	10	7	10	5
市民の文化・芸術活動が盛んである	8	9	14	8	10	7	9
農地が多く住宅地など開発の余地がある	9	11	8	11	8	8	14
市の面積・人口が適当な規模でまとまりがある	10	10	10	7	9	9	15

図 3-1-1 年齢別「魅力がある点」

(%)

(%)



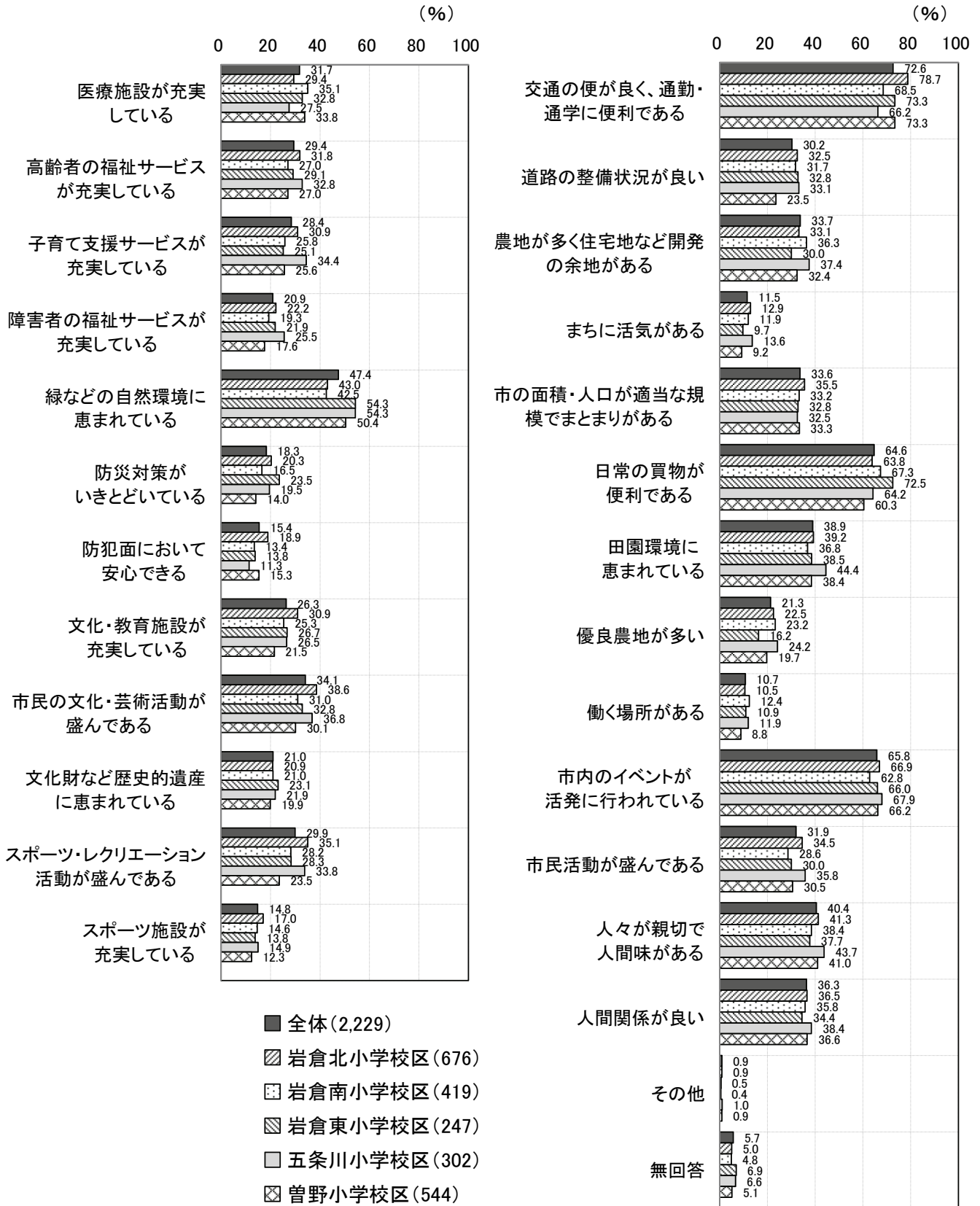
【小学校区別】（表 3-1-4、図 3-1-2）

- ◆小学校区別の「魅力がある点」の上位 10 項目をみると、1 位から 6 位までは同じ項目ですが、小学校区の状況から順位が多少違ってきます。1 位をみると、五条川小学校区以外は「交通の便が良く、通勤・通学に便利である（全体 1 位）」となっています。五条川小学校区は「市内のイベントが活発に行われている」が 1 位となっています。2 位をみると岩倉北小学校区と曾野小学校区では「市内のイベントが活発に行われている（全体 2 位）」、岩倉南小学校区と岩倉東小学校区では「日常の買物が便利である（全体 3 位）」となっています。
- ◆小学校区間での差をみると、最も大きな項目は「交通の便が良く、通勤・通学に便利である（全体 1 位）」で 12.5 ポイント（岩倉北：78.7%、五条川：66.2%）となっています。
- ◆次いで「日常の買物が便利である（全体 3 位）」が 12.2 ポイント（岩倉東：72.5%、曾野：60.3%）です。
- ◆3 番目は「緑などの自然環境に恵まれている（全体 4 位）」が 11.8 ポイント（岩倉東・五条川：54.3%、岩倉南：42.5%）です。4 番目は「スポーツ・レクリエーション活動が盛んである（全体 14 位）」が 11.6 ポイント（岩倉北：35.1%、曾野：23.5%）です。5 番目は「道路の整備状況が良い（全体 13 位）」が 9.6 ポイント（五条川：33.1%、曾野：23.5%）です。
- ◆「その他」を除く 25 項目で最高評価・最低評価数を小学校区間でみると、岩倉北小学校区では最高評価が 7 項目、最低評価が 0 項目、岩倉南小学校区では最高評価が 2 項目、最低評価が 5 項目、岩倉東小学校区では最高評価が 4 項目、最低評価が 5 項目、五条川小学校区では最高評価が 12 項目、最低評価が 4 項目、曾野小学校区では最高評価が 0 項目、最低評価が 12 項目となっています。
- ◆その他、無回答を除く 25 項目の平均評価は、岩倉北小学校区で 33.9%、岩倉南小学校区で 31.5%、岩倉東小学校区で 32.4%、五条川小学校区で 34.1%、曾野小学校区で 30.6%となっており、上記の結果と一致します。

表 3-1-4 小学校区別「魅力がある点」（上位 10）

	全体	岩倉北 小学校区	岩倉南 小学校区	岩倉東 小学校区	五条川 小学校区	曾野 小学校区
交通の便が良く、通勤・通学に便利である	1	1	1	1	2	1
市内のイベントが活発に行われている	2	2	3	3	1	2
日常の買物が便利である	3	3	2	2	3	3
緑などの自然環境に恵まれている	4	4	4	4	4	4
人々が親切で人間味がある	5	5	5	6	6	5
田園環境に恵まれている	6	6	6	5	5	6
人間関係が良い	7	8	8	7	7	7
市民の文化・芸術活動が盛んである	8	7	12	11	9	12
農地が多く住宅地など開発の余地がある	9	12	7	12	8	10
市の面積・人口が適当な規模でまとまりがある	10	9	10	9	15	9

図 3-1-2 小学校区別「魅力がある点」



(3) 魅力がない点

市民の 88.6%が岩倉市の「魅力がない点」について指摘しています。順位の変動はあるものの、前回調査に比べて全般的に指摘割合が増加しています。

「防犯面における不安が多い」が最も多く、以下、「働く場所がない」「まちに活気がない」「スポーツ施設が充実していない」「医療施設が充実していない」と続いています。

【全体】（表 3-1-5）

- ◆「無回答」の 11.4%を除いた 88.6%の市民が岩倉市の「魅力がない点」を指摘しています。
- ◆「防犯面における不安が多い」が 51.0%で前回調査と同じ 1 位でした。
- ◆次いで「働く場所がない」が 49.5%で 2 位でした。3 位は「まちに活気がない」で 48.3%でした。

【過去調査との比較】（表 3-1-5）

- ◆「魅力がない点」を評価している市民は 88.6%で、前回調査の 87.6%に比べて 1.0 ポイント増加しています。
- ◆最も「魅力がない点」として評価された「防犯面における不安が多い」（51.0%）については、前回調査（39.5%）に比べて、11.5 ポイントと大幅に増えています。

表 3-1-5 過去調査比較「魅力がない点」（下位 10）

順位	平成 15 年	割合 (%)	順位	平成 20 年	割合 (%)	順位	平成 25 年	割合 (%)
1	医療施設が充実していない	35.2	1	防犯面における不安が多い	39.5	1	防犯面における不安が多い	51.0
2	まちに活気がない	28.9	2	まちに活気がない	36.1	2	働く場所がない	49.5
3	小売店が少なく、品ぞろえも不十分	24.6	3	働く場所がない	34.0	3	まちに活気がない	48.3
4	道路の整備状況が悪い	20.7	4	小売店が少なく、品ぞろえも不十分	30.9	4	スポーツ施設が充実していない	41.2
5	市域が狭く開発の余地が少ない	19.0	5	医療施設が充実していない	30.8	5	医療施設が充実していない	38.4
6	スポーツ施設が充実していない	15.8	6	道路の整備状況が悪い	21.8	6	防災対策がいきとどいていない	32.4
7	人口が多く雑然としている	13.5	7	市域が狭く開発の余地が少ない	21.7	7	道路の整備状況が悪い	27.9
8	文化・教育施設が充実していない	12.4	8	スポーツ施設が充実していない	20.1	8	歴史的遺産に恵まれていない	27.2
9	防災対策がいきとどいていない	11.7	9	介護保険施設が整っていない	18.8	9	文化・教育施設が充実していない	25.3
10	緑が少なく、自然環境が乏しい	11.5	10	防災対策がいきとどいていない	18.6	10	市域が狭く開発の余地が少ない	23.1

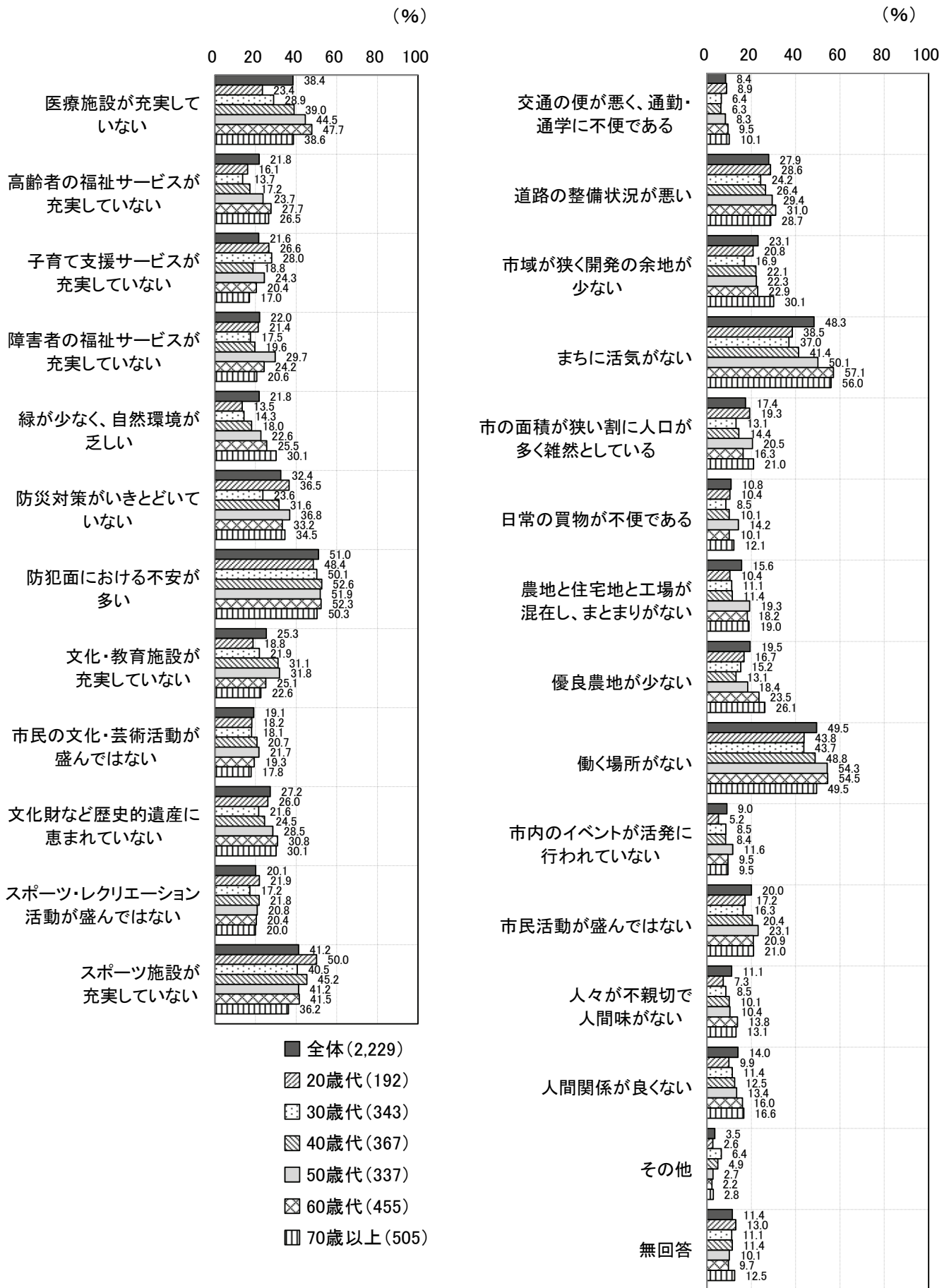
【年齢別】（表 3-1-6、図 3-1-3）

- ◆年齢間で最も大きく差が出ている項目は「医療施設が充実していない（全体 5 位）」で 24.3 ポイントの差となっています。60 歳代が 47.7%、20 歳代が 23.4%です。年齢が高くなると大きくなる傾向がみられます。
- ◆2 番目に差が出ている項目は「まちに活気がない（全体 3 位）」で 20.1 ポイントの差となっています。60 歳代が 57.1%、30 歳代が 37.0%です。年齢が高くなると大きくなる傾向がみられます。
- ◆3 番目に差が出ている項目は「緑が少なく、自然環境が乏しい（全体 12 位）」で 16.6 ポイントの差となっています。70 歳以上が 30.1%、20 歳代が 13.5%です。年齢が高くなると大きくなる傾向がみられます。

表 3-1-6 「魅力がない点」（年齢間の差が大きな項目）

	医療施設が充実していない	まちに活気がない	緑が少なく、自然環境が乏しい	高齢者の福祉サービスが充実していない	スポーツ施設が充実していない
20 歳代	23.4%	38.5%	13.5%	16.1%	50.0%
30 歳代	28.9%	37.0%	14.3%	13.7%	40.5%
40 歳代	39.0%	41.4%	18.0%	17.2%	45.2%
50 歳代	44.5%	50.1%	22.6%	23.7%	41.2%
60 歳代	47.7%	57.1%	25.5%	27.7%	41.5%
70 歳以上	38.6%	56.0%	30.1%	26.5%	36.2%
最大-最少	24.3 ポイント	20.1 ポイント	16.6 ポイント	14.0 ポイント	13.8 ポイント

図 3-1-3 年齢別「魅力がない点」



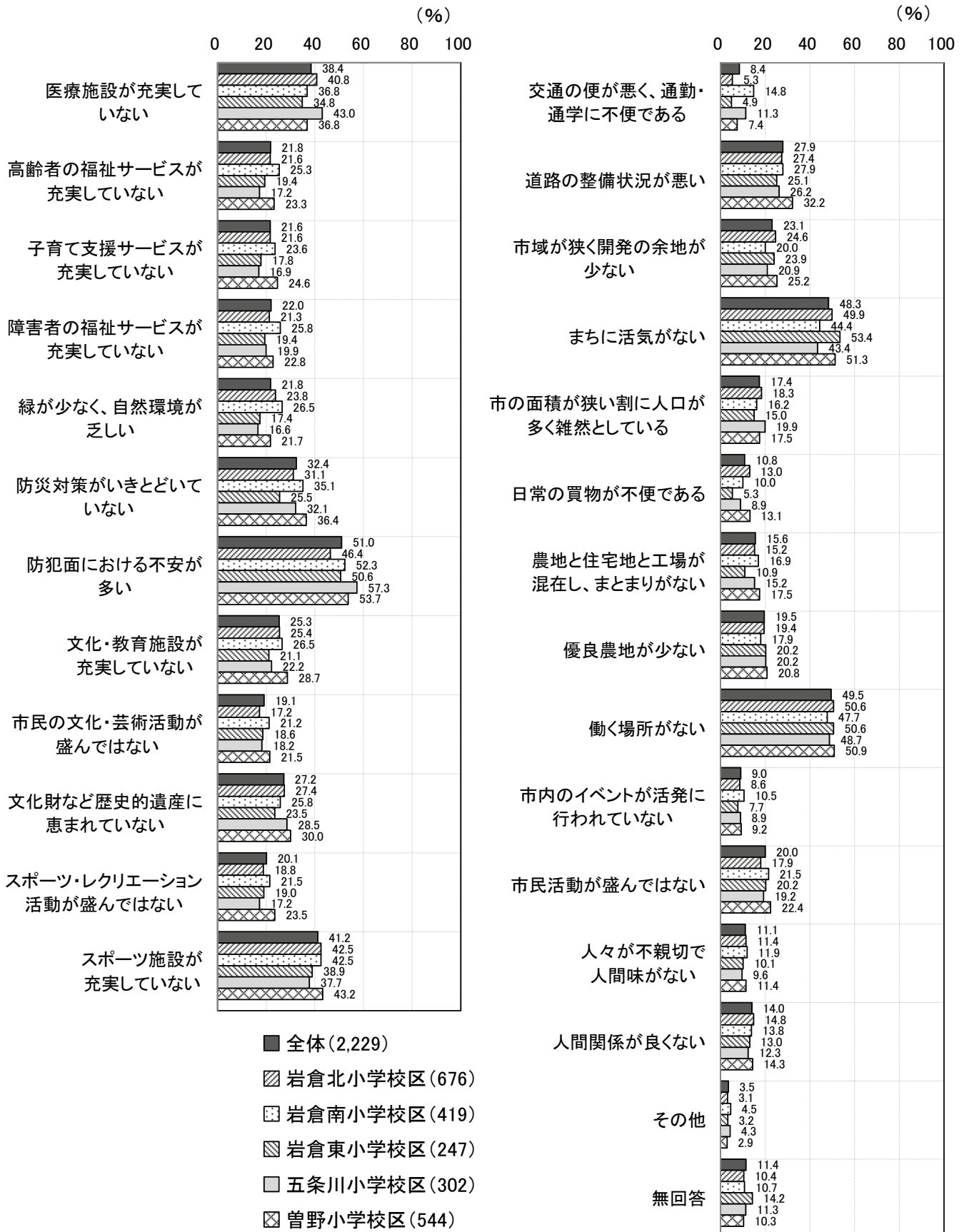
【小学校区別】（表 3-1-7、図 3-1-4）

- ◆小学校区間で最も大きく差が出ている項目は「防災対策がいきとどいていない（全体 6 位）」と「防犯面における不安が多い（全体 1 位）」で 10.9 ポイントの差となっています。「防災対策がいきとどいていない（全体 6 位）」は、曾野小学校区が 36.4%、岩倉東小学校区が 25.5%です。他の小学校区は 31%以上で岩倉東小学校区が他の小学校区よりも少なくなっています。「防犯面における不安が多い（全体 1 位）」は、五条川小学校区が 57.3%、岩倉北小学校区が 46.4%です。
- ◆次に差が出ている項目は「まちに活気がない（全体 3 位）」で 10.0 ポイントの差となっています。岩倉東小学校区が 53.4%、五条川小学校区が 43.4%です。
- ◆全般的に小学校区の違いによる大きな差は見られません。

表 3-1-7 「魅力がない点」（小学校区間の差が大きな項目）

	防災対策がいきとどいていない	防犯面における不安が多い	まちに活気がない	緑が少なく、自然環境が乏しい	交通の便が悪く、通勤・通学に不便である
岩倉北小学校区	31.1%	46.4%	49.9%	23.8%	5.3%
岩倉南小学校区	35.1%	52.3%	44.4%	26.5%	14.8%
岩倉東小学校区	25.5%	50.6%	53.4%	17.4%	4.9%
五条川小学校区	32.1%	57.3%	43.4%	16.6%	11.3%
曾野小学校区	36.4%	53.7%	51.3%	21.7%	7.4%
最大-最少	10.9 ポイント	10.9 ポイント	10.0 ポイント	9.9 ポイント	9.9 ポイント

図 3-1-4 小学校区別「魅力がない点」



3-2 施策に対する満足度と重要度

(問10) 岩倉市が行っている施策について、満足度と重要度をおたずねします。

【1つずつ選んで○をつけてください。】

(1) 満足度・重要度の平均得点の算出方法

岩倉市の施策に関する各項目の満足度及び重要度について、下記の方法により5段階の得点を付け、平均得点を算出しました。この評点を指標として、満足度と重要度の分析を行いました。なお、平均得点は、+2点に近いほど満足度または重要度が高いことを示し、逆に-2点に近いほど満足度が低い(不満度が高い)、または重要度が低いことを示しています。

満足度	重要度	得点(評点)
満足	非常に重要	+2点
やや満足	重要	+1点
普通	普通	0点
やや不満	あまり重要でない	-1点
不満	重要でない	-2点

満足度の平均点 = {「満足」の回答数 × (+2点) + 「やや満足」の回答数 × (+1点) + 「普通」の回答数 × (0点) + 「やや不満」の回答数 × (-1点) + 「不満」の回答数 × (-2点)} ÷ 総回答数

重要度の平均点 = {「非常に重要」の回答数 × (+2点) + 「重要」の回答数 × (+1点) + 「普通」の回答数 × (0点) + 「あまり重要でない」の回答数 × (-1点) + 「重要でない」の回答数 × (-2点)} ÷ 総回答数

(2) 施策に対する満足度

【全体】(表 3-2-1、表 3-2-2)

- ◆プラスの評価の項目は、41 項目中 34 項目あります。その中でも満足度の上位 10 項目は、表 3-2-1 のとおりです。
- ◆「自然環境の保全」「公共交通の利便性」「安全で安定した水道」「ごみ収集・処理体制」「消防・救急体制」「健康づくりへの支援」「生涯学習の充実」「生活排水処理」「遺跡・文化財の保護継承」「子ども等の医療費助成」などの施策項目の満足度が高くなっています。
- ◆マイナスの評価の項目は、41 項目中 7 項目あります。その中で満足度の下位 10 項目は、表 3-2-2 のとおりです。
- ◆「歩行者等の安全対策」「産業振興」「小売商業の振興」「市街地整備等」「市政への市民参画」「観光・交流の振興」「防犯対策」などの施策項目の満足度が低くなっており、まちの活力や安心などの満足度が低くなっています。

表 3-2-1 全体「施策の満足度」(上位 10)

①自然環境の保全	0.77	⑥健康づくりへの支援	0.27
②公共交通の利便性	0.66	⑦生涯学習の充実	0.23
③安全で安定した水道	0.57	⑧生活排水処理	0.23
④ごみ収集・処理体制	0.45	⑨遺跡・文化財の保護継承	0.21
⑤消防・救急体制	0.37	⑩子ども等の医療費助成	0.20

表 3-2-2 全体「施策の満足度」(下位 10)

①歩行者等の安全対策	-0.24	⑥観光・交流の振興	-0.01
②産業振興	-0.17	⑦防犯対策	-0.01
③小売商業の振興	-0.10	⑧消費生活相談体制	0.00
④市街地整備等	-0.07	⑨防災対策	0.00
⑤市政への市民参画	-0.02	⑩図書館の充実	0.01

【過去調査との比較】(表 3-2-3、表 3-2-4)

- ◆前回調査と比較すると、満足度評価点が下がった項目は「観光・交流の振興 (-0.14 点)」「市政情報の提供 (-0.02 点)」「防犯対策 (-0.01 点)」の 3 項目で、残りの 38 項目はすべて上がっています。
- ◆満足度がプラスの項目は、前回調査で 12 項目、今回調査は 34 項目と大幅に増加しています。満足度がマイナスの項目は、前回調査で 25 項目、今回調査は 7 項目と大幅に減少しています。

表 3-2-3 「施策の満足度」(過去調査との差)(上位 10)

順位	項目	今回	前回(平成 20 年)	差(今回-前回)
1	消防・救急体制	0.37	-0.20	0.57
2	公共交通の利便性	0.66	0.29	0.37
3	子ども等の医療費助成	0.20	-0.13	0.33
4	高齢者の福祉	0.15	-0.12	0.27
5	生涯学習の充実	0.23	-0.04	0.27
6	医療機関との連携	0.06	-0.20	0.26
7	公害の防止	0.13	-0.12	0.25
8	自然環境の保全	0.77	0.52	0.25
9	公園の整備・管理	0.20	-0.05	0.25
10	生活排水処理	0.23	-0.01	0.24

表 3-2-4 「施策の満足度」(過去調査との差)(下位 10)

順位	項目	今回	前回(平成 20 年)	差(今回-前回)
1	観光・交流の振興	-0.01	0.13	-0.14
2	市政情報の提供	0.14	0.16	-0.02
3	防犯対策	-0.01	0.00	-0.01
4	NPO・市民活動団体への支援	0.03	-0.02	0.05
5	地域コミュニティ活動への支援	0.06	0.00	0.06
6	農地保全・農業振興	0.02	-0.05	0.07
7	平和活動の推進	0.07	0.00	0.07
8	図書館の充実	0.01	-0.06	0.07
9	消費生活相談体制	0.00	-0.08	0.08
10	青少年の健全育成	0.03	-0.06	0.09

【年齢別】(図 3-2-1)

- ◆年齢別で最も満足度の差の大きな項目は「ごみ収集・処理体制(差 0.45 点)」で、70 歳以上が最も高く(0.71 点)、40 歳代が最も低く(0.26 点)なっています。60 歳代や 70 歳以上といった高齢者層における満足度は高くなっていますが、30 歳代や 40 歳代における満足度は低くなっています。
- ◆2 番目に差の大きな項目は、「消防・救急体制」と「図書館の充実」(差 0.31)です。「消防・救急体制」では、70 歳以上が最も高く(0.54 点)、40 歳代が最も低く(0.23 点)なっています。また、「図書館の充実」では、70 歳以上が最も高く(0.19 点)、40 歳代が最も低く(-0.12 点)なっています。
- ◆「スポーツ振興」では 20 歳代、「障害者の福祉」、「教育の充実」、「医療機関との連携」「まち並みの景観整備」では 50 歳代が、唯一マイナス評価となっています。

【小学校区別】(図 3-2-2)

- ◆小学校区別で最も満足度の差の大きな項目は「生活排水処理(差 0.49 点)」で、岩倉東小学校区が最も高く(0.51 点)、曾野小学校区が最も低く(0.02 点)なっています。
- ◆2 番目に差の大きな項目は「公共交通の利便性(差 0.32 点)」で、岩倉北小学校区(0.75 点)、曾野小学校区(0.74 点)、岩倉東小学校(0.73 点)で満足度が高く、岩倉南小学校区(0.58 点)、五条川小学校区(0.43 点)と満足度が低くなっています。
- ◆なお、「観光・交流の振興」については、岩倉東小学校区では唯一プラス評価であり、他の小学校区の満足度はマイナス評価となっています。

【総合的な住みやすさ別】(表3-2-5、図3-2-3)

- ◆総合的な住みやすさの評価が高いほど、施策に対する満足度も高くなっています。
- ◆“住みやすいという評価”と“住みにくいという評価”の評価点格差の最も大きい項目は「ごみ収集・処理体制」でした。次いで、「公共交通の利便性」「防犯対策」「歩行者等の安全対策」となっています。総合的に住みやすいまちという評価をより多くの市民から得るためには、このような施策を重点的に推進することが効果的であると考えられます。
- ◆満足度の差の大きな項目は表 3-2-5 のとおりです。

表 3-2-5 総合的な住みやすさ別「施策の満足度」差の大きな項目 (上位 10)

順位	項目	満足度		
		最大値	最小値	最大値-最小値
1	ごみ収集・処理体制	0.98	-0.64	1.62
2	公共交通の利便性	1.23	-0.06	1.29
3	防犯対策	0.40	-0.88	1.28
4	歩行者等の安全対策	0.21	-1.06	1.27
5	道路網の整備	0.64	-0.56	1.20
6	子育て支援	0.47	-0.70	1.17
7	消防・救急体制	0.81	-0.34	1.15
8	公害の防止	0.53	-0.61	1.14
8	高齢者の福祉	0.54	-0.59	1.13
10	公園の整備・管理	0.49	-0.59	1.08

図 3-2-1 年齢別「施策の満足度」

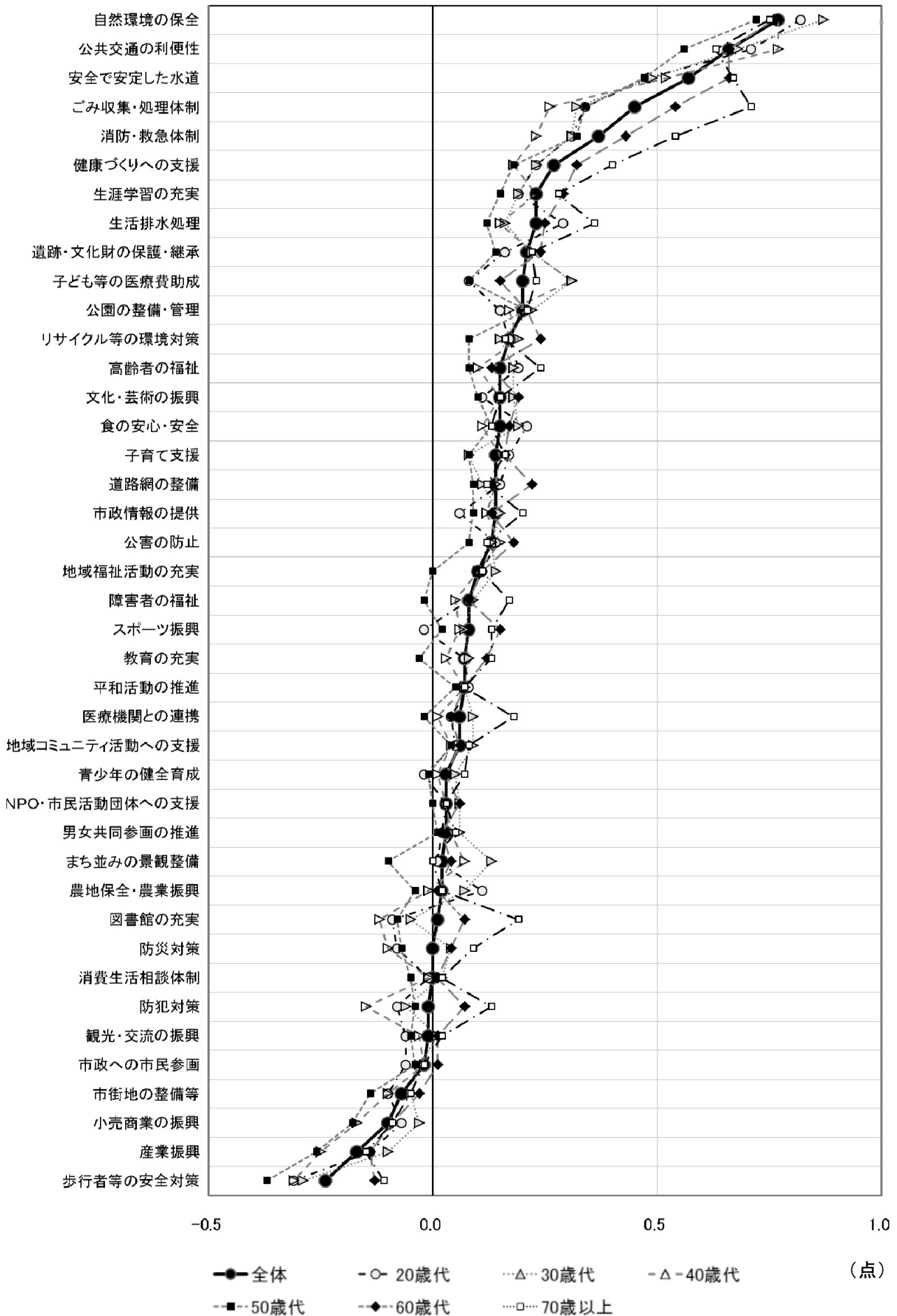


図 3-2-2 小学校区別「施策の満足度」

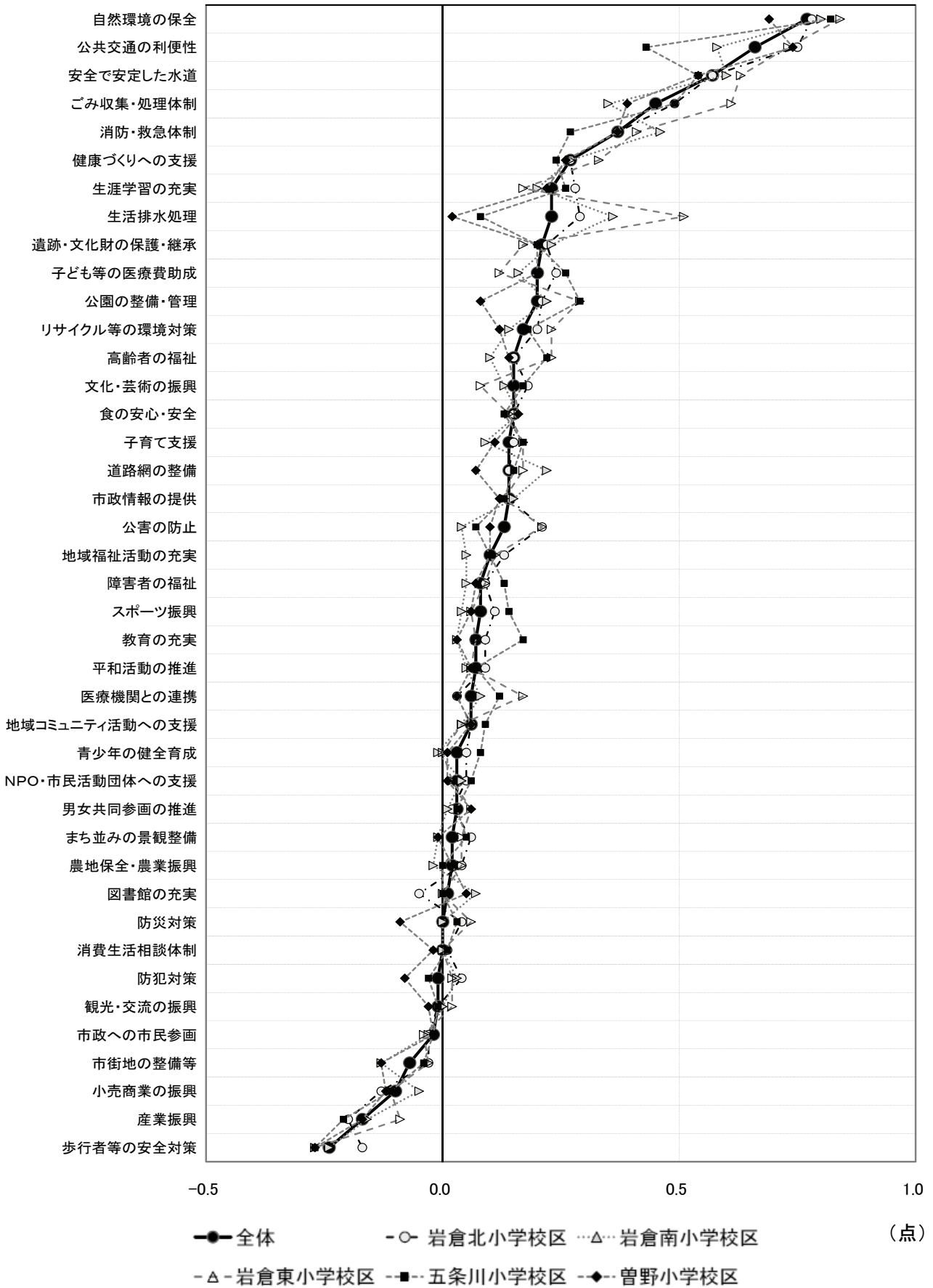
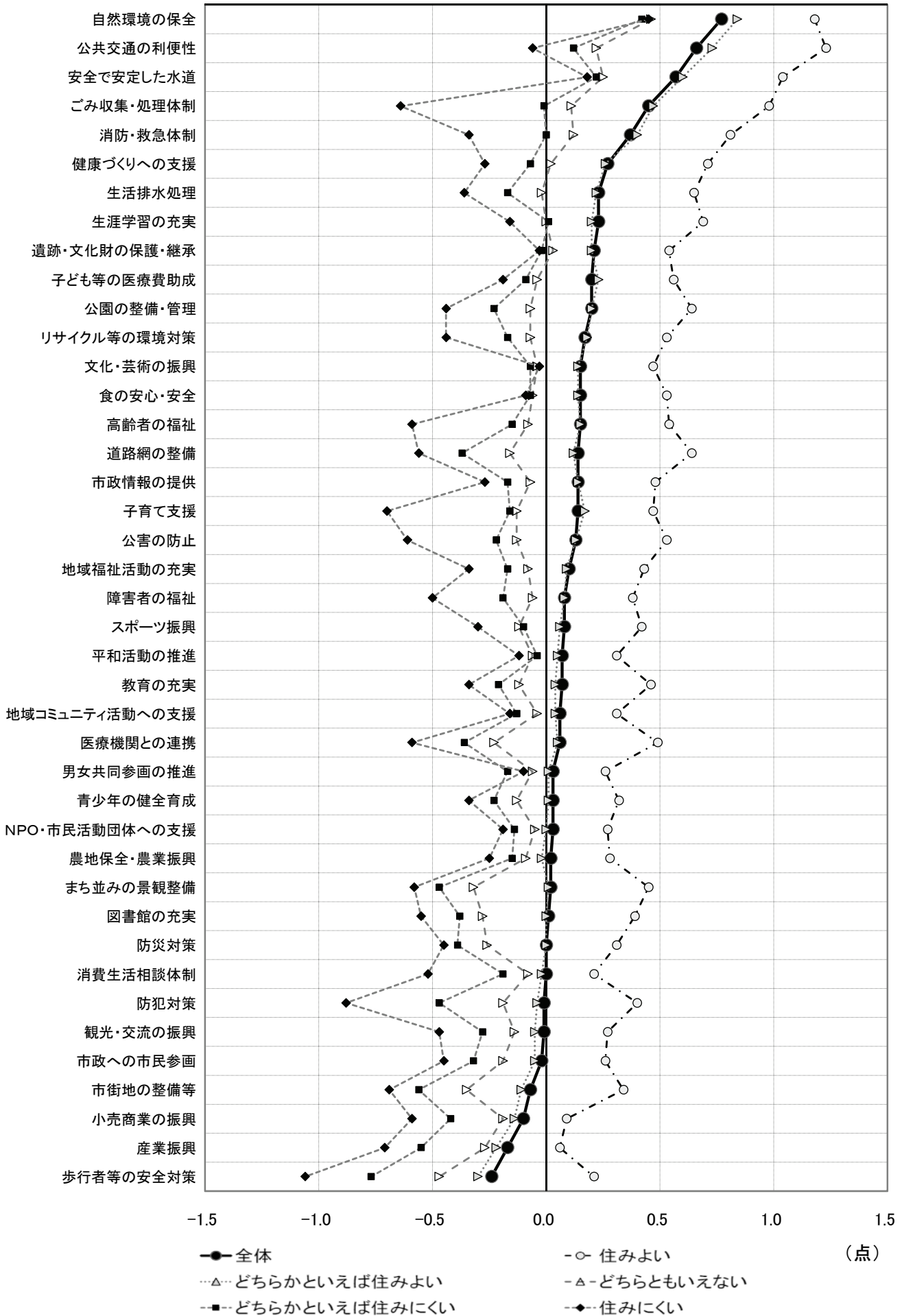


図 3-2-3 総合的な住みやすさ別「施策の満足度」



(3) 施策に対する重要度

【全体】(表 3-2-6)

- ◆41 項目すべてがプラス得点となっています。その中でも重要度が高い上位 10 項目は、表 3-2-6 のとおりです。
- ◆安全・安心や公衆衛生など暮らしの基本的な部分に関わる施策項目の重要度が高くなっています。

表 3-2-6 全体「施策の重要度」(上位 10)

順位	項目	点
1	消防・救急体制	0.98
1	防災対策	0.98
3	安全で安定した水道	0.97
4	生活排水処理	0.88
5	防犯対策	0.86
5	医療機関との連携	0.86
7	歩行者等の安全対策	0.85
8	ごみ収集・処理体制	0.82
9	子育て支援	0.81
10	公共交通の利便性	0.78

【過去調査との比較】(表 3-2-7、表 3-2-8)

- ◆前回調査の平均重要度は 0.56 点、今回調査は 0.57 点でほとんど変化はありません。前回調査との差が最大の項目で 0.17 点となっており、満足度に比べると大きな変化はありません。

表 3-2-7 「施策の重要度」(過去調査との差)(上位 10)

順位	項目	今回	前回 (平成 20 年)	差(今回-前回)
1	図書館の充実	0.46	0.29	0.17
1	スポーツ振興	0.33	0.16	0.17
3	青少年の健全育成	0.53	0.37	0.16
4	文化・芸術の振興	0.22	0.10	0.12
5	自然環境の保全	0.73	0.62	0.11
6	公共交通の利便性	0.78	0.69	0.09
6	市街地の整備等	0.53	0.44	0.09
6	まち並みの景観整備	0.44	0.35	0.09
6	道路網の整備	0.60	0.51	0.09
10	生涯学習の充実	0.27	0.19	0.08

表 3-2-8 「施策の重要度」(過去調査との差)(下位 10)

順位	項目	今回	前回 (平成 20 年)	差(今回-前回)
1	高齢者の福祉	0.78	0.93	-0.15
1	リサイクル等の環境対策	0.63	0.78	-0.15
1	食の安心・安全	0.59	0.74	-0.15
4	医療機関との連携	0.86	1.00	-0.14
5	防災対策	0.98	1.08	-0.10
6	小売商業の振興	0.42	0.49	-0.07
6	子ども等の医療費助成	0.76	0.83	-0.07
8	農地保全・農業振興	0.29	0.34	-0.05
8	市政情報の提供	0.42	0.47	-0.05
10	健康づくりへの支援	0.70	0.74	-0.04

【年齢別】(図 3-2-4)

- ◆年齢別で最も重要度の差の大きな項目は「子育て支援(差 0.71 点)」で、20 歳代が最も高く(1.19 点)、70 歳以上が最も低く(0.48 点)なっています。20 歳代や 30 歳代といった若い年齢者層における重要度は高くなっていますが、60 歳代や 70 歳以上における重要度は低くなっています。
- ◆2 番目に差の大きな項目は、「子ども等の医療費助成(差 0.69 点)」で、30 歳代が最も高く(1.13 点)、70 歳以上が最も低く(0.44 点)なっています。

【小学校区別】(図 3-2-5)

- ◆小学校区別で最も重要度の差の大きな項目は「生活排水処理(差 0.70 点)」で、岩倉南小学校区が最も高く(0.97 点)、曾野小学校区が最も低く(0.27 点)なっています。
- ◆2 番目に差の大きな項目は「歩行者等の安全対策(差 0.62 点)」で、五条川小学校区が最も高く(0.90 点)、曾野小学校区が最も低く(0.28 点)なっています。
- ◆全般的に小学校区ごとの差はわずかですが、岩倉南小学校区が全小学校区で最も重要度が高くなっている項目は、41 項目中 18 項目を占めており、岩倉南小学校区における重要度が全般的に高くなっています。
- ◆逆に、重要度の評点の値が全小学校区の中で曾野小学校区が最も低くなっている項目は 41 項目中 21 項目を占めており、曾野小学校区における重要度が全般的に低くなっています。

【総合的な住みやすさ別】(図 3-2-6)

- ◆総合的な住みやすさによって、重要度に差がみられる項目があるものの、満足度の場合とは異なり、重要度の場合、総合的な住みやすさ別の評価の違いによる大きな差はみられません。

図 3-2-4 年齢別「施策の重要度」

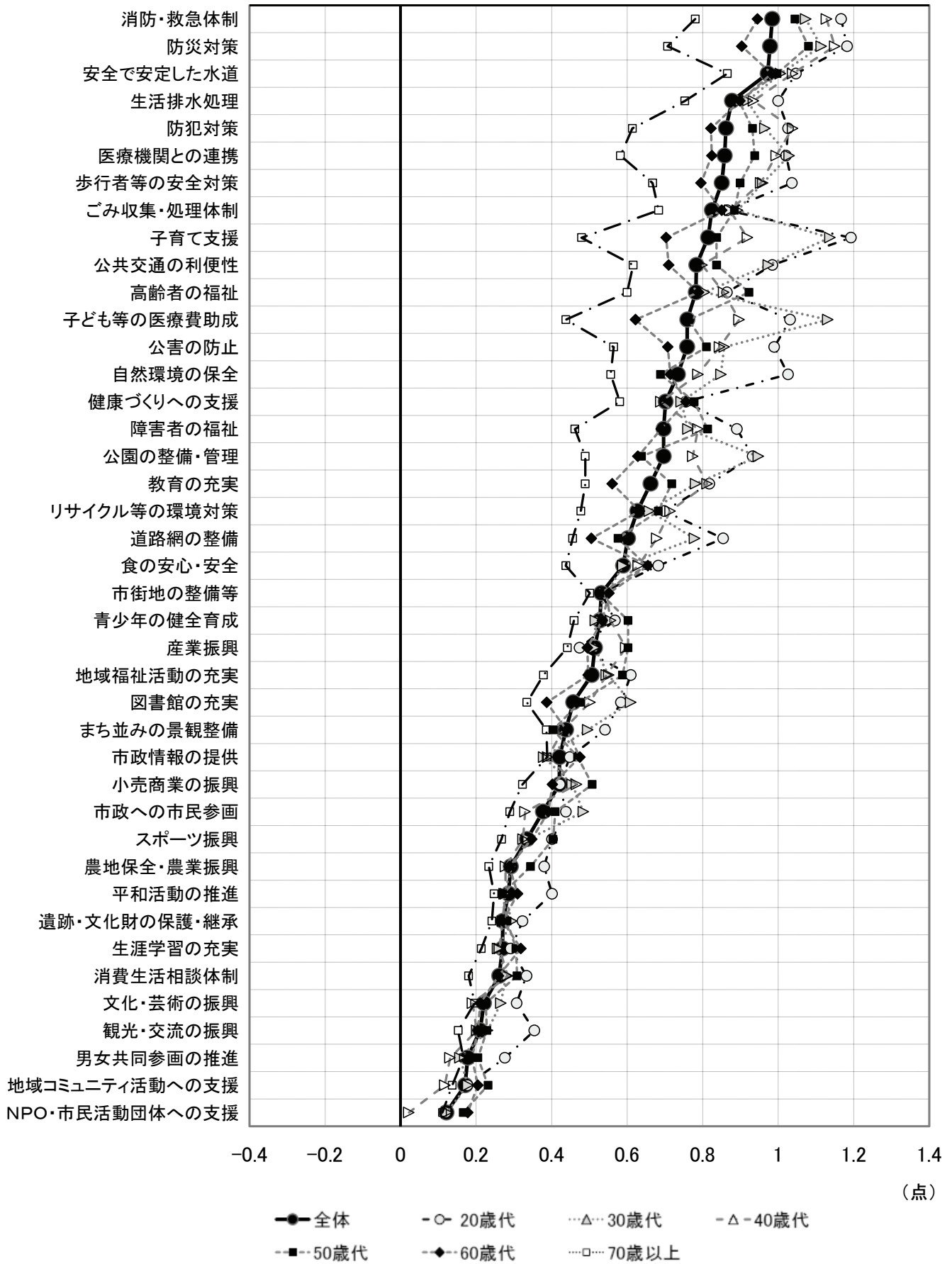


図 3-2-5 小学校区別「施策の重要度」

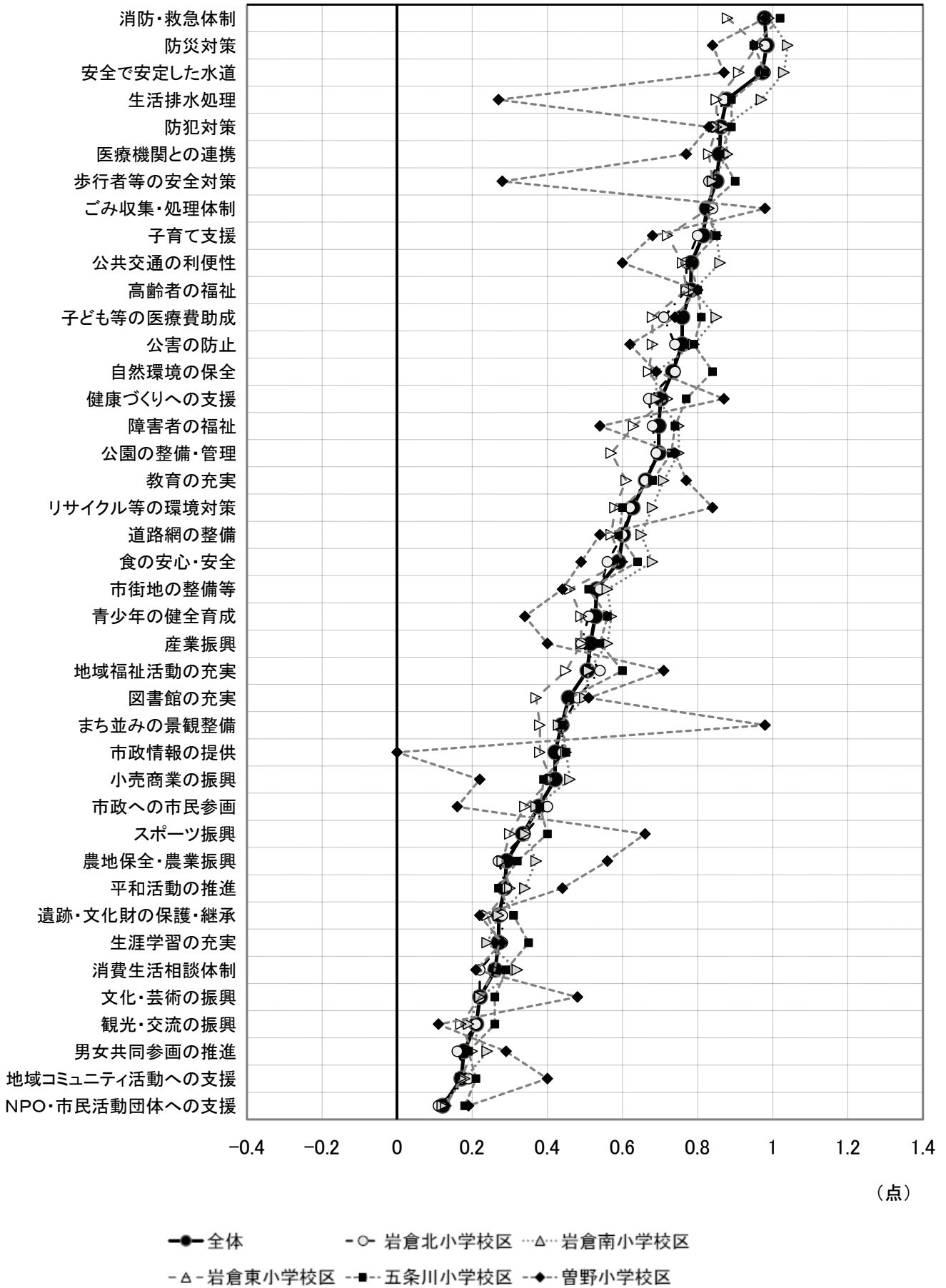
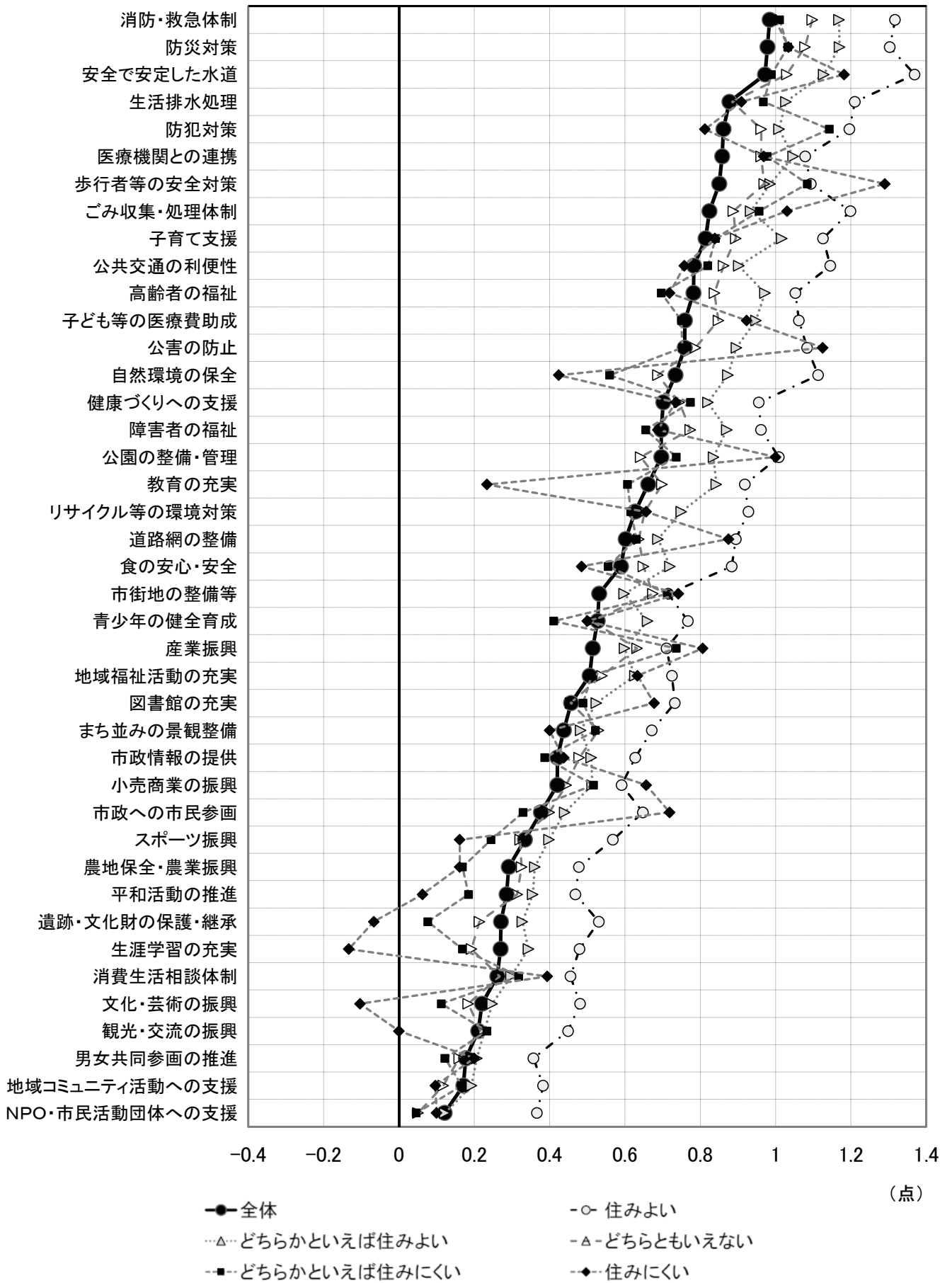


図 3-2-6 総合的な住みやすさ別「施策の重要度」



(4) 施策に対する満足度と重要度の評価(ポートフォリオ分析)

- ◆岩倉市の施策に対する市民の満足度の平均得点を横軸、重要度の平均得点を縦軸にして散布図（図 3-2-7）を作成しました。
- ◆41 項目全体の満足度の平均得点は、0.13 点となっています。散布図に示してある、0.13 点の線よりも左側にある項目は、満足度が平均よりも低い項目（相対的に満足度の低い施策項目）であり、逆に右側にある項目は平均得点よりも高い項目（相対的に満足度の高い施策項目）です。
- ◆一方、41 項目全体の重要度の平均得点は、0.57 点となっています。散布図に示してある、0.57 点の線よりも下側にある項目は、重要度が平均よりも低い項目（相対的に重要度の低い施策項目）であり、逆に上側にある項目は平均得点よりも高い項目（相対的に重要度の高い施策項目）です。
- ◆着目すべきは、満足度が低く重要度が高い項目、すなわち、当該項目について重要と考えているにもかかわらず、現状において満足していない人が多い施策項目であり、散布図の左上の領域に該当する項目です。
- ◆41 項目の重要度と満足度の差を算定したものが表 3-2-10 です。そのうちの上位 10 項目を整理すると表 3-2-9 のとおりとなります。

表 3-2-9 満足度と重要度の評価（施策の優先度）（上位 10）

順位	項目	優先度	満足度	重要度
		重要度-満足度		
1	歩行者等の安全対策 ※	1.09	-0.24	0.85
2	防災対策 ※	0.98	0.00	0.98
3	防犯対策 ※	0.87	-0.01	0.86
4	医療機関との連携 ※	0.80	0.06	0.86
5	産業振興	0.68	-0.17	0.51
6	子育て支援 ※	0.67	0.14	0.81
7	生活排水処理	0.65	0.23	0.88
8	高齢者の福祉	0.63	0.15	0.78
8	公害の防止 ※	0.63	0.13	0.76
10	障害者の福祉 ※	0.62	0.08	0.70

※はAゾーン重点改善施策項目にあたる項目を示しています。

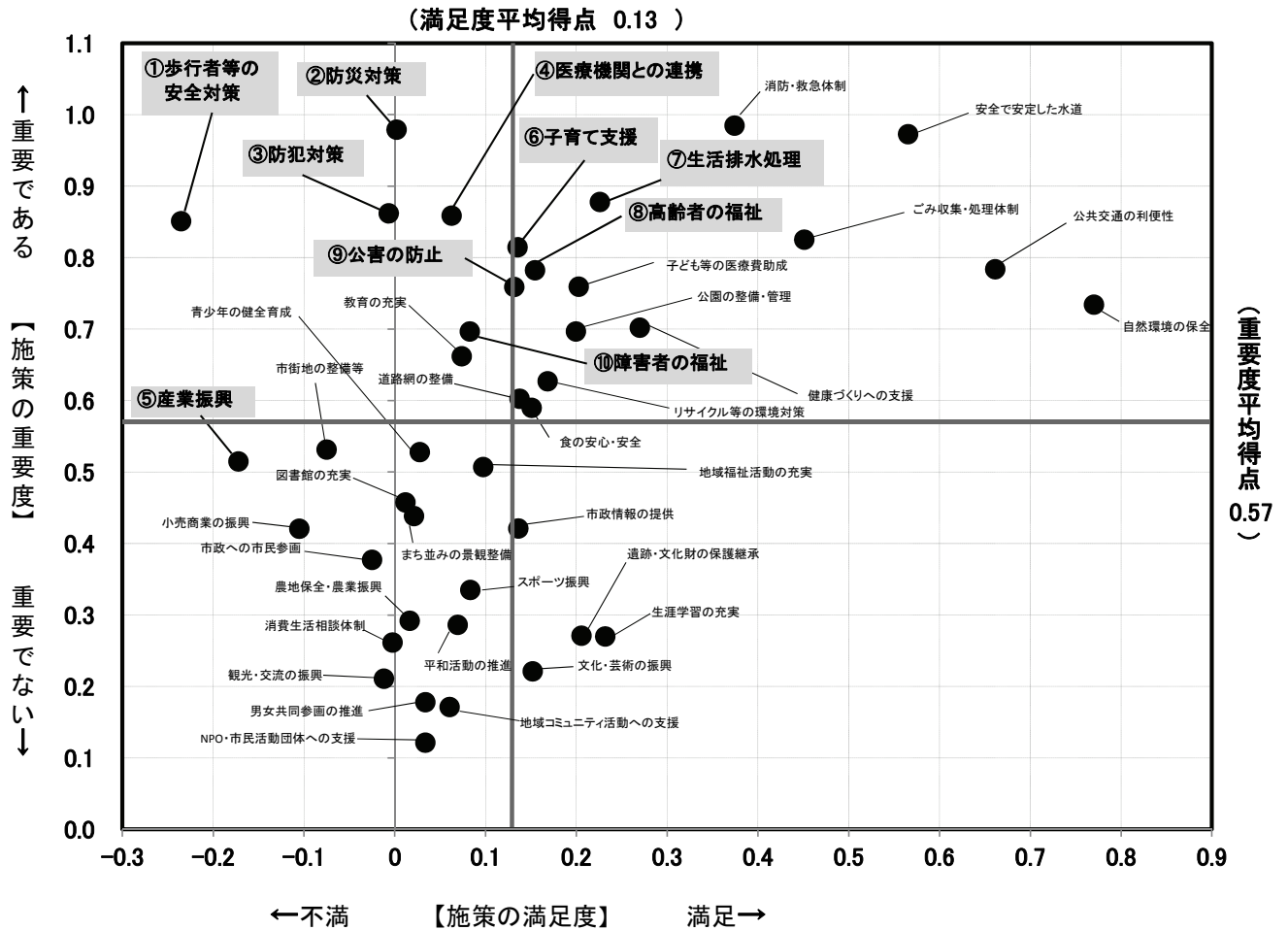
【優先度の高い施策項目】(表 3-2-10、図 3-2-7)

- ◆高齢者が被害に遭う交通事故や振り込め詐欺等の増加、南海トラフ巨大地震発生に対する不安などを背景として、安全・安心に関わる項目の優先度は高く、上位から「歩行者等の安全対策」「防災対策」「防犯対策」の順となっています。
- ◆安心に関わる項目のうち、医療・福祉分野の施策項目では、「医療機関との連携」「高齢者の福祉」「障害者の福祉」は上位 10 位以内に入っています。
- ◆さらに、「生活排水処理」「公害の防止」などの公衆衛生に関わる分野の施策項目の優先度も上位 10 位以内に入っています。

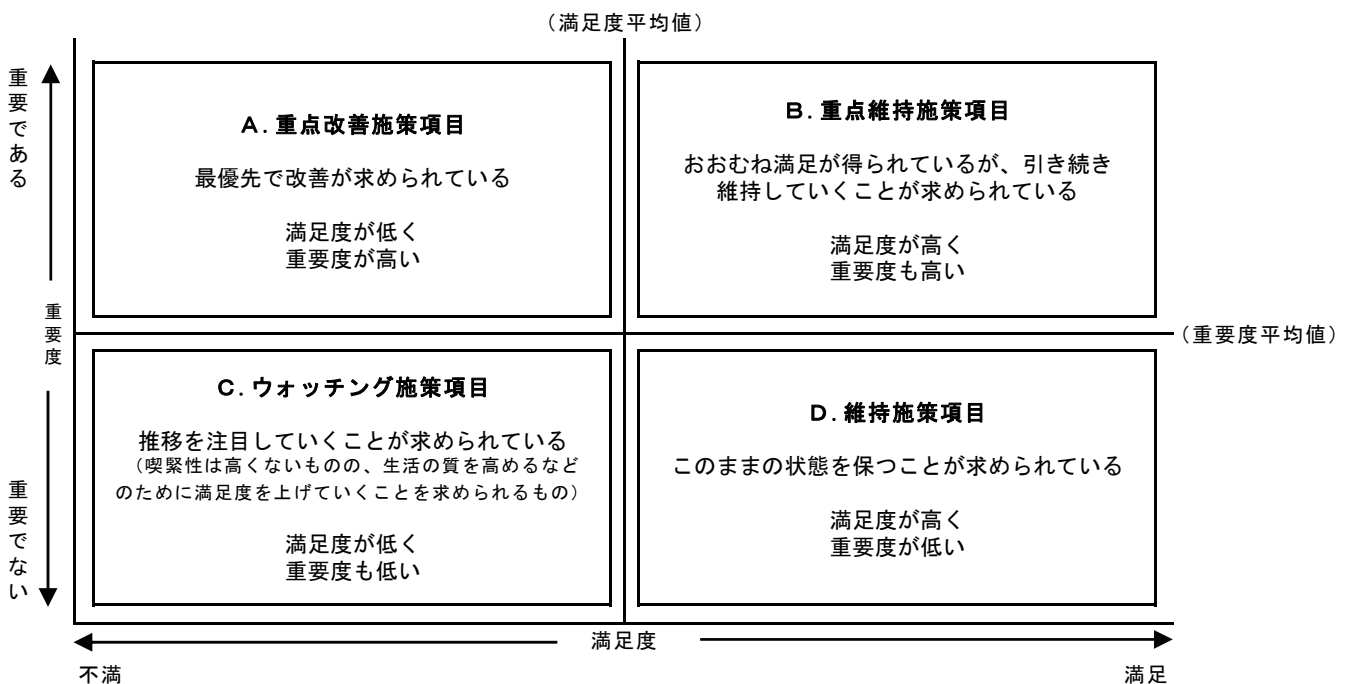
表 3-2-10 満足度と重要度の評価（施策の優先度）

項目	満足度	順位	重要度	順位	優先度		
					重要度-満足度	順位	
1	歩行者等の安全対策	-0.24	41	0.85	7	1.09	1
2	防災対策	0.00	33	0.98	2	0.98	2
3	防犯対策	-0.01	35	0.86	5	0.87	3
4	医療機関との連携	0.06	25	0.86	6	0.80	4
5	産業振興	-0.17	40	0.51	24	0.68	5
6	子育て支援	0.14	18	0.81	9	0.67	6
7	生活排水処理	0.23	8	0.88	4	0.65	7
8	高齢者の福祉	0.15	13	0.78	11	0.63	8
9	公害の防止	0.13	19	0.76	13	0.63	8
10	障害者の福祉	0.08	22	0.70	16	0.62	10
11	消防・救急体制	0.37	5	0.98	1	0.61	11
12	市街地の整備	-0.07	38	0.53	22	0.60	12
13	教育の充実	0.07	23	0.66	18	0.59	13
14	子ども等の医療費助成	0.20	10	0.76	12	0.56	14
15	小売商業の振興	-0.10	39	0.42	29	0.52	15
16	青少年の健全育成	0.03	29	0.53	23	0.50	16
17	公園の整備・管理	0.20	11	0.70	17	0.50	16
18	道路網の整備	0.14	16	0.60	20	0.46	18
19	リサイクル等の環境対策	0.17	12	0.63	19	0.46	18
20	図書館の充実	0.01	32	0.46	26	0.45	20
21	食の安心・安全	0.15	15	0.59	21	0.44	21
22	健康づくりへの支援	0.27	6	0.70	15	0.43	22
23	まち並みの景観整備	0.02	30	0.44	27	0.42	23
24	地域福祉活動の充実	0.10	20	0.51	25	0.41	24
25	安全で安定した水道	0.57	3	0.97	3	0.40	25
26	市政への市民参画の推進	-0.02	37	0.38	30	0.40	25
27	ごみ収集・処理体制	0.45	4	0.82	8	0.37	27
28	市政情報の提供	0.14	17	0.42	28	0.28	28
29	農地保全・農業振興策	0.02	31	0.29	32	0.27	29
30	消費生活相談体制	0.00	34	0.26	36	0.26	30
31	スポーツ振興	0.08	21	0.33	31	0.25	31
32	観光交流の振興	-0.01	36	0.21	38	0.22	32
33	平和活動の推進	0.07	24	0.29	33	0.22	33
34	男女共同参画	0.03	28	0.18	39	0.15	34
35	公共交通の利便性	0.66	2	0.78	10	0.12	35
36	地域コミュニティ活動	0.06	26	0.17	40	0.11	36
37	NPO・市民活動団体への支援	0.03	27	0.12	41	0.09	37
38	文化・芸術の振興	0.15	14	0.22	37	0.07	38
39	遺跡・文化財の保護継承	0.21	9	0.27	34	0.06	39
40	生涯学習の充実	0.23	7	0.27	35	0.04	40
41	自然環境の保全	0.77	1	0.73	14	-0.04	41

図 3-2-7 施策の満足度・重要度による散布図



グラフの見方



【過去調査との比較】(表 3-2-11)

◆今回調査では「産業振興」「障害者の福祉」が上位 10 位以内となり、「子ども等の医療費助成」「消防・救急体制」が上位 10 位外となりました。他の 8 項目は順位の変動はありますが、上位 10 位以内となっています。

表 3-2-11 「施策の優先度」(過去調査との差)(上位 10)

順位	項目	今回		前回 (平成 20 年)		差(今回-前回)
		順位	優先度(点)	順位	優先度(点)	
1	歩行者等の安全対策	1	1.09	3	1.16	-0.07
2	防災対策	2	0.98	1	1.31	-0.33
3	防犯対策	3	0.87	7	0.89	-0.02
4	医療機関との連携	4	0.80	2	1.20	-0.40
5	産業振興	5	0.68	16	0.72	-0.04
6	子育て支援	6	0.67	9	0.84	-0.17
7	生活排水処理	7	0.65	6	0.90	-0.25
8	高齢者の福祉	8	0.63	4	1.05	-0.42
9	公害の防止	8	0.63	8	0.89	-0.26
10	障害者の福祉	10	0.62	12	0.76	-0.14

【小学校区別】(表 3-2-12)

- ◆全体の優先度が最も高い「歩行者等の安全対策」については、すべての小学校区で最も高くなっています。
- ◆全体の優先度の順位が2位である「防災対策」については、岩倉東小学校区以外は2位となっています。
岩倉東小学校区の2位は「防犯対策」となっています。

表 3-2-12 小学校区別 満足度と重要度の評価（施策の優先度）

	全体	順位	岩倉北 小学校区	順位	岩倉南 小学校区	順位	岩倉東 小学校区	順位	五条川 小学校区	順位	曾野 小学校区	順位
歩行者等の安全対策	1.09	1	1.00	1	1.08	1	1.11	1	1.17	1	1.16	1
防災対策	0.98	2	0.94	2	0.99	2	0.82	3	0.99	2	1.12	2
防犯対策	0.87	3	0.80	4	0.84	3	0.83	2	0.92	3	0.99	3
医療機関との連携	0.80	4	0.84	3	0.80	4	0.66	4	0.74	6	0.85	4
産業振興	0.68	5	0.69	5	0.72	7	0.58	5	0.75	5	0.70	7
子育て支援	0.67	6	0.65	6	0.76	5	0.55	8	0.68	9	0.74	6
生活排水処理	0.65	7	0.58	10	0.61	13	0.34	24	0.81	4	0.83	5
高齢者の福祉	0.63	8	0.62	7	0.69	9	0.54	10	0.58	11	0.67	10
公害の防止	0.63	9	0.53	13	0.75	6	0.47	15	0.72	7	0.70	8
障害者の福祉	0.62	10	0.59	9	0.70	8	0.54	9	0.61	10	0.63	14
消防・救急体制	0.61	11	0.61	8	0.58	14	0.55	7	0.68	8	0.65	11
市街地の整備	0.60	12	0.57	12	0.69	10	0.49	13	0.55	13	0.69	9
教育の充実	0.59	13	0.57	11	0.68	12	0.54	11	0.51	15	0.64	12
子ども等の医療費助成	0.56	14	0.47	17	0.69	11	0.56	6	0.55	12	0.58	15
小売商業の振興	0.52	15	0.53	15	0.51	19	0.52	12	0.50	17	0.56	16
青少年の健全育成	0.50	16	0.46	18	0.58	15	0.49	14	0.48	19	0.53	18
公園の整備・管理	0.50	16	0.48	16	0.53	17	0.28	26	0.44	21	0.64	13
リサイクル等の環境対策	0.46	18	0.42	21	0.54	16	0.35	21	0.42	24	0.52	19
道路網の整備	0.46	19	0.46	19	0.43	23	0.40	17	0.44	22	0.55	17
図書館の充実	0.45	20	0.53	14	0.43	25	0.37	20	0.46	20	0.40	25

